

**Sterling Selling and Fulfillment Foundation**



## **物流管理構成ガイド**

*バージョン 9.1*



**Sterling Selling and Fulfillment Foundation**



## **物流管理構成ガイド**

*バージョン 9.1*

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、335ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン 9.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** Sterling Selling and Fulfillment Foundation  
Logistics Management Configuration Guide  
Release 9.1

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.

# 目次

<b>第 1 章 概要</b> . . . . .	<b>1</b>
物流管理ビジネス・アプリケーションの導入 . . . . .	1
ビジネス・モデル . . . . .	1
複数事業部制コーポレーション . . . . .	2
サード・パーティー物流管理 . . . . .	2
マーケットプレイス . . . . .	2
物流管理の構成 . . . . .	3
<b>第 2 章 Applications Manager のナビゲート</b> . . . . .	<b>7</b>
Applications Manager の始動 . . . . .	7
Applications Manager のレイアウト . . . . .	7
アプリケーション・ルールのサイド・パネル . . . . .	9
作業領域 . . . . .	16
Applications Manager で使用可能なアクション . . . . .	20
Applications Manager のルックアップ機能の使用 . . . . .	21
アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示 . . . . .	21
Applications Manager にログインしているユーザーの表示 . . . . .	23
リストおよびリスト・フィルタリングの使用 . . . . .	23
日時エントリー . . . . .	24
コンテキスト・ヘルプの使用 . . . . .	25
エラーのトラブルシューティング . . . . .	25
特殊文字の使用 . . . . .	25
<b>第 3 章 アプリケーション共通運送会社サービスの構成</b> . . . . .	<b>27</b>
アプリケーション共通運送会社サービスの構成 . . . . .	27
運送会社サービス・コードの作成 . . . . .	27
運送会社サービス・コードの変更 . . . . .	29
運送会社サービス・コードの削除 . . . . .	29
運送会社配達スケジュールの作成 . . . . .	30
運送会社配達スケジュールの変更 . . . . .	32
運送会社配達スケジュールの削除 . . . . .	32
<b>第 4 章 アプリケーション共通の運送会社の付加サービスの構成</b> . . . . .	<b>33</b>
アプリケーション共通の運送会社の付加サービスの構成 . . . . .	33
運送会社の付加サービス・コードの作成 . . . . .	33
運送会社の付加サービス・コードの変更 . . . . .	34
運送会社の付加サービス・コードの削除 . . . . .	35
<b>第 5 章 アプリケーション共通物流管理ルールの構成</b> . . . . .	<b>37</b>
アプリケーション共通物流管理ルールの構成 . . . . .	37
物流管理ルールの作成 . . . . .	37
<b>第 6 章 輸送の構成</b> . . . . .	<b>39</b>

輸送の構成 . . . . .	39
アクティビティ・コードの作成 . . . . .	39
アクティビティ・コードの変更 . . . . .	40
アクティビティ・コードの削除 . . . . .	41
<b>第 7 章 ドキュメントの変更理由の構成</b> . . . . .	<b>43</b>
ドキュメントの変更理由の構成 . . . . .	43
変更理由の作成 . . . . .	43
変更理由の変更 . . . . .	44
変更理由の削除 . . . . .	44
<b>第 8 章 集合・混載ドキュメントの保留タイプ</b> . . . . .	<b>47</b>
集合・混載ドキュメントの保留タイプの構成 . . . . .	47
集合・混載ドキュメント: 保留タイプの作成 . . . . .	47
集合・混載ドキュメント: 保留タイプの変更 . . . . .	51
集合・混載ドキュメント: 保留タイプの削除 . . . . .	51
<b>第 9 章 集合・混載ドキュメントのパイプライン</b> . . . . .	<b>53</b>
集合・混載ドキュメントのパイプラインの構成 . . . . .	53
プロセス・タイプの詳細の定義 . . . . .	53
プロセス・タイプ・パイプラインの構成 . . . . .	53
パイプラインの決定の定義 . . . . .	54
集合・混載ドキュメント: パイプライン . . . . .	55
集合・混載ドキュメント: トランザクション . . . . .	56
集合・混載ドキュメント: ステータス . . . . .	58
集合・混載ドキュメント: 条件 . . . . .	60
集合・混載ドキュメント: アクション . . . . .	61
<b>第 10 章 ドキュメントの指示タイプの構成</b> . . . . .	<b>63</b>
ドキュメントの指示タイプの構成 . . . . .	63
指示タイプの作成 . . . . .	63
指示タイプの変更 . . . . .	64
指示タイプの削除 . . . . .	64
<b>第 11 章 集合・混載ドキュメントの料金カテゴリーの構成</b> . . . . .	<b>65</b>
集合・混載ドキュメントの料金カテゴリーの構成 . . . . .	65
料金カテゴリーの作成 . . . . .	65
料金カテゴリーに関連付けられた料金名の追加 . . . . .	66
料金カテゴリーに関連した料金名の変更 . . . . .	67
料金カテゴリーに関連した料金名の削除 . . . . .	67
料金カテゴリーの変更 . . . . .	67
料金カテゴリーの削除 . . . . .	68
<b>第 12 章 集合・混載ドキュメントのパージ条件の構成</b> . . . . .	<b>69</b>
集合・混載ドキュメントのパージ条件の構成 . . . . .	69

集合・混載伝票種別のページ条件ルールの変更	69	時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ	106
<b>第 13 章 集合・混載ドキュメントの集合・混載タイプ</b>	<b>71</b>	エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成	107
集合・混載ドキュメントの集合・混載タイプの構成	71	前提条件	107
集合・混載タイプの作成	71	初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成	108
集合・混載タイプの変更	72	トランザクション情報の定義	109
集合・混載タイプの削除	72	ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション	110
<b>第 14 章 出荷ドキュメントの保留タイプの構成</b>	<b>73</b>	非同期要求プロセッサ	110
出荷ドキュメントの保留タイプの構成	73	大/小文字を区別しないデータ・ローダー	112
保留タイプの作成	73	集合・混載ステータスの変更	113
保留タイプの変更	77	出荷ステータスの変更	115
保留タイプの削除	77	配送計画の終了	116
<b>第 15 章 集合・混載ドキュメントの停止タイプの構成</b>	<b>79</b>	集合・混載を閉じる	118
集合・混載ドキュメントの停止タイプの構成	79	積荷目録を閉じる (Close Manifest)	119
停止タイプの変更	79	オーダーを閉じる	122
<b>第 16 章 集合・混載ドキュメントの変更ルールの構成</b>	<b>81</b>	受入の完了	124
集合・混載ドキュメントの変更ルールの構成	81	出荷を閉じる (Close Shipment)	125
集合・混載ドキュメント変更タイプ	81	出荷統計の収集	127
集合・混載伝票種別の変更ルールの変更	83	追加在庫の統合	129
カスタム変更タイプの定義	84	出荷に統合	130
カスタム変更タイプの作成	84	カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)	133
カスタム変更タイプの変更	85	連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)	138
カスタム変更タイプの削除	86	派生オーダーの作成 (Create Derived Order)	139
集合・混載伝票種別の監査を必要とする変更ルールの変更	86	オーダー・インボイスの作成	141
<b>第 17 章 オーダー・ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成</b>	<b>89</b>	出荷インボイスの作成	143
オーダー・ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成	89	ESP 評価者	144
出荷変更ルールの定義	89	アイテム・ベースの割り当て	146
出荷保留タイプの定義	89	集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク	150
出荷プロセス・タイプの詳細の定義	90	在庫の照合	152
出荷プロセス・モデルの定義	90	支払集金	153
<b>第 18 章 物流管理コンポーネントの構成</b>	<b>91</b>	支払実行	156
物流管理の定義	91	在庫一致の公示	158
運賃条件の定義	91	オーダー保留タイプの処理	160
出荷計画の定義	93	保留作業オーダー・タイプの処理	162
ルーティング・ガイドの作成	96	交渉の発行結果	163
ルーティング・ガイド明細の変更	98	リリース	165
ルーティング・ガイドの削除	104	出荷のルーティング	167
<b>第 19 章 時間トリガー・トランザクション参照</b>	<b>105</b>	スケジュール	169
時間トリガー・トランザクション参照	105	インボイスの送付	173
時間トリガー・トランザクションの実行	106	アイテム変更の送信	175
		顧客変更の送信	177
		オーダーの送信	178
		リリースの送信	180
		オーダー開始交渉	181
		コロニー・マップの同期化	182
		ベスト・マッチ地域の更新	184
		所有権転送サマリーの読み込み	186
		時間トリガー・ページ・トランザクション	187
		ページ方法	188
		ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成	188
		使用可能なページ	188

タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・	テンプレート・オーダー	321
トランザクション	購入オーダー	321
集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム	購入オーダー実行	321
オーダー配達タスク・キュー同期プログラム	購入オーダー交渉	322
オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同	入荷	323
期プログラム	購入オーダー受入	323
オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム	転送オーダー	323
見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プロ	転送オーダー実行	323
グラム	転送オーダー配達	323
モニター	転送オーダー受入	323
在庫状況モニター	マスター・オーダー・フルフィルメント	323
例外モニター	見積	325
在庫モニター	見積フルフィルメント	325
交渉モニター	集合・混載実行	325
強化したオーダー・モニター	一般	326
強化した見積モニター	WMS 格納	327
強化した返品モニター	WMS レイアウト定義	327
リアルタイム在庫状況モニター	WMS 在庫	327
出荷モニター	トレーラー積み付け	327
作業オーダー・モニター	タスク実行	327
<b>第 20 章 条件ビルダーの属性</b>	移動要請実行	327
条件ビルダーの属性	積荷目録作成	327
販売オーダー	超過梱包作成	328
オーダー・フルフィルメント	棚卸実行	328
オーダー交渉	パック・プロセス	329
出荷	出庫ピッキング	330
受入	VAS プロセス	331
計画済みオーダー	案件	332
計画済みオーダー実行	案件フルフィルメント	332
計画済みオーダー交渉	アイテム・ペース割り当て (IBA) オーダー	332
返品オーダー	<b>特記事項</b>	<b>335</b>
返品物流	<b>索引</b>	<b>339</b>
返品出荷		
返品受入		



---

## 第 1 章 概要

---

### 物流管理ビジネス・アプリケーションの導入

物流管理の構成のトピックの情報は、Applications Manager で IBM® Sterling Logistics Management ビジネス・アプリケーションを構成するルールおよびセットアップ構成に焦点を合わせています。この情報は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境のセットアップに Applications Manager を使用する、ハブ管理者とエンタープライズ管理者の両方を対象読者としています。さらにビジネス・アナリストも、ビジネス慣行が Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関係している場合は、その計画にこの情報を使用してください。プログラマーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本*」を参照してください。システム・インテグレーターは、外部アプリケーションと Sterling Selling and Fulfillment Foundation との統合に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

注: 読者は、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を読み、そこに詳述されている概念およびビジネス機能を理解する必要があります。

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation を実装するために必要なすべてのルールとセットアップ構成の集合であり、各ビジネス・アプリケーションに対して個別に構成を実行できる仕方で編成されています。以下のビジネス・アプリケーションは、Applications Manager 内で構成できます。

- IBM Sterling Distributed Order Management
- IBM Sterling Global Inventory Visibility
- カタログ管理
- Sterling Logistics Management
- IBM Sterling Supply Collaboration
- IBM Sterling Reverse Logistics
- IBM Sterling Warehouse Management System
- IBM Sterling Application Platform

---

### ビジネス・モデル

すべての Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーションが使用できる環境を包含する単一のビジネス・モデルはありません。したがって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境を構成する単一の方法はありません。

例えば、会社が複数事業部制コーポレーション、サード・パーティーの物流管理企業、またはマーケットプレイス・ビジネス企業と見なされているとしましょう。これらの各ビジネス・モデルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成に対して異なる概念アプローチを必要とします。

## 複数事業部制コーポレーション

複数事業部制コーポレーション・モデルは、主要な焦点が購入と販売のアクティビティを管理することであるビジネス・コーポレーションです。標準的な複数事業部制コーポレーションには、バイヤー、セラー、またはその両方が可能です。これはさらに、小売店、製造業者、またはその両方も可能です。複数事業部制コーポレーションがどのような形式を取るとしても、それは通常、消費者、小売店、販売業者、および相手先商標製造業者などの、さまざまなタイプの顧客との複数のチャネルを持ちます。

複数事業部制コーポレーション・モデルでは、各事業部は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、事業部別のトランザクションの分離と、企業レベルでのグローバルな可視性の両方が可能になります。各エンタープライズは、固有のビジネス・ルール、ワークフロー、およびトランザクション処理を構成します。

## サード・パーティー物流管理

従来のサード・パーティー物流管理会社は、倉庫保管、輸送、および委託製造などの幅広いアウトソーシング・サービスを提供します。

大規模な会社では、そのサプライ・チェーンのリアルタイム管理によって、競争上の優位性を得ることができます。この利点には、コストの削減や顧客サービスの向上が含まれます。さらに、Web ストア、ハンドヘルド・デバイス、および店舗内キオスクなどの新たな販売チャネルにより、企業がその顧客に到達する新しい方法が備えられています。このすべての結果により、フルフィルメント・プロセスの複雑さは増大しました。

サード・パーティー物流管理モデルでは、各クライアントをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、サード・パーティーの物流管理ハブは、ハブ環境内のすべてのトランザクションの可視性を持つことができますが、エンタープライズとしてセットアップされているクライアントは、それ自身のトランザクションに対してのみ可視性を持ちます。これによりサード・パーティーの物流管理ビジネスは、固有のトランザクション処理をそのクライアントに提供することができます。

## マーケットプレイス

マーケットプレイスは、バイヤーとセラーを結び付けるオンラインの仲介です。マーケットプレイスは、多くのセラーからの提供アイテムを集約したり、交換またはオークションでバイヤーとセラーをマッチングさせることで、非効率を削減します。バイヤーは、これにより購入コストを引き下げ、新規のセラーに到達するために役立つことができます。セラーは、これによりセールス・コストを引き下げ、新規顧客へのアクセスを取得できます。これは中央ロケーション、つまりハブであり、そこでは信頼された仲介者がプロシージャーとテクノロジーの両方を統合して、コストを引き下げ、バイヤーとセラーのトランザクションの効率を強化します。

マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

## 物流管理の構成

Sterling Logistics Management アプリケーションは、アプリケーション・コンソールで配送計画を作成するために使用する共通コンポーネントの集合です。

配送計画とは、1 つまたは複数の出荷地から 1 つまたは複数の出荷先に 1 つまたは複数のオーダーを配達するにあたり、必要とされる一連の移動全体を指します。配送計画は、出荷、集合・混載、出荷地、停止場所、および出荷先で構成されます。

### 出荷

出荷とは、単一の出荷者から単一の荷受人に、1 つまたは複数のオーダーおよびオーダー明細を配達することです。出荷は、複数の集合・混載および複数の配送業者により配達されることがあります。

### 集合・混載

集合・混載では、2 地点間の完全な出荷（部分的出荷は対象外）が配送されます。出荷地と出荷先はそれぞれ 1 つですが、中継地の停止場所は複数指定できます。出荷地またはすべての中継地の停止場所で、集合・混載に出荷を追加できます。ドロップオフは、集合・混載の出荷先または中継地の停止場所で可能です。

### 作成元

出荷地は、集合・混載の出荷元ノードです。

### 停止場所

停止場所は、出荷がピックアップまたはドロップオフされる任意の場所です。集合・混載には、その移動ルートを指定する停止順序が設定されます。

### 出荷先

出荷先とは、集合・混載の移動ルートの内、集合・混載内の残りの出荷がドロップオフされる最後のノードまたは住所です。

### 物流管理の構成: 運送会社サービス

「運送会社サービス」は、オーダーの出荷で運送会社で使用可能なさまざまな運送会社サービスを識別するコードの定義に使用します。運送会社サービスについて詳しくは、『アプリケーション共通運送会社サービスの構成』の章を参照してください。

### 物流管理の構成: 運送会社の付加サービス

「運送会社の付加サービス」は、オーダーの出荷および配達で運送会社で使用可能なさまざまな運送会社の付加サービスを識別するコードの定義に使用します。運送会社の付加サービスについて詳しくは、『アプリケーション共通の運送会社の付加サービスの構成』を参照してください。

## 物流管理の構成: 変更理由

「変更理由」は、変更理由 (**modification reasons**) の共通コードを定義するために使用します。これらのコードは、ユーザーにより変更が行われた理由を定義します。変更理由について詳しくは、『ドキュメントの変更理由の構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: 集合・混載実行プロセス・モデル

プロセス・タイプ・パイプライン (process type pipeline) を作成することで、集合・混載ドキュメントのビジネス・プロセス・ワークフローを定義できます。**プロセス・タイプ・パイプライン**とは、定義済みのプロセスによって集合・混載ドキュメントを手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、集合・混載の計画時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。集合・混載実行プロセス・モデルについて詳しくは、『集合・混載ドキュメントのパイプラインの構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: 指示タイプ

「指示タイプ」は、特別指示を集合・混載ドキュメントに追加するとき使用する共通コードの定義に使用します。指示タイプについて詳しくは、『ドキュメントの指示タイプの構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: 料金カテゴリー

「料金カテゴリー」は、料金カテゴリーを通じてオーダー (order) やインボイスに関連付けることができる「**料金の定義**」を定義するために使用します。これらのカテゴリーには、特定のカテゴリーの使用時に使用できる関連料金名のグループが入ります。料金カテゴリーについて詳しくは、『集合・混載ドキュメントの料金カテゴリーの構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: パージ条件

「パージ条件」は、システムから集合・混載ドキュメント関連レコードをパージするとき使用するパラメーターを定義するために使用します。パージ条件について詳しくは、『集合・混載ドキュメントのパージ条件の構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: 集合・混載タイプ

「集合・混載タイプ」は、集合・混載ドキュメント上に表示される集合・混載タイプに対してコードを定義するために使用します。集合・混載タイプについて詳しくは、『集合・混載ドキュメントの集合・混載タイプの構成』の章を参照してください。

## 物流管理の構成: 停止タイプ

「停止タイプ」は、集合・混載ドキュメント上に表示される停止タイプのコードを変更するために使用します。停止タイプについて詳しくは、『集合・混載ドキュメントの停止タイプの構成』の章を参照してください。

## **物流管理の構成: 変更ルール**

「変更ルール」は、集合・混載ドキュメントのライフサイクルで変更を行うことができるかを決定するルールを定義するのに使用します。変更ルールについて詳しくは、『集合・混載ドキュメントの変更ルールの構成』の章を参照してください。

## **物流管理の構成: 物流管理コンポーネント**

「物流管理コンポーネント (Logistics Components)」は、ビジネス・アプリケーション・モジュール全体でのさまざまな物流管理関連機能の定義に使用します。物流管理コンポーネントについて詳しくは、『物流管理コンポーネントの構成』の章を参照してください。



---

## 第 2 章 Applications Manager のナビゲート

---

### Applications Manager の始動

#### このタスクについて

Applications Manager にアクセスするには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. ブラウザーで、`http://<hostname>:<portname>/smcfs/console/start.jsp`を参照します。

ここで、

- `hostname` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのコンピューター名または IP アドレスです。
- `portnumber` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのリスニング・ポートです。

ブラウザーで「サインイン」ウィンドウが表示されます。

2. ログイン ID とパスワードを入力して「サインイン」ボタンを選択します。コンソールのホーム・ページが表示されます。
3. メニュー・バーから「構成」>「コンフィギュレーターの起動」を選択します。

Applications Manager が新しいウィンドウに表示されます。

また、エンタープライズを管理するエンタープライズ・ユーザーは、

`http://<Sterling Selling and Fulfillment Foundation installation server>/smcfs/console/login.jsp`からも Applications Manager をアクセスできます。

Applications Manager と System Management Console のモニターが両方同時に開いている状態で、いずれか一方のアプリケーションのダイアログ・ウィンドウが開いていると、もう一方のアプリケーションはそのダイアログ・ウィンドウが閉じるまでユーザー入力に応答しません。これは、Java プラットフォームのバグに起因するものです。

---

### Applications Manager のレイアウト

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を構成するために使用できるグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。さまざまな構成は、Applications Manager メニュー・バーからアクセスできる、アプリケーションと呼ばれる論理グループによって定義されます。

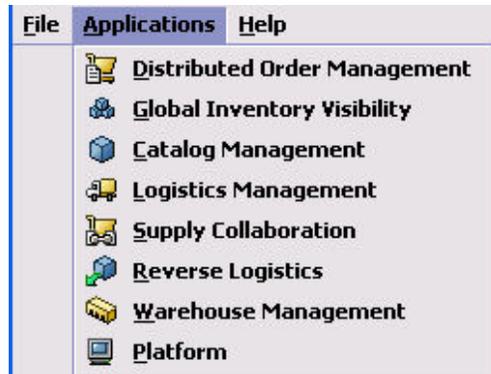


図1. アプリケーション・メニュー

各アプリケーションは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の特定の面に焦点を合わせており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実世界のビジネス設定で機能するために必要なすべてのルール、共通コード、および設定が含まれています。

以下のアプリケーションは、このバージョンの Sterling Selling and Fulfillment Foundation で構成できます。

- 分散オーダー管理
- 統合在庫管理
- カタログ管理
- 物流管理
- 供給コラボレーション
- 返品物流
- 倉庫管理
- アプリケーション・プラットフォーム

構成するアプリケーションを選択すると、Applications Manager は、選択したアプリケーションに使用できるすべての構成ルールと、それらのルールを構成できる作業領域が含まれているサイド・パネルを表示します。

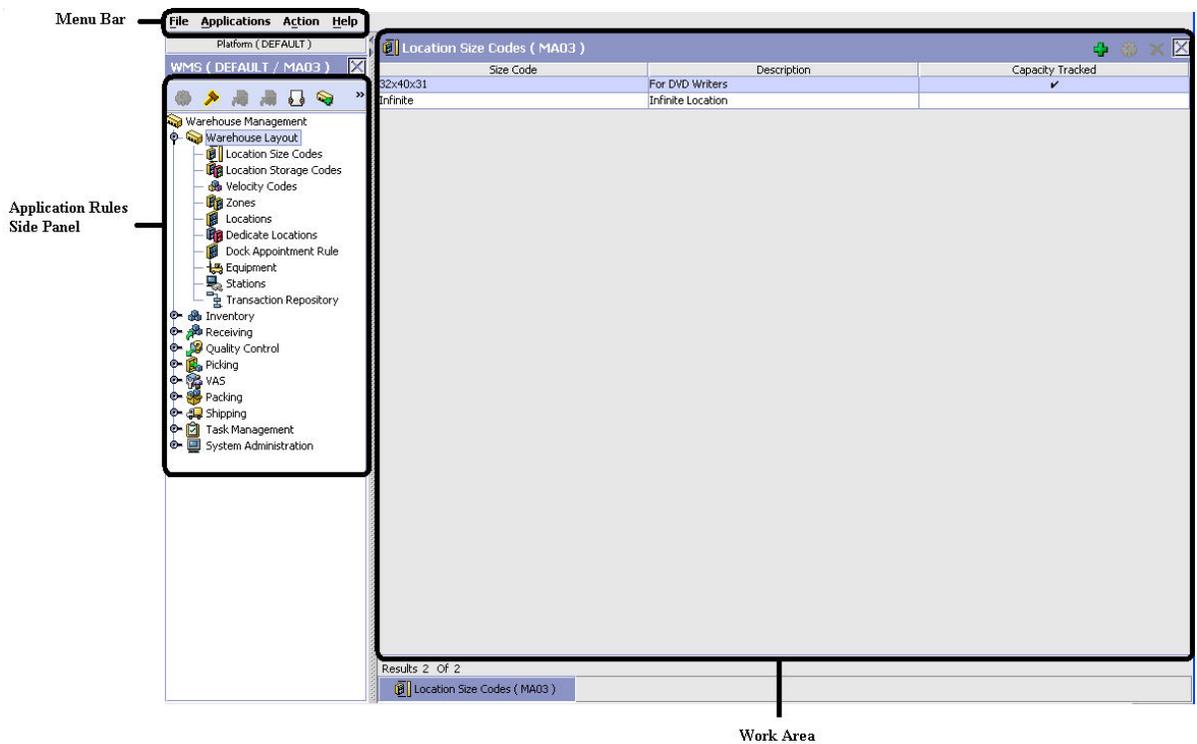


図 2. Applications Manager の標準インターフェース

## アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルは、アプリケーション内で使用されるプロセスに固有の要素を、階層ツリーで表示します。

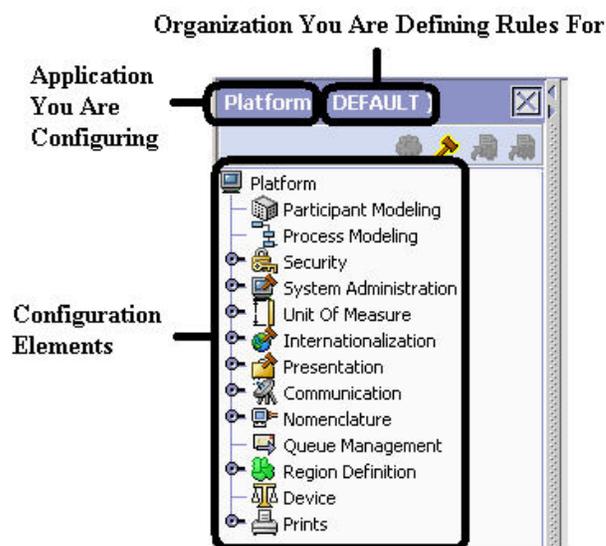


図 3. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの例

また、アプリケーション・ルール・サイド・パネルには、ルールを構成する対象となる組織と、もしあれば、別の組織から継承したルールも示されます。

アプリケーション・ルール・サイド・パネルは、構成画面へのアクセス、継承の決定、および別の組織のルールのロードに使用できます。

## 構成画面へのアクセス

アプリケーション・ルール・サイド・パネルの主な目的は、アプリケーションの個々の構成画面にアクセスするためのインターフェースを備えることです。構成画面にアクセスするには、アプリケーション・ツリーを表示して、該当する構成要素をダブルクリックすると、要素の構成画面が作業域に表示されます。

## 継承の決定

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、エンタープライズが作成されると、既存のエンタープライズの構成ルールのすべてまたは一部を継承できます。この継承は、構成グループ・レベルで実行されます。構成グループとは、類似の構成要素を分類したものです。例えば、アイテムを扱うルールと構成を、ある構成グループにまとめてグループ化し、組織を扱うすべてのルールと構成を、別の構成グループにグループ化します。

管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。別の組織のルールのロードについては、15 ページの『別の組織のルールをロード』を参照してください。

構成グループは、組織レベルに関連付けられます。組織レベルは、構成グループの継承方法と、それを保守できる組織を決定します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている組織レベルは、以下のとおりです。

- ハブ・レベル - ハブ組織に関連付けられる構成グループ。
- エンタープライズ・レベル - ハブ環境内の、個々のエンタープライズ組織に関連付けられる構成グループ。
- カタログ組織 - ハブ環境内の、カタログを保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 在庫組織 - ハブ環境内の、在庫を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 価格設定組織 - ハブ環境内の、価格設定を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 組織 - ハブ環境内の、いずれかの組織に関連付けられる構成グループ。

アプリケーション・マネージャーは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で説明されているデータ・アクセス・ポリシーに基づく構成データと許可はロードしません。

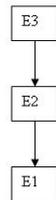
## プロセス・モデルの拡張継承

エンタープライズは、他のエンタープライズから以下のエンティティの構成を継承できます。

- パイプライン
- 外部プログラム
- サービス
- アクション
- 条件
- ステータス
- トランザクション
- イベント

エンタープライズが他のエンタープライズからこれらのエンティティを継承する場合、現在のエンタープライズは、継承の階層内の (ハブを含む) 他のすべてのエンタープライズから継承される構成を表示できます。さらに、現在のエンタープライズは、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

例えば、以下の継承の階層について考慮してみましょう。



この階層では、エンタープライズ E1 はエンタープライズ E2 から継承しており、エンタープライズ E2 はエンタープライズ E3 から継承しています。エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 とエンタープライズ E3 に対して定義されている構成を表示できます。さらに、エンタープライズ E1 は、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

## 組織レベルのルール

以下の表では、組織レベルで定義された構成グループを保守できる組織の判別に使われるルールについて、詳しく記述しています。さらにこの表は、組織の作成時に構成グループの継承方法を決定するルールを説明しています。

表 1. 組織レベルのルール

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
ハブ・レベル	ハブ組織のみが、ハブ・レベルで構成グループを変更できます。他のすべての組織は、読み取り専用アクセス権限を持ちます。	すべての組織はこの情報を共有します。

表 1. 組織レベルのルール (続き)

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
エンタープライズ・レベル	エンタープライズ組織のみが、エンタープライズ・レベルで構成グループを変更できます。  エンタープライズ構成を必要とするすべてのビジネス・トランザクションは、トランザクション・コンテキストにより設定されたエンタープライズからピックアップされます。例えば、オーダー・ドキュメントには固有のエンタープライズがあります。	エンタープライズはこの構成を別のエンタープライズから継承できます。さらに、この構成は構成グループ・レベルでオーバーライドできます。
カタログ組織	カタログ組織として指定された組織は、カタログ組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
在庫組織	在庫組織として指定された組織は、在庫組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
価格設定組織	価格設定組織として指定された組織は、価格設定組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
組織	役割 (セラー、バイヤーなど) が割り当てられている組織は、組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。

構成する組織と同じ在庫、キャパシティー、およびカタログ組織を持たないエンタープライズからは継承できません。

## アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルには、継承されているルールがグレー化されて表示されます。

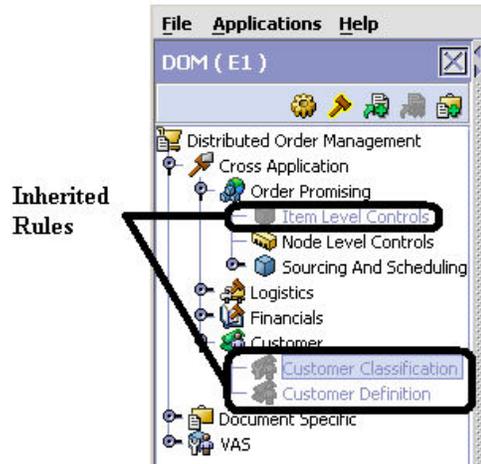


図4. アプリケーション・ルールサイド・パネルの継承済みルール

上記の表で記述されているように、ログインしている組織によっては、継承済みルールの一部をオーバーライドできる場合があります。ルールがオーバーライド可能な場合、ルールを強調表示すると、アプリケーション・ルールサイド・パネル内の「構成のオーバーライド」アイコンが使用可能になります。

#### Override Configuration Icon is Available

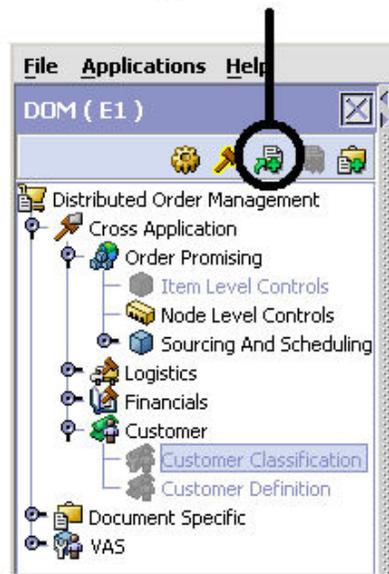


図5. 「構成のオーバーライド」アイコン

ルールのオーバーライドを選択した場合、オーバーライドするルールが関連付けられている構成グループ内の他のルールも、すべてオーバーライドされます。「構成のオーバーライド」アイコンを選択すると、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、オーバーライドされるルールが表示されます。

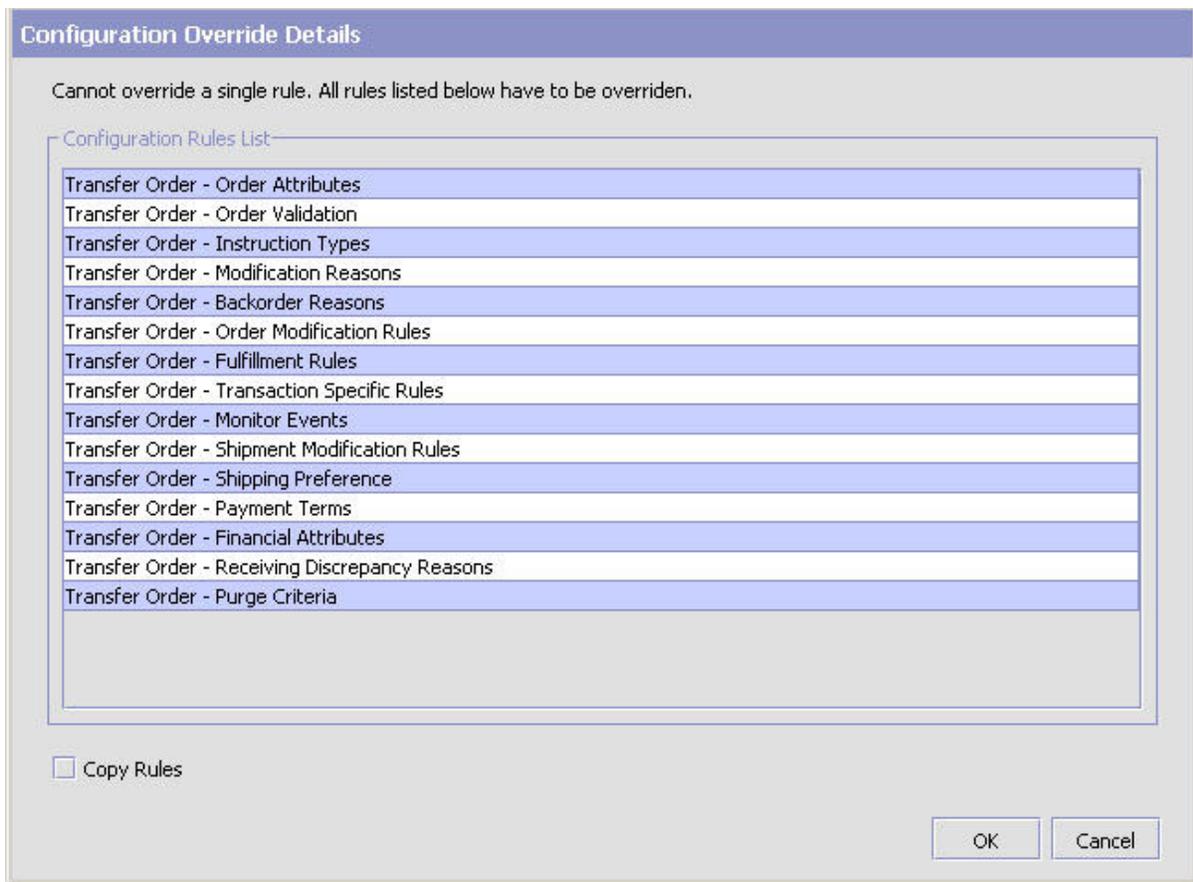


図6. 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウの例

### 構成グループのオーバーライド

構成グループをオーバーライドし、次いで元のルールを「再継承」することを決めた場合は、「構成所有権を戻す」アイコンを選択できます。このアイコンは、オーバーライドされているルールのアプリケーション・ルール・サイド・パネルで使用できます。

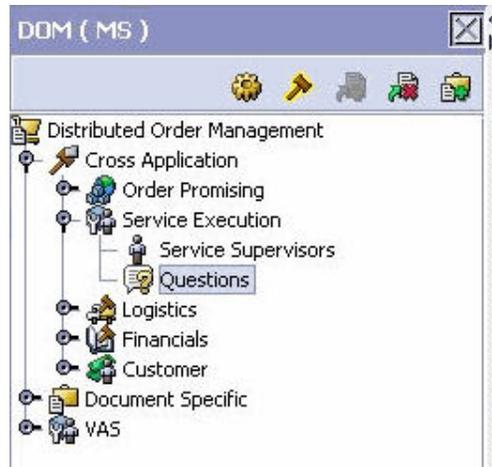


図7. 「構成所有権を戻す」アイコン

「構成所有権を戻す」アイコンを選択した場合、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウに、再継承されるルールが示されます。

注: 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウで「ルールの削除」フィールドを選択した場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻し、そこから継承したすべてのルールを保持しないことになります。このフィールドを選択しなかった場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻しますが、そこから継承したルールは保持することになります。

## 別の組織のルールをロード

### このタスクについて

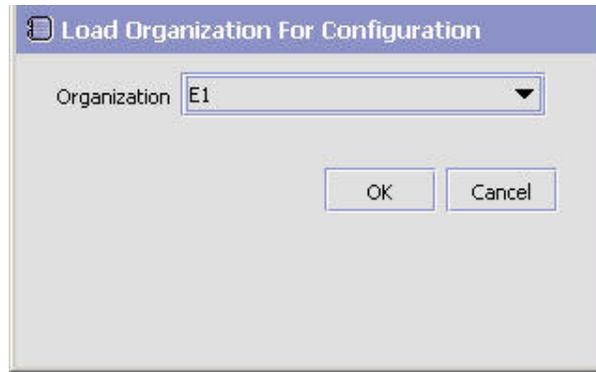
管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。管理可能な組織を判定するルールについては、11 ページの表 1 を参照してください。

アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから使用可能なルールは、選択した組織のタイプとそれが割り当てられている役割によって異なる場合があります。

別の組織のルールをロードするには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 該当するアプリケーション・ルールサイド・パネルで、 を選択します。「構成する組織のロード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「組織」で、処理対象の組織を選択します。
3. 「OK」を選択します。その組織のルールがアプリケーション・ルールサイド・パネルに表示されます。

### タスクの結果

アプリケーション・ルールのサイド・パネルで、処理対象の組織が括弧の中に表示されます。

## 作業領域

作業領域は、さまざまな構成画面が表示されるメイン領域です。作業領域に表示される画面のメイン・タイプは、検索、リスト、詳細、およびドラッグ・アンド・ドロップのウィンドウです。

### 検索ウィンドウ

「検索」ウィンドウでは、フィルタリングされた検索を行うための手段を提供します。「検索」ウィンドウの上部パネルでは、検索するエンティティーに適用可能な条件を提供し、検索を絞り込むことができます。検索を実行すると、下部パネルに検索結果がリストされます。

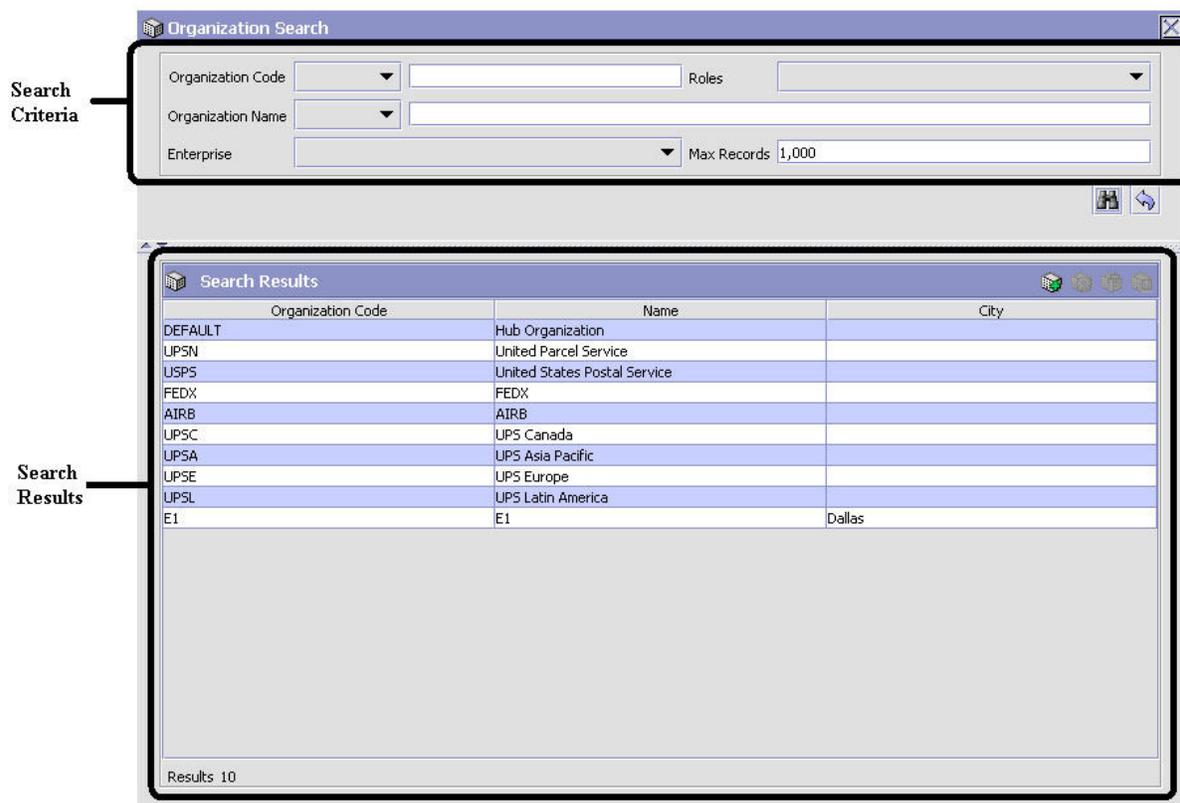


図 8. 「検索」ウィンドウ例

## リスト・ウィンドウ

検索を必要としない特定のルールまたはコードを構成することを選択すると、Applications Manager は、前に構成済みのルールおよびコードの基本リスト・ウィンドウを表示する場合があります。

Dimension UOMs ( DEFAULT )	
UOM Code	UOM Description
CM	Centimeter
FEET	Feet
IN	Inch
KM	Kilometer
METER	Meter
MILE	Mile

Results 6 Of 6

図9. リスト・ウィンドウの例

## 詳細ウィンドウ

詳細ウィンドウは、ほとんどの構成の実行に使用される、メイン・インターフェースです。詳細ウィンドウは、編集可能なフィールドとテーブル、エンティティのさまざまな特徴を構成するためのタブ、およびエンティティに対して実行可能な追加アクションを含むことができます。

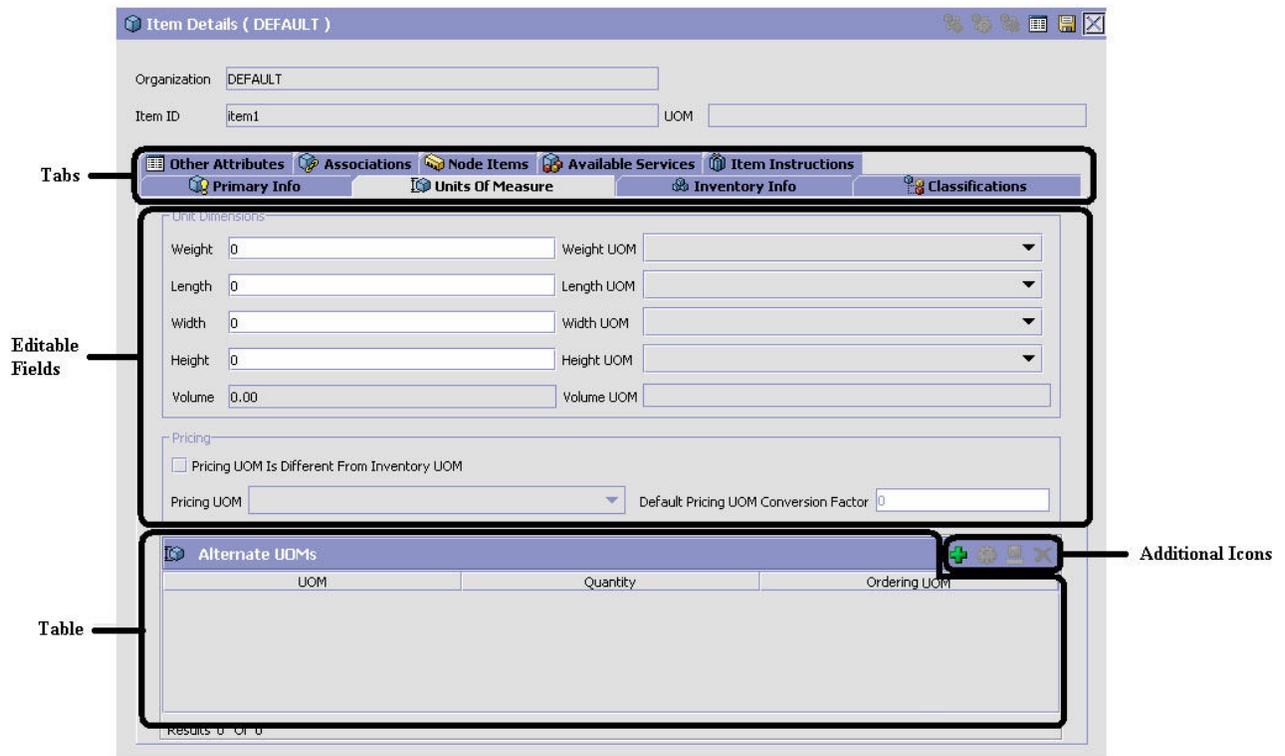
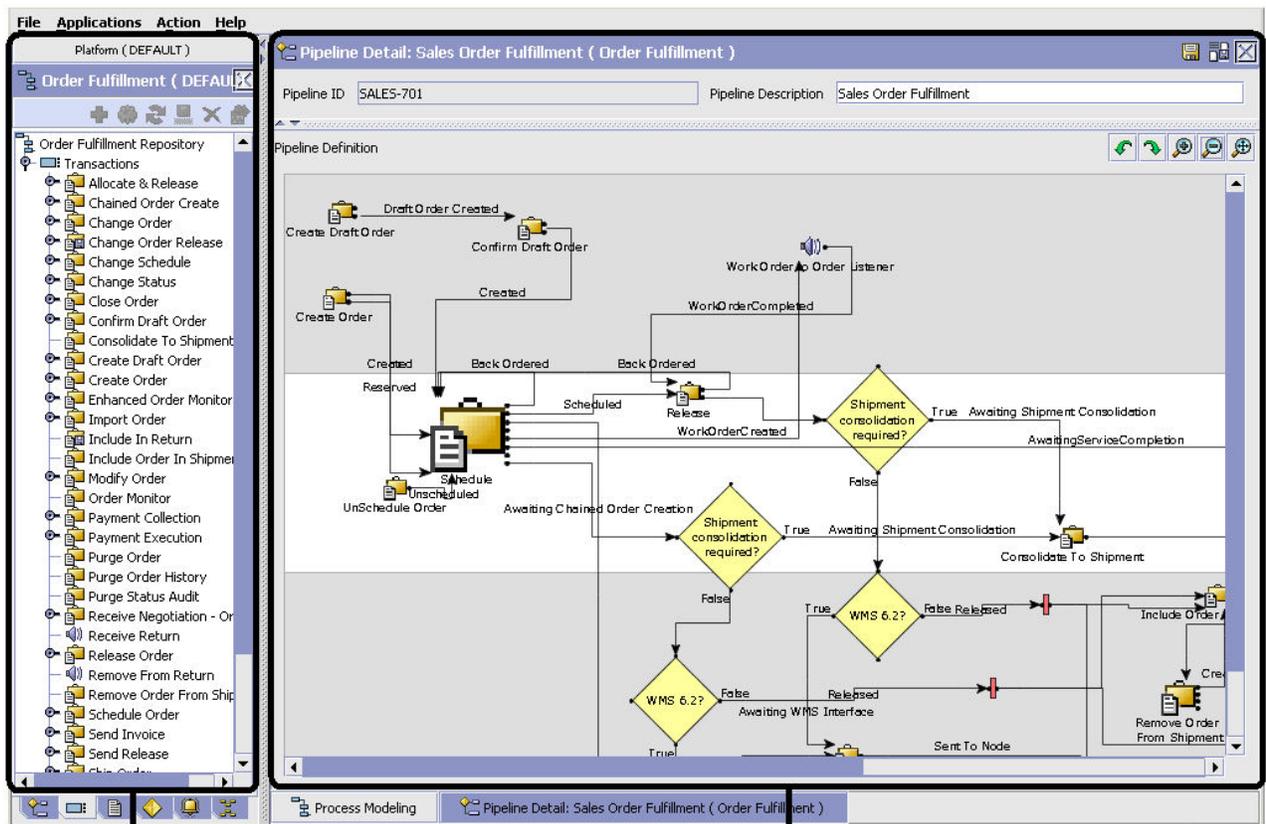


図 10. 詳細ウィンドウの例

## ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ

グラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウを使用して、パイプラインの作成、パイプラインの決定、イベント・ハンドラー、状況モニター・ルール、およびサービスを容易にできます。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウは、パレットとグラフィカル作業領域から成ります。



Pallet

Graphical Work Area

図 11. ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの例

これらのエンティティの構築を開始するには、トランザクションなどのコンポーネントをパレットから選択します。コンポーネントをグラフィカル作業領域にドラッグします。これでトランザクションが、それ自身のグラフィカル表現で表示されます。

1つのコンポーネントを別のコンポーネントに接続するには、コンポーネントの出力ポートから、別のコンポーネントの入力ポートまでマウスでドラッグして、接続ラインを形成する必要があります。コンポーネント間のリンクを、水平方向または垂直方向に設定することができます。

コンポーネントまたはリンクを削除するには、コンポーネントを右クリックして、「削除」を選択します。コンポーネントとリンクが構築されると、それらを任意の場所にドラッグして移動し、その位置に従って自動的にリンクを再描画することができます。Ctrl キーを押したままコンポーネントをドラッグすると、グラフィカル作業領域内でコンポーネントがコピーされます。

## Applications Manager で使用可能なアクション

Applications Manager では、検索機能の使用、ログイン・ユーザーの表示、リストとリスト・フィルタリングの使用、コンテキスト・ヘルプの使用、エラーのトラブルシューティング、および特殊文字の使用が可能です。

## Applications Manager のルックアップ機能の使用

Applications Manager 全体で、ルックアップ機能があるフィールドが多数あります。ルックアップ機能は、このフィールドに属する追加レコードの検索や作成を行うための機能です。例えば、「組織の詳細情報」画面の「主要情報」タブで、「ロケール」フィールドには、画面から新規ロケールを作成するためのルックアップ機能があります。「新規作成」ルックアップ・ボタンを選択すると、ユーザーが変更するロケールの詳細情報がポップアップ画面に表示されます。



図 12. ルックアップ・アイコンの例

ルックアップ・フィールドに表示される情報は、その特定フィールドに属するレコードの数により変わります。レコード数が 20 以下の場合、ルックアップは「新規作成」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。レコード数が 21 から 75 の場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。

レコード数が 75 より多い場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたテキスト・ボックスとして表示されます。値をテキスト・ボックスに入力するか、その値を「検索」ボタンを使用して検索できます。値を入力する場合、値は保存する際に妥当性検査されます。値がドロップダウン・リストとして表示される場合、必ず表示されるとおりに値を入力する必要があります。例えば通貨ルックアップの場合、通貨コードがテーブルに保存されるとしても、通貨の説明をテキスト・ボックスに入力する必要があります。ユーザーが誤った値を入力した場合、保存時にエラーが表示されます。

Applications Manager 内で特定のフィールドに対してルックアップを使用する場合、本書の対応するセクションを参照して、特定の情報をセットアップする必要があります。

## アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示

分散オーダー管理、供給コラボレーション、返品物流、および物流管理の構成アプリケーションで、アプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別を表示できます。販売オーダー、転送オーダー、マスター・オーダー、見積もり、および購入オーダーは、すべての伝票種別の例です。

アプリケーションの関連付けられた伝票種別を表示するには、該当するアプリケーションをメニューから開いて、 をアプリケーション・ルールのサイド・パネルから選択します。「関連付けられた伝票種別」ウィンドウでは、作業しているアプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別のリストを表示します。

Document Type	Description
0004	Template Order
0006	Transfer Order
0001	Sales Order
0007	Master Order
0015	Quote

Results 5 of 5

図 13. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウ

## 伝票種別のアプリケーションへの追加

### このタスクについて

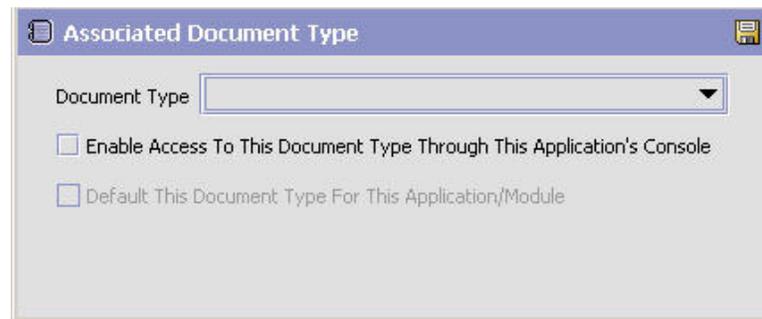
別のアプリケーションに関連付けられた伝票種別を、現在作業中のアプリケーションに追加することができます。

追加された伝票種別の関連する画面は、伝票種別を関連付けるアプリケーションに関係がない場合があります。

伝票種別をアプリケーションに追加するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウから、 を選択します。「関連付けられた伝票種別」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The dialog box titled "Associated Document Type" contains a "Document Type" dropdown menu. Below the dropdown are two checkboxes: "Enable Access To This Document Type Through This Application's Console" and "Default This Document Type For This Application/Module".

2. 「伝票種別」から、アプリケーションに関連付ける伝票種別を選択します。

3. 「このアプリケーションのコンソールを使用してこのドキュメントへのアクセスを可能にする (Enable Access To This Document Through This Application's Console)」を選択します。
4.  を選択します。

## Applications Manager にログインしているユーザーの表示 このタスクについて

Applications Manager およびそのロケールにログインしているユーザーを表示できます。この情報を表示するには、アプリケーションの右下隅にあるユーザー・アイコンおよびロケール・アイコンの上にマウスを移動して、ツールチップを表示します。

## リストおよびリスト・フィルタリングの使用 このタスクについて

Applications Manager で任意のリストを表示するときに、条件の定義に基づいてリストの内容をフィルタリングすることができます。リストの列見出しを任意の位置で右クリックし、リストに関連付けられたテーブル・フィルター・エディターを使用して、フィルタリングを行うことができます。

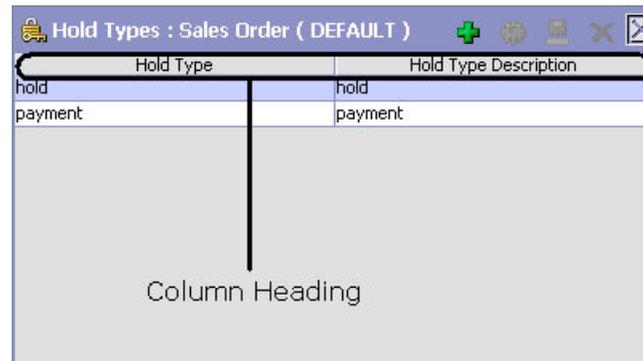


図 14. リストの列見出し

表 2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ

フィールド	説明
既存のレコードに適用	このボックスにチェック・マークを付けると、セット全体ではなく、事前にフィルタリングされた結果の新しいフィルター・セットを適用します。
最大レコード	フィルターから返されるレコードの最大数を指定します。デフォルトの数は 100 です。

表2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
動的フィールド (Dynamic Fields)	<p>図 15 の「保留タイプ」や「保留タイプの説明」のフィールドは、表示しているリストに基づいて動的に読み込まれます。</p> <p>これらのフィールドは、テキスト・STRINGと「次と同じ」、「次から始まる」、または「次を含む」などの選択条件と組み合わせて検索することができます。</p>

「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウの例:

図 15. 保留タイプ: 販売オーダー

検索STRINGでは、大/小文字が区別されます。例えば、「Item」は「item」と同じ値を返しません。

## 日時エントリー

Applications Manager のすべての日付フィールドはカレンダー・アイコンを伴っており、これを使用してそのフィールドに関する日付を検索することができます。このアイコンをクリックすると、小さなカレンダーが表示されます。このカレンダーをナビゲートして目的の日付を指定することができます。例えば「カレンダーの作成」ウィンドウでは、「デフォルトの有効終了日」フィールドがカレンダー・アイコンを伴っており、このアイコンを使用して目的の出荷予定日を確認し、フィールドに入力することができます。

図 16. カレンダー・アイコンの例

Applications Manager のどの時刻情報も、入力することもできます。これを行うには、時刻フィールドをダブルクリックして、時刻を入力します。

Shift Name	Start Time	End Time
	<input type="text"/>	

図 17. 時刻フィールドの例

どの Applications Manager の場合も、時刻は 24 時間形式で入力する必要があります。

## コンテキスト・ヘルプの使用

### このタスクについて

「ヘルプ」ボタンをクリックして、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のコンテキスト・ヘルプにアクセスします。

## エラーのトラブルシューティング

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生したエラーの説明と原因、およびトラブルシューティングするためのアクションについて表示することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のシステム・エラーの説明を表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. メニュー・バーから、「ヘルプ」>「トラブルシューティング」を選択します。「エラー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。エラー・コードのリストおよびその説明が表示されます。
3.  を選択して、エラーの原因およびトラブルシューティングするためのアクションを表示します。

## 特殊文字の使用

Applications Manager 全体で、データ入力の際に特殊文字の使用が必要なインスタンスがある可能性があります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation での特殊文字の使用については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」を参照してください。



---

## 第 3 章 アプリケーション共通運送会社サービスの構成

---

### アプリケーション共通運送会社サービスの構成

オーダーの出荷に運送会社を使用するさまざまな運送会社サービスを識別するために、コードを設定できます。

以下に示すのは、さまざまな運送会社サービス・コードの例です。

- 通常郵便
- 空路配送 (翌々日)
- 陸上

---

### 運送会社サービス・コードの作成

#### このタスクについて

運送会社サービス・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、28 ページの表 3 を参照してください。
4.  を選択します。

**Carrier Service Details**

Carrier Service Code:

Carrier Service Description:

Minimum Transit Days:

Distance Per Day:

Maximum Transit Days:

Carrier Type:

Used For Ordering

Allow Up To  Days Of Non-Transit Time For An Item

---

**Delivery Schedule List**

Effective From	Effective To
Results 0 of 0	

表 3. 「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
運送会社サービス・コード	運送会社サービスの名前を入力します。
運送会社サービスの説明	運送会社サービスの簡単な説明を入力します。
最小輸送日数	運送会社サービスが商品の配達にかかり得る最小日数を入力します。例えば、陸路配送サービスの最小輸送日数 (transit days) は 3 日です。
1 日あたりの距離	そのサービスで各輸送日に移動する最大距離を入力します。 <b>注:</b> この数値は、オーダー明細のスケジューリングに使用されます。この値は、「分散オーダー管理」>「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」の下にある「他のルール」タブで、「事前輸送時間計算を使用」フラグが選択されている場合のみ使用されます。このフィールドについては、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理構成ガイド</i> 』を参照してください。
最大輸送日数	運送会社サービスで許容される配達の最大日数を入力します。例えば、陸路配送サービスの最大輸送日数は 5 日です。
運送会社タイプ	ドロップダウン・リストから運送会社タイプを選択します。

表 3. 「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
オーダーに使用	オーダーの作成時にこの運送会社サービスを選択できるようにするには、このボックスにチェック・マークを付けます。
製品の輸送以外の時間 <> 日まで許可する	スケジュールされた配達日に配達できなかった配達を運送会社サービスが保留にする最大日数を入力します。値が入力されないと、運送会社は無期限に配達を保留にします。このオプションは出荷日を計算するために使用します。詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 製品概念の手引き」を参照してください。
配達スケジュール・リスト	選択した運送会社の配達スケジュールを表示します。このリストのスケジュールは、追加、変更、および削除できます。

## 運送会社サービス・コードの変更

### このタスクについて

運送会社サービス・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社サービス・コードを選択して、 を選択します。その運送会社の「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、28ページの表 3 を参照してください。
4.  を選択します。

## 運送会社サービス・コードの削除

### このタスクについて

運送会社サービス・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社サービス・コードを選択して、 を選択します。

---

## 運送会社配達スケジュールの作成

### このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation を使用して、運送会社の配達スケジュールを無制限に定義できます。数カ月あるいは季節など、特定の期間のスケジュールを設定し、例えば、休日のために数日のスケジュールでオーバーライドを構成できます。

例えば、運送会社が日曜日から土曜日の間に商品を輸送し、月曜日から土曜日の間に配達を行う休日スケジュールを構成できます。12 月 24 日の配達を午後 6 時から午後 4 時へ変更するなど、スケジュールに対する例外 (exception) を構成できます。

配達スケジュールを作成するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社サービス・コードを選択して、 を選択します。その運送会社の「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「配達スケジュール・リスト」ウィンドウで、 を選択します。「配達スケジュールの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、31 ページの表 4 を参照してください。
5.  を選択します。

**Delivery Schedule Details**

Effective From Date  Effective To Date

Delivers On  
 Mon  Tue  Wed  Thu  Fri  Sat  Sun

Transfers On  
 Mon  Tue  Wed  Thu  Fri  Sat  Sun

**Delivery Date Overrides**

	Override Date	Can Transfer	Can Deliver
*			

Results 0 of 0

表 4. 「配達スケジュールの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
有効開始日	この運送会社スケジュールの適用開始日を選択します。
有効終了日	この運送会社スケジュールの適用終了日を選択します。  必ず別の配達スケジュールと重複しない日付範囲を指定してください。例えば、ある配達スケジュールの日付範囲が 1 月から 6 月までの場合は、別の配達スケジュールで 5 月から 7 月までの日付範囲を指定することはできません。
配達日	この運送会社が商品を配達する曜日にチェック・マークを付けます。
転送日	この運送会社が商品を輸送する曜日にチェック・マークを付けます。
配達日オーバーライド	
オーバーライド日	運送会社の配達または輸送スケジュールをオーバーライドする日付を選択します。
転送可能日	指定されたオーバーライド日の輸送を許可するには「はい」、禁止するには「いいえ」を選択します。
配達可能日	指定されたオーバーライド日の配達を許可するには「はい」、禁止するには「いいえ」を選択します。

## 運送会社配達スケジュールの変更

### このタスクについて

運送会社配達スケジュールを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社サービス・コードを選択して、 を選択します。その運送会社の「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「配達スケジュール・リスト」から、該当する配達スケジュールを選択し、 を選択します。「配達スケジュールの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、31ページの表4を参照してください。
5.  を選択します。

## 運送会社配達スケジュールの削除

### このタスクについて

運送会社配達スケジュールを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社サービス・コードを選択して、 を選択します。その運送会社の「運送会社サービスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「配達スケジュール・リスト」から、該当する配達スケジュールを選択し、 を選択します。

---

## 第 4 章 アプリケーション共通の運送会社の付加サービスの構成

---

### アプリケーション共通の運送会社の付加サービスの構成

オーダーの出荷および配送中に運送会社を使用するさまざまな運送会社の付加サービスを識別するために、コードを設定できます。

以下に示すのは、運送会社のさまざまな付加サービス・コードの例です。

- 成人による署名が必要
- 代金引換
- 着払い
- 契約印刷返品ラベル
- 申告金額の保険
- 配達確認
- 危険物
- ピックアップの保留
- ハンドレッド・ウェイト
- オンライン・コール・タグ
- 土曜日配達
- 土曜ピックアップ
- 出荷警告
- 出荷通知
- 署名が必要
- 日曜日配達
- 口頭確認

---

### 運送会社の付加サービス・コードの作成

#### このタスクについて

運送会社の付加サービス・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社の付加サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社の付加サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、34ページの表 5 を参照してください。
3.  を選択します。

Carrier Special Services ( DEFAULT )	
Carrier Special Services Code	Description
1ZA5D	Air Service Document
1ZCOD	Collect on Delivery
ADULTSIGN	Adult Signature Required
ASD	Air Service Document
CONPRLBL	Contract Print Return Label
DECLVAL	Declared Value Insurance
DELCONF	Delivery Confirmation
HLDLFRPCKUP	Hold For PickUp
ONLCALLTAG	Online Call Tag
SATDELI	Saturday Delivery
SHPNFTY	Ship Notification
SIGNREQD	Signature Required
STDCALLTAG	Standard Call Tag
TAGLESSCOD	Tagless COD
VRBLCONF	Verbal Confirmation
*	

Results 15 Of 15

表 5. 「運送会社の付加サービス」 ウィンドウ

フィールド	説明
運送会社の付加サービス・コード	運送会社の付加サービスの名前を入力します。
説明	運送会社の付加サービスの簡単な説明を入力します。

## 運送会社の付加サービス・コードの変更

### このタスクについて

運送会社の付加サービス・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社の付加サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社の付加サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、表 5 を参照してください。

3.  を選択します。

---

## 運送会社の付加サービス・コードの削除

### このタスクについて

運送会社の付加サービス・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「運送会社の付加サービス」を選択します。作業領域に、「運送会社の付加サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する運送会社の付加サービス・コードを選択して、 を選択します。



## 第 5 章 アプリケーション共通物流管理ルールの構成

### アプリケーション共通物流管理ルールの構成

バイヤー (buyer) とセラー (seller) 間のトランザクション (transaction) は、出荷、集合・混載、および輸送の更新の作成といったような順序に従うことが予測されます。この順序に沿って行われず、バイヤーがよりランダムな順序で情報を受け取ることもよくあります。多くの場合、既存の出荷なしに出荷を集合・混載に追加することはできません。しかし、この物流ルールを使用可能にすることによって、以下に示すいくつかの出荷の固有属性を既存の出荷なしに集合・混載に追加できます。

- 出荷番号、出荷ノード、およびセラー組織コード
- BOL 番号および出荷ノード
- PRO 番号および出荷ノード

getLoadDetails API は、これらの出荷属性を集合・混載の出荷から返します。

### 物流管理ルールの作成

#### このタスクについて

物流管理ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理ルール」を選択します。「物流管理ルール」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 6 を参照してください。



表 6. 物流管理ルール

フィールド	説明
システム上で有効でない出荷の集合・混載への追加を許可	このボックスにチェック・マークを付けると、出荷がシステム内に存在しない場合でも出荷の集合・混載を作成できます。システム内で新規出荷が作成されると、この出荷が以前いずれかの集合・混載に関連付けられていたか検査され、集合・混載出荷レコードが更新されます。



---

## 第 6 章 輸送の構成

---

### 輸送の構成

容器の輸送または輸送中の更新を記録できます。これらの更新は、輸送アクティビティとして Sterling Selling and Fulfillment Foundation に定義済みのアクティビティに対して記録されます。

---

### アクティビティ・コードの作成

#### このタスクについて

アクティビティ・コードを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティ」を選択します。「アクティビティの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、40 ページの表 7 を参照してください。
3.  を選択します。

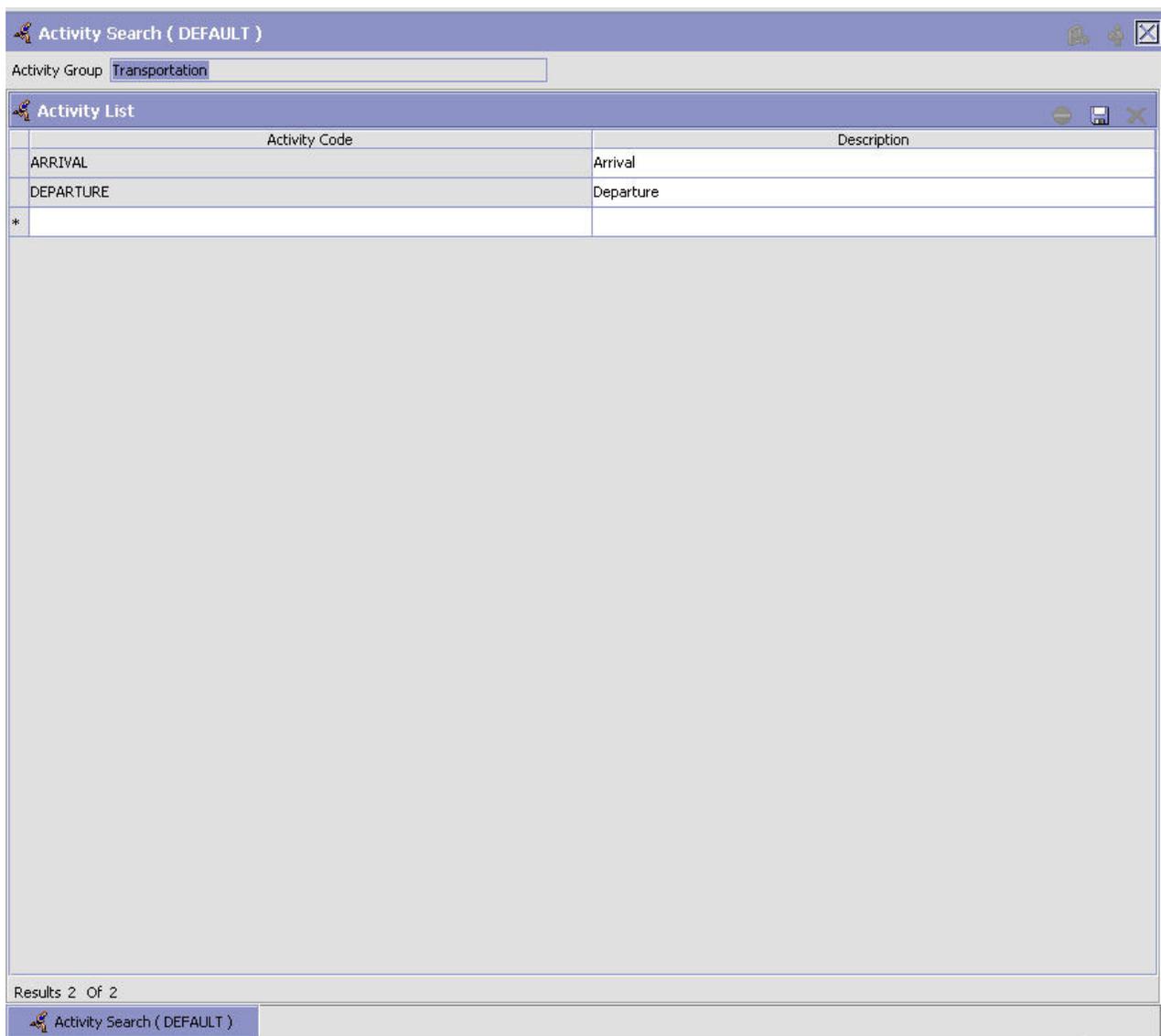


表7. 「アクティビティの検索」ウィンドウ

フィールド	説明
アクティビティ・グループ	このフィールドは、システムによって自動的に「Transportation」と入力されます。
アクティビティのリスト	
アクティビティ・コード	アクティビティ・コードの名前を入力します。  このアクティビティ・コードは、アクティビティの固有IDになります。
説明	アクティビティ・コードの短い説明を入力します。

## アクティビティ・コードの変更

### このタスクについて

アクティビティ・コードを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティ」を選択します。「アクティビティの検索」ウィンドウに、アクティビティのリストが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、40ページの表7を参照してください。
3.  を選択します。

注: Sterling WMS によって提供されたアクティビティ・コードのリストは変更しないでください。

---

## アクティビティ・コードの削除

### このタスクについて

アクティビティ・コードを削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「輸送」>「アクティビティ」を選択します。「アクティビティの検索」ウィンドウに、アクティビティのリストが表示されます。
2. 削除するアクティビティ・コードを選択します。
3.  を選択します。

注: Sterling WMS によって提供されたアクティビティ・コードのリストは変更しないでください。



## 第 7 章 ドキュメントの変更理由の構成

### ドキュメントの変更理由の構成

変更理由の共通コードを定義できます。これらのコードは、アプリケーション・コンソールでユーザーにより変更が行われた理由を定義します。

変更理由に加え、定義するコードは、アプリケーション・コンソールでオーダーを保留にしたときの保留理由として使用されます。

変更理由の作成、変更、および削除には、「変更理由」 ブランチを使用できます。

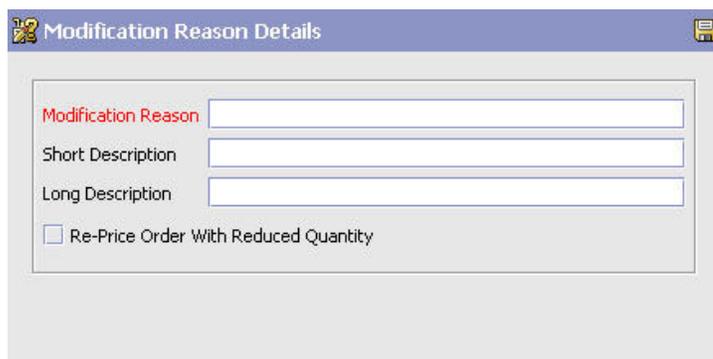
### 変更理由の作成

#### このタスクについて

変更理由を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」 > 「(伝票種別)」 > 「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「変更理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「変更理由」に、変更理由を入力します。
4. 「簡略説明」に、変更理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、変更理由の詳細な説明を入力します。
6. この変更理由で、数量が削減された場合にオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量でオーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスをチェックします。

このフラグは、この変更理由が取り消しに使用される場合のみ適用されます。取り消しでは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要があります。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調

整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この変更理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。

7.  を選択します。

---

## 変更理由の変更

### このタスクについて

変更理由を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する変更理由を選択し、 を選択します。「変更理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、変更理由の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、変更理由の詳細な説明を入力します。
5. この変更理由で、数量が削減された場合にオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量でオーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスをチェックします。

このフラグは、この変更理由が取り消しに使用される場合のみ適用されます。取り消しでは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要があります。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この変更理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。

6.  を選択します。

---

## 変更理由の削除

### このタスクについて

変更理由を削除するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する変更理由を選択し、 を選択します。



---

## 第 8 章 集合・混載ドキュメントの保留タイプ

---

### 集合・混載ドキュメントの保留タイプの構成

集合・混載ドキュメントで適用される保留タイプを構成できます。特定の保留タイプを適用することで、手動または自動のいずれかで集合・混載 (load) を保留 (hold) にできます。

---

### 集合・混載ドキュメント: 保留タイプの作成

#### このタスクについて

保留タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (集合・混載)」>「集合・混載」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「保留タイプ」に、保留タイプを入力します。
4. 「保留タイプの説明」に、保留の説明を入力します。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、48 ページの表 8、49 ページの表 9、および 50 ページの表 10を参照してください。
6.  をクリックします。

表 8. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ

フィールド	説明
<b>自動的に作成された保留</b>	
集合・混載作成時	集合・混載の作成後にこの保留タイプをすべての集合・混載に適用するには、このボックスにチェック・マークを付けます。
保留タイプの解決時	保留タイプを、別の保留タイプの解決時に適用する場合、このボックスをチェックします。ドロップダウン・リストから、この保留タイプを選択してください。 <b>注:</b> Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、保留タイプの定義が循環していないかどうかをチェックしません。例えば、保留タイプ A の解決時に適用されるよう保留タイプ B を定義し、保留タイプ B の解決時に適用されるよう保留タイプ A を定義すると、無限ループが作成される場合がありますが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれに対して警告しません。

表 8. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ (続き)

フィールド	説明
以下の変更の実行時	<p>特定の変更タイプの集合・混載に保留タイプを自動的に適用するには、このボックスにチェック・マークを付けます。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。「変更タイプ・リスト」ポップアップウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>
すべて集合・混載 (For All Loads)	<p>上記の条件をすべての集合・混載に適用する場合は、このオプションを選択します。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、作成した保留を保存した後にのみ選択できます。</p>
次の条件を満たす集合・混載のみ (Only For Loads Satisfying The Following Condition)	<p>上記の条件のある条件を満たす集合・混載に適用する場合は、このオプションを選択します。</p> <p> をクリックして、評価する条件を作成または変更します。条件ビルダーの使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>条件の使用可能な属性を拡張できます。属性の拡張について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、作成した保留タイプを保存した後に選択できます。</p>
<b>手動で作成された保留</b>	
すべてのユーザー	<p>すべてのユーザー・グループがこの保留を集合・混載に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。</p>
以下のグループに属するユーザー	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を集合・混載に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

表 9. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留解決」タブ

フィールド	説明
自動的に解決された保留	

表9. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留解決」タブ (続き)

フィールド	説明
次の時間トリガー・トランザクションにより、作成された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、作成された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
次の時間トリガー・トランザクションにより、拒否された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、拒否された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
<b>手動で解決された保留</b>	
この保留はどのユーザーでも処理可能	すべてのユーザー・グループがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。
以下のユーザー・グループに属するユーザーはこの保留の処理可能	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

表10. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留効果」タブ

フィールド	説明
この保留で以下のトランザクションの集合・混載処理が停止する (The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Loads On This Hold)	<p>保留タイプが集合・混載に適用された場合に拒否されるトランザクション。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>
この保留で以下の変更の集合・混載が拒否される (The Following Modifications Are Not Allowed For Loads On This Hold)	<p>保留タイプが集合・混載に適用された場合に拒否される変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保留タイプと関連付ける使用可能なトランザクションを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>保留タイプとの関連付けを解除するトランザクションを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

---

## 集合・混載ドキュメント: 保留タイプの変更

### このタスクについて

保留タイプは変更可能です。

保留タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (集合・混載)」>「集合・混載」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、48 ページの表 8、49 ページの表 9、および 50 ページの表 10 を参照してください。
4.  をクリックします。

---

## 集合・混載ドキュメント: 保留タイプの削除

### このタスクについて

保留タイプは削除可能です。

保留タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (集合・混載)」>「集合・混載」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。



---

## 第 9 章 集合・混載ドキュメントのパイプライン

---

### 集合・混載ドキュメントのパイプラインの構成

注: 返品フルフィルメントにはソーシング構成が必要であることに注意してください。ソーシング構成は、「分散オーダー管理」構成グループ化からアクセス可能です。ソーシングの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

集合・混載ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントには経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。

- 受入

集合・混載ドキュメントのプロセス・タイプに固有のルールとコンポーネントを構成できます。

---

### プロセス・タイプの詳細の定義

プロセス・タイプを区別するパラメーターとテンプレートを定義できます。

プロセス・タイプの詳細の定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。

---

### プロセス・タイプ・パイプラインの構成

プロセス・タイプ・パイプラインとは、販売オーダーなどの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。

#### リポジトリ

リポジトリとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリには、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション

- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。新規伝票種別の作成については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

集合・混載プロセスは、パイプラインを経てモデル化されます。これは組織に固有のプロセス構成を表します。組織は、各参加エンタープライズに対して固有のプロセスを指定する場合があります。

## パイプラインの決定の定義

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織はときには危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには 2 つの別個のパイプラインがあり、1 つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過するもので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

「パイプラインの決定」ブランチを展開表示する場合に表示されるコンポーネントは、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割でログインしている場合、「ハブ・ルール」と「マイ・ルール」の両方のコンポーネントが表示されます。該当するノードをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

注: 「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

パイプラインの決定ルールを構成するには、条件とパイプラインを作業領域にドラッグします。1 つのパイプラインまたは条件はルートでなければなりません。条件は、チェーン内の以前のコンポーネントに戻ってリンクさせることはできません。パイプラインには 2 度リンクさせることはできません。

注: オーダー・ドキュメント・タイプのパイプラインに対してパイプラインの決定を構成する場合、パイプラインの決定は、明細の追加またはオーダーの作成時のみ考慮されることに注意してください。変更がドラフト・オーダーに対して行われる場合、パイプラインの決定は行われません。

## パイプラインの決定の条件変数

パイプライン (pipeline) の決定で使用できる条件変数のリスト (list) については、条件ビルダーの属性を参照してください。

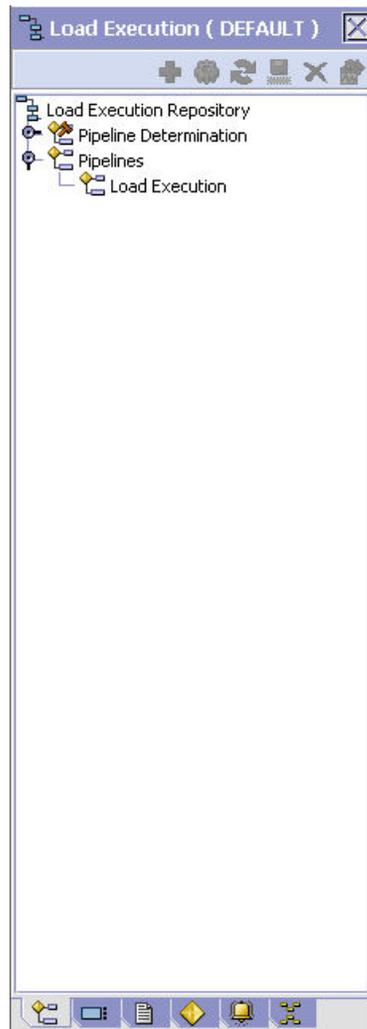
## 集合・混載ドキュメント: パイプライン このタスクについて

パイプラインの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

集合・混載実行のパイプラインの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

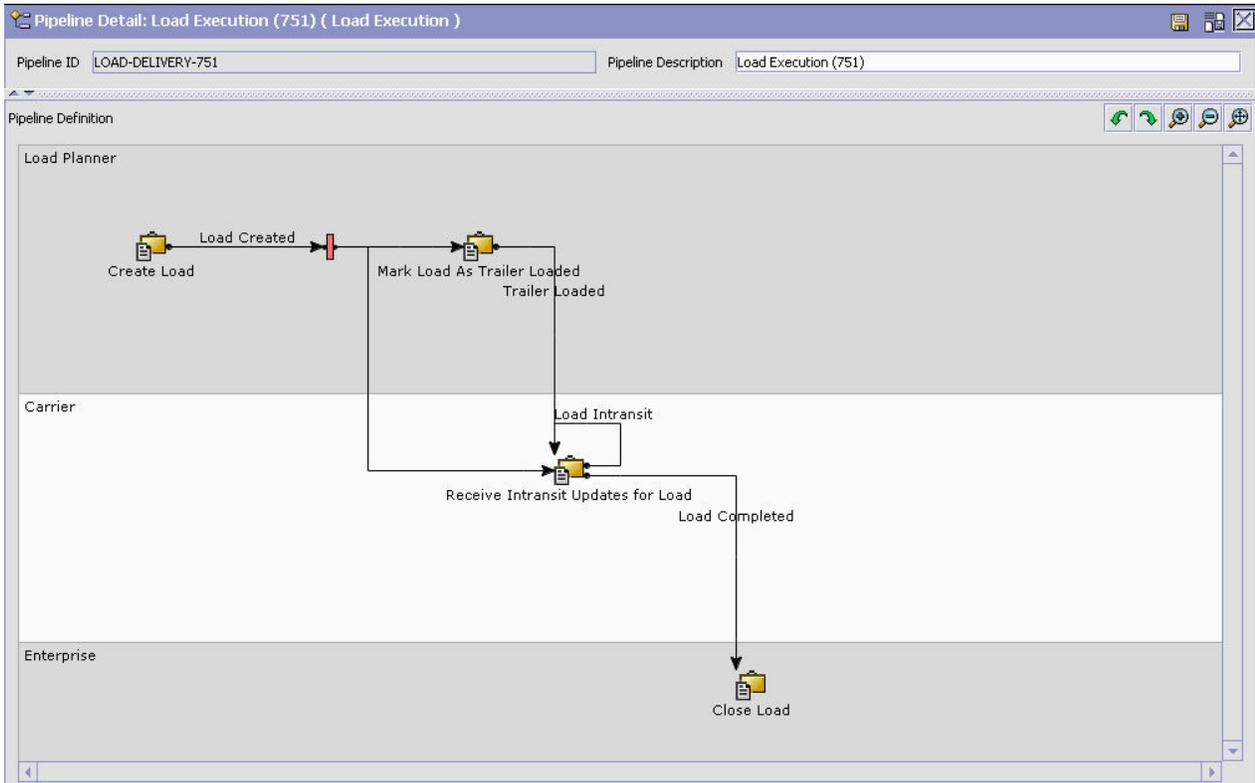
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「集合・混載実行のプロセス・モデル」を選択します。「集合・混載実行」ウィンドウが表示されます。



2. 「集合・混載実行」ウィンドウで、「集合・混載実行のリポジトリ」>「パイプライン」>「集合・混載実行」を選択します。
3. 「パイプラインの詳細: 集合・混載実行 (集合・混載実行)」ウィンドウが表示されます。

## タスクの結果

パイプラインの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。



## 集合・混載ドキュメント: トランザクション このタスクについて

各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報（プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど）を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

集合・混載実行のパイプラインに関するトランザクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「集合・混載実行のプロセス・モデル」を選択します。  
「集合・混載実行」ウィンドウが表示されます。
2. 「集合・混載実行」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「トランザクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

## タスクの結果

トランザクションの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

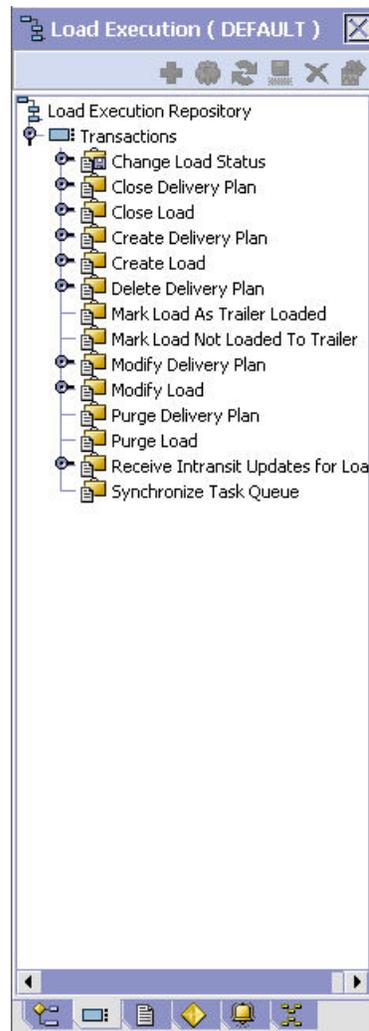


表 11. 集合・混載実行のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
集合・混載ステータスの変更	このトランザクションは、集合・混載のステータスに関する任意の変更を表します。

表 11. 集合・混載実行のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
配送計画の終了	このトランザクションは、配送計画が完了しており、システムからパージされる準備ができていることを表します。
集合・混載を閉じる	このトランザクションは、集合・混載が完了しており、システムからパージされる準備ができていることを表します。
配送計画の作成	このトランザクションは、配送計画の作成のプロセスを表します。
集合・混載の作成	このトランザクションは、集合・混載の作成のプロセスを表します。
配送計画の削除	このトランザクションは、配送計画の削除のプロセスを表します。
集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク	このトランザクションは、集合・混載に属しているすべての出荷が適切な運送会社に集合・混載されたことを示します。
トレーラー未積載の集合・混載をマーク	このトランザクションは、集合・混載が適切な運送会社に集合・混載されていないことを示します。
配送計画の変更	このトランザクションは、配送計画に追加された変更を表します。
集合・混載の変更	このトランザクションは、集合・混載に追加された変更を表します。
配送計画のパージ	このトランザクションは、システムから配送計画を削除するプロセスを表します。
集合・混載のパージ	このトランザクションは、システムから集合・混載を削除するプロセスを表します。
集合・混載の輸送中更新情報の受信	このトランザクションは、輸送中に集合・混載ステータスに関する更新情報を受け取るプロセスを表します。
タスク・キューの同期化	このトランザクションは、集合・混載実行のタスク・キューを同期させるプロセスを表します。

## 集合・混載ドキュメント: ステータス

### このタスクについて

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の 2 つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

ステータスについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

集合・混載実行のパイプラインに関するステータスの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「集合・混載実行のプロセス・モデル」を選択します。「集合・混載実行」ウィンドウが表示されます。
2. 「集合・混載実行」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「ステータス」タブ・ウィンドウが表示されます。

## タスクの結果

ステータスの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

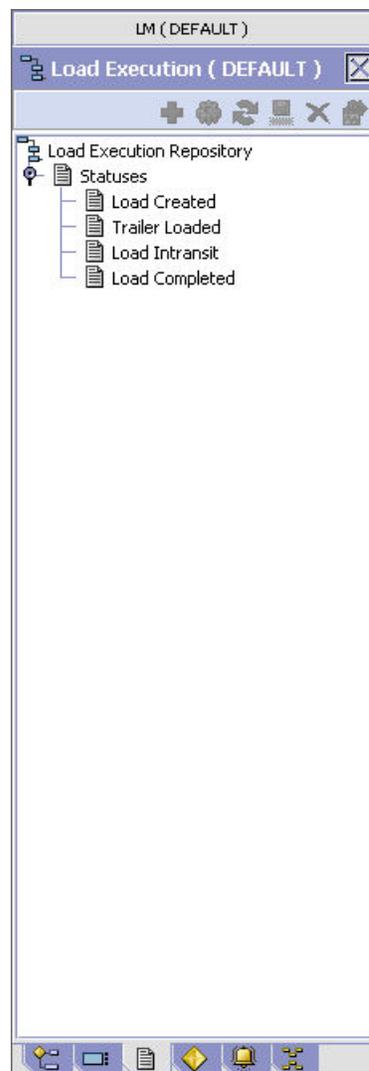


表 12. 集合・混載実行のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
集合・混載作成済み	これは、集合・混載が作成されたことを示します。

表 12. 集合・混載実行のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
トレーラー積み付け完了	これは、集合・混載が適切な運送会社に集合・混載されたことを示します。
輸送中の集合・混載	これは、集合・混載が配送計画で構成された停止場所と停止場所の間に物理的にあることを示します。
集合・混載完了	これは、集合・混載が配送計画に従って適切な停止場所または宛先に配達されたことを示します。

## 集合・混載ドキュメント: 条件

### このタスクについて

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

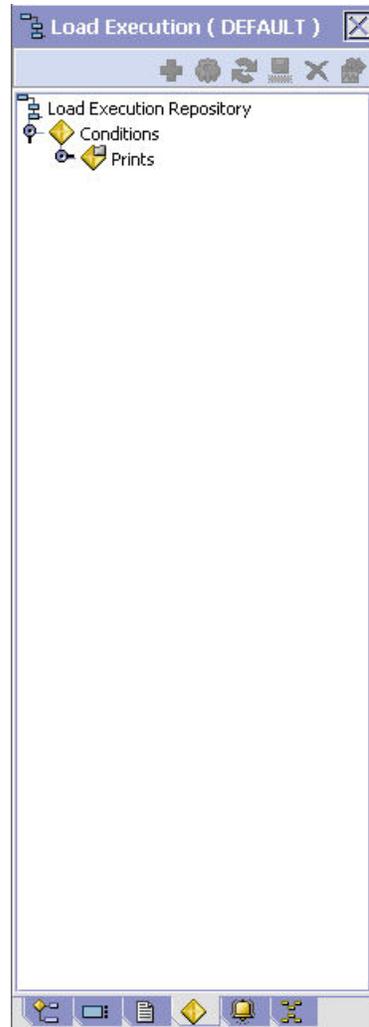
集合・混載実行のパイプラインに関する条件の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「集合・混載実行のプロセス・モデル」を選択します。「集合・混載実行」ウィンドウが表示されます。
2. 「集合・混載実行」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「条件」タブ・ウィンドウが表示されます。

### タスクの結果

条件の作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。



## 集合・混載ドキュメント: アクション このタスクについて

アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスやプログラムは、ユーザーに警告通知を送信し、問題を自動的に解決します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

アクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

出荷のパイプラインに関するアクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「集合・混載実行のプロセス・モデル」を選択します。「集合・混載実行」ウィンドウが表示されます。
2. 「集合・混載実行」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「アクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

## タスクの結果

アクションの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

---

## 第 10 章 ドキュメントの指示タイプの構成

---

### ドキュメントの指示タイプの構成

特別指示をオーダー・ドキュメントに追加するときに使用する共通コードを定義できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの指示タイプは、以下のとおりです。

- ピック
- 梱包
- 出荷
- 贈答品
- 順序付け
- その他

指示タイプの作成、変更、または削除には、「指示タイプ」ブランチを使用できます。

---

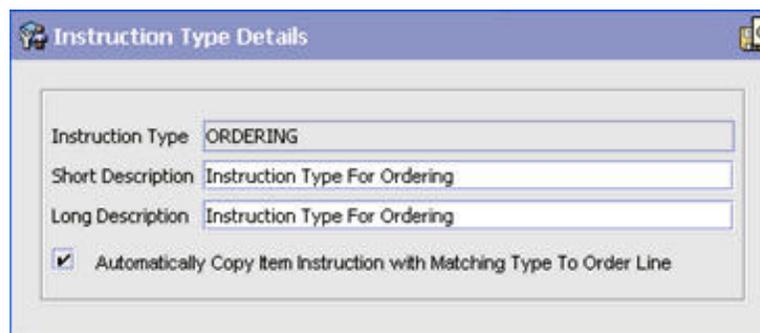
### 指示タイプの作成

#### このタスクについて

指示タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「指示タイプの詳細 (Instruction Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「指示タイプ」に、指示タイプを入力します。
4. 「簡略説明」に、指示タイプの簡単な説明を入力します。

5. 「詳細説明」に、指示タイプの詳細な説明を入力します。
6. 「指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動でコピーする」にチェックを付けて、アイテムがオーダーに追加されたときに、指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動的にコピーするようにシステムを強制します。
7.  を選択します。

---

## 指示タイプの変更

### このタスクについて

指示タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する指示タイプを選択して、 を選択します。「指示タイプの詳細 (Instruction Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、指示タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、指示タイプの詳細な説明を入力します。
5. 「指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動でコピーする」にチェックを付けて、アイテムがオーダーに追加されたときに、指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動的にコピーするようにシステムを強制します。
6.  を選択します。

---

## 指示タイプの削除

### このタスクについて

指示タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する指示タイプを選択して、 を選択します。

---

## 第 11 章 集合・混載ドキュメントの料金カテゴリーの構成

---

### 集合・混載ドキュメントの料金カテゴリーの構成

料金カテゴリーを使用して、オーダーやインボイスに関連付けることができる「料金の定義」を定義できます。これらのカテゴリーには、特定のカテゴリーの使用時に使用できる関連料金名のグループが入ります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの料金の定義は、以下のとおりです。

- 配送
- 取り扱い
- カスタマイズ
- 割引

料金の定義を使用して租税構造を作成しないでください。

---

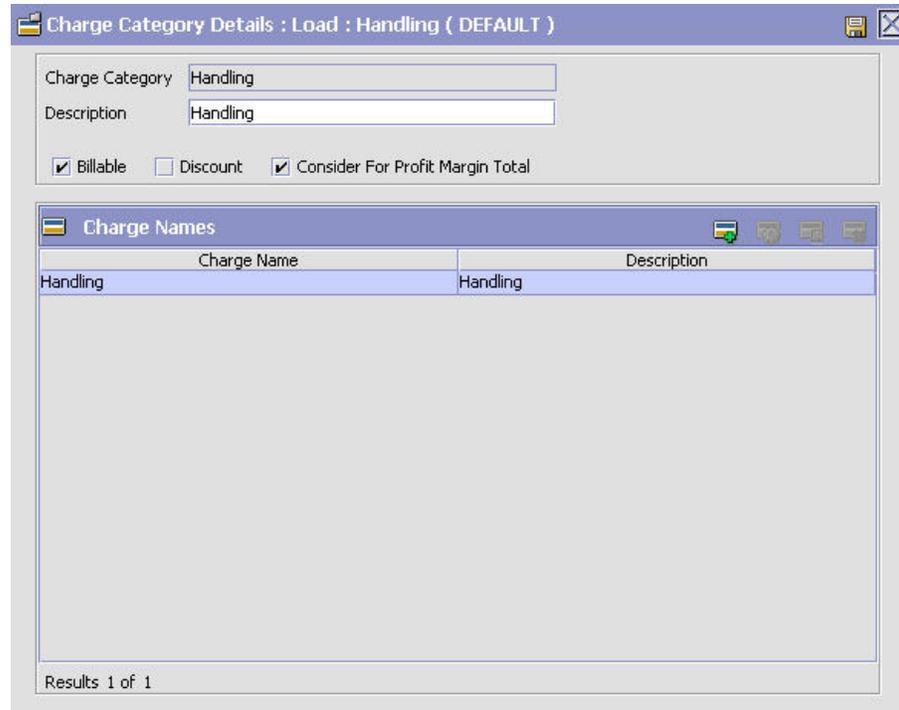
### 料金カテゴリーの作成

#### このタスクについて

料金カテゴリーを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウが表示されます。



3. 「料金カテゴリー」に、料金カテゴリーの名前を入力します。
4. 「説明」に、料金カテゴリーの簡単な説明を入力します。
5. 請求可能な料金である場合は、「請求可能」を選択します。請求不可能な料金は、オーダー合計では考慮されませんが、インボイスに表示されます。
6. 作成する料金が割引料金タイプである場合は、「割引」を選択します。
7. カテゴリーを利益率計算のために使用する必要がある場合は、「利益率合計を考慮する」を選択します。
8.  を選択します。

### タスクの結果

料金カテゴリーはローカライズできません。ローカライズについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* ローカライズ・ガイド」を参照してください。

## 料金カテゴリーに関連付けられた料金名の追加 このタスクについて

料金名は、料金の定義に含まれる実際の料金の名前です。

料金名を料金カテゴリーに追加するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで、 を選択します。「料金名の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

Charge Name Details

Charge Category Shipping

Charge Name

Description

2. 「料金名」に料金名を入力します。
3. 「説明」に、料金名の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

### タスクの結果

料金名をローカライズすることはできません。ローカライズについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* ローカライズ・ガイド」を参照してください。

## 料金カテゴリーに関連した料金名の変更

### このタスクについて

料金カテゴリーの料金名を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで、該当する料金名を選択して、 を選択します。「料金名の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 「説明」に、料金名の簡単な説明を入力します。
3.  を選択します。

## 料金カテゴリーに関連した料金名の削除

### このタスクについて

料金カテゴリーの料金名を削除するには、「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで該当する料金名を選択し、 を選択します。

---

## 料金カテゴリーの変更

### このタスクについて

料金カテゴリーを変更するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する料金カテゴリーを選択して、 を選択します。「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、料金カテゴリーの簡単な説明を入力します。
4. 請求可能な料金である場合は、「請求可能」を選択します。請求不可能な料金は、オーダー合計では考慮されませんが、インボイスに表示されます。
5. 作成する料金が割引料金タイプである場合は、「割引」を選択します。
6. カテゴリーを利益率計算のために使用する必要がある場合は、「利益率合計を考慮する」を選択します。
7.  を選択します。

---

## 料金カテゴリーの削除

### このタスクについて

料金の定義を削除するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する料金カテゴリーを選択して、 を選択します。

---

## 第 12 章 集合・混載ドキュメントのパージ条件の構成

---

### 集合・混載ドキュメントのパージ条件の構成

各タイプのパージ (purge) に関連する制限を設定できます。パージは、システム・データベースから古いデータを削除するためのプロセスです。パージは、未使用のデータベース・レコードの数を最小化することで、検索効率を高め、必要な物理ディスクのサイズを削減します。パージ条件では、デフォルトのパージ・ルールが提供されます。これらは、ご使用のシステム操作に合わせて変更できます。

表 13 では、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の集合・混載伝票種別用に提供されたパージ・ルールをリストします。

表 13. 集合・混載伝票種別のパージ・ルール

ルール	説明	保持日数
DELIVERYPLANPRG	配送計画情報をパージします。	30
LOADPRG	集合・混載情報をパージします。	30

---

### 集合・混載伝票種別のパージ条件ルールの変更

#### このタスクについて

集合・混載伝票種別のパージ条件ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「パージ条件」を選択します。作業領域に、「パージ条件」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するパージ条件ルールを選択して、 を選択します。「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、70 ページの表 14 を参照してください。
4.  を選択します。

**Purge Criteria Details**

Purge Code:  Description:

Rollback Segment:  Retention Days:

Write To Log File Log File Name:

**Additional Purge Criteria**

Line Type	Additional Retention Days
[E1 line type]	600
*	

表 14. 「パージ条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パージ・コード	パージ・プログラムを示します。これは、システム定義のコードです。
説明	パージのタイプを説明します。
ロールバック・セグメント	パージ・コードによって承認されたパージ・トランザクションで明示的に使用されるロールバック・セグメントを定義します。これは、大量の論理データ・セットをパージしなくてはならない場合に役立ちます。これはオプションで、オーダー関連のパージで使用します。
保持日数	データベース内にデータを保持する日数を入力します (プログラムの実行時からさかのぼる)。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。
ログ・ファイルに書き込む	パージされたデータをログに書き込む場合は、このフィールドを選択します。ログはバックアップして、後日ジャーナルとして使用することができます。
ログ・ファイル名	<p>ログ・ファイル名を入力します。ログ・ファイルは、yfs.properties の yfs.purge.path で指定されたディレクトリーに作成されます。変数が導入された場合は、yfs.purge.path は無視されます。ログ・ファイル・ディレクトリーに対する変数の使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>国際化対応に関するファイル名の制限については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation ローカライズ・ガイド</i>」を参照してください。</p>

---

## 第 13 章 集合・混載ドキュメントの集合・混載タイプ

---

### 集合・混載ドキュメントの集合・混載タイプの構成

集合・混載ドキュメント上に表示される集合・混載タイプに対してコードを定義できます。集合・混載は、ある地点から別の地点へ 1 つ以上の出荷 (shipment) を運搬します。

このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。

---

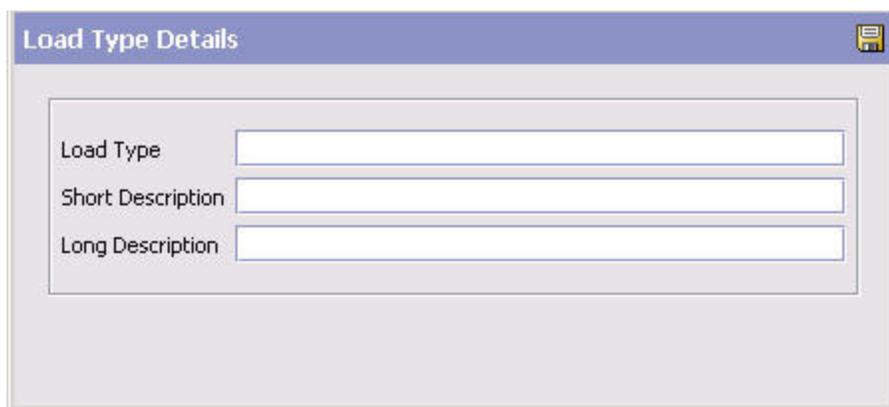
### 集合・混載タイプの作成

#### このタスクについて

集合・混載タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「集合・混載タイプ」を選択します。作業領域に、「集合・混載タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「集合・混載タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Load Type Details". It contains three text input fields stacked vertically, labeled "Load Type", "Short Description", and "Long Description". The dialog has a standard Windows-style title bar with a close button in the top right corner.

3. 「集合・混載タイプ」に、集合・混載タイプの名前を入力します。
4. 「簡略説明」に、集合・混載タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、集合・混載タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

---

## 集合・混載タイプの変更

### このタスクについて

集合・混載タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「集合・混載タイプ」を選択します。作業領域に、「集合・混載タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する集合・混載タイプを選択して、 を選択します。「集合・混載タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、集合・混載タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、集合・混載タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

---

## 集合・混載タイプの削除

### このタスクについて

集合・混載タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「集合・混載タイプ」を選択します。作業領域に、「集合・混載タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する集合・混載タイプを選択して、 を選択します。

---

## 第 14 章 出荷ドキュメントの保留タイプの構成

---

### 出荷ドキュメントの保留タイプの構成

出荷ドキュメントに適用される保留タイプを構成できます。特定の保留タイプを適用することで、手動または自動のいずれかで出荷を保留にできます。

---

### 保留タイプの作成

#### このタスクについて

保留タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (出荷)」>「販売オーダー」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「保留タイプ」に、保留のタイプを入力します。
4. 「保留タイプの説明」に、保留の説明を入力します。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、74 ページの表 15、76 ページの表 16、および 76 ページの表 17を参照してください。
6.  をクリックします。

Hold Type [ ] Hold Type Description [ ]

**Hold Creation** | **Hold Resolution** | **Hold Effects**

Hold Created Automatically

On Shipment Creation

On Resolution Of The Hold Type [ ]

When The Following Modifications Are Performed

Modification Type	Modification Level

For All Shipments

Only For Shipments Satisfying The Following Condition [ ]

Hold Created Manually

By Any User

By Users Who Belong To The Following Groups

Group ID	Group Name

表 15. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ

フィールド	説明
<b>自動的に作成された保留</b>	
出荷作成時	この保留タイプを、すべての出荷に対して出荷作成時に適用する場合、このボックスをチェックします。
保留タイプの解決時	<p>この保留タイプを、別の保留タイプの解決時に適用する場合、このボックスをチェックします。ドロップダウン・リストから、解決時にこの保留タイプを起動する保留タイプを選択します。</p> <p><b>注:</b> Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、保留タイプの定義が循環していないかどうかをチェックしません。例えば、保留タイプ A の解決時に適用されるよう保留タイプ B を定義し、保留タイプ B の解決時に適用されるよう保留タイプ A を定義すると、無限ループが作成される場合がありますが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれに対して警告しません。</p>

表 15. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ (続き)

フィールド	説明
以下の変更の実行時	<p>この保留タイプを出荷に対して自動的に適用する変更タイプについて、このボックスをチェックします。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。「変更タイプ・リスト」ポップアップウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>
すべての出荷 (For All Shipments)	<p>上に示す条件をすべての出荷に適用する場合、このオプションを選択します。</p> <p><b>注:</b> このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
次の条件を満たす出荷のみ (Only For Shipments Satisfying The Following Condition)	<p>上に示す条件を、特定の条件を満たす出荷に適用する場合、このオプションを選択します。</p> <p> をクリックして、評価する条件を作成または変更します。条件ビルダーの使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>この条件で使用可能な属性は、拡張可能です。詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
<b>手動で作成された保留</b>	
すべてのユーザー	<p>すべてのユーザー・グループがこの保留を出荷に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。</p>
以下のグループに属するユーザー	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を出荷に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

表 16. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留解決」タブ

フィールド	説明
自動的に解決された保留	
次の時間トリガー・トランザクションにより、作成された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、作成された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
次の時間トリガー・トランザクションにより、拒否された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、拒否された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
手動で解決された保留	
この保留はどのユーザーでも処理可能	すべてのユーザー・グループがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。
以下のユーザー・グループに属するユーザーはこの保留の処理可能	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

表 17. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留効果」タブ

フィールド	説明
この保留で以下のトランザクションの出荷処理が停止する (The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Shipments On This Hold)	<p>この保留タイプが出荷に適用された場合に拒否されるトランザクション。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

表 17. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留効果」タブ (続き)

フィールド	説明
この保留で以下の変更の出荷が拒否される (The Following Modifications Are Not Allowed For Shipments On This Hold)	<p>この保留タイプが出荷に適用された場合に拒否される変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この保留タイプと関連付ける使用可能なトランザクションを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。</li> <li>この保留タイプとの関連付けを解除するトランザクションを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。</li> </ul>

## 保留タイプの変更

### このタスクについて

保留タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (出荷)」>「販売オーダー」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、74 ページの表 15、76 ページの表 16、および 76 ページの表 17 を参照してください。
4.  をクリックします。

## 保留タイプの削除

### このタスクについて

保留タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (出荷)」>「販売オーダー」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。



---

## 第 15 章 集合・混載ドキュメントの停止タイプの構成

---

### 集合・混載ドキュメントの停止タイプの構成

集合・混載ドキュメント上に表示される停止タイプのコードを変更できます。停止場所は、出荷がピックアップまたはドロップオフされる場所です。

このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの停止タイプは、以下のとおりです。

- D - 宛先
- I - 中継地
- O - 出荷元

---

### 停止タイプの変更

#### このタスクについて

停止タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「停止タイプ」を選択します。作業領域に、「停止タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する停止タイプを選択して、 を選択します。「停止タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、停止タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、停止タイプの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。



## 第 16 章 集合・混載ドキュメントの変更ルールの構成

### 集合・混載ドキュメントの変更ルールの構成

大半の集合・混載伝票種別は、パイプラインを経て流れ、人の介入は必要ありません。ただし、変更が必須となる場合もあります。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、アプリケーション・コンソールによる変更をサポートします。各変更タイプ、変更レベル、およびステータスの組み合わせに対してどの変更を許可するかを決定することは重要です。

**注:** システム・デフォルトの一部として許可されていない設定をオンにする前に、ビジネスおよびシステム統合への影響について十分に考慮してください。

変更タイプは、集合・混載伝票種別に対して実行される変更のタイプを示します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、特定の属性に対して変更を実行する機能を提供します。変更タイプの例としては、集合・混載の配送計画への停止場所の追加があります。

変更レベルは、特定の変更タイプが実行されるレベルを示します。集合・混載伝票種別には、集合・混載の変更レベルがあります。変更は、特定のレベルと、特定の処理ステータ스에適用されます。

### 集合・混載ドキュメント変更タイプ

デフォルトのオーダー変更タイプおよび関連付けられた変更レベルは、以下のとおりです。

表 18. 集合・混載ドキュメント変更タイプ

変更タイプ	説明	変更レベル
指示の追加	集合・混載ドキュメントに指示を追加できます。	集合・混載
出荷の追加	集合・混載ドキュメントに出荷を追加できます。	集合・混載
停止場所の追加	集合・混載ドキュメントに停止場所を追加できます。	集合・混載
新たな日付の追加と削除	集合・混載ドキュメントに関連付けることができる新たな日付 (date) を、追加および削除できます。	集合・混載
料金の追加/削除	料金を集合・混載ドキュメントに追加したり、そこから削除したりすることができます。	集合・混載

表 18. 集合・混載ドキュメント変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
指示の変更	<p>集合・混載ドキュメントに関連付けられた指示を変更することができます。</p> <p>次の指示フィールドは、この変更タイプが許可されている場合、変更可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指示タイプ</li> <li>• テキスト</li> <li>• URL</li> </ul>	集合・混載
他の属性の変更	システムまたはユーザー定義の変更タイプが関連付けられていないフィールドを変更することができます。	集合・混載
他の関係の変更	このバージョンでは使用しません。	集合・混載
集合・混載の削除	集合・混載ドキュメントを削除できます。	集合・混載
停止場所の削除	集合・混載ドキュメントから停止場所を削除できます。	集合・混載
停止場所の変更	集合・混載ドキュメントに関連付けられた停止場所を変更することができます。	集合・混載
出荷の削除	集合・混載ドキュメントから出荷を削除できます。	集合・混載
停止場所の再シーケンス	集合・混載ドキュメントの停止場所を整理し直すことができます。	集合・混載

ウィンドウでは、「分類基準」から対応するグループ化を選択することで、変更タイプ、変更レベル、またはステータス (status) 別に変更をグループ化できます。次いで「変更ルール」ウィンドウは、階層構造で選択されたグループ化を表示します。

表 19. 集合・混載伝票種別のルール変更

フィールド	説明
ステータス	変更レベルとタイプに適用できるそれぞれのステータスを示します。
許可	指定されたステータスの変更レベルとタイプで変更を行うことができるかどうかを示します。
禁止 (Disallow)	指定されたステータスの変更レベルとタイプでは変更を行えないことを示します。
無視	指定されたステータスの変更レベルとタイプでは変更が無視されることを示します。

ユーザー・グループに対して設定したアクセス権は、構成された変更ルールをオーバーライドします。ユーザー・グループのアクセス権について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

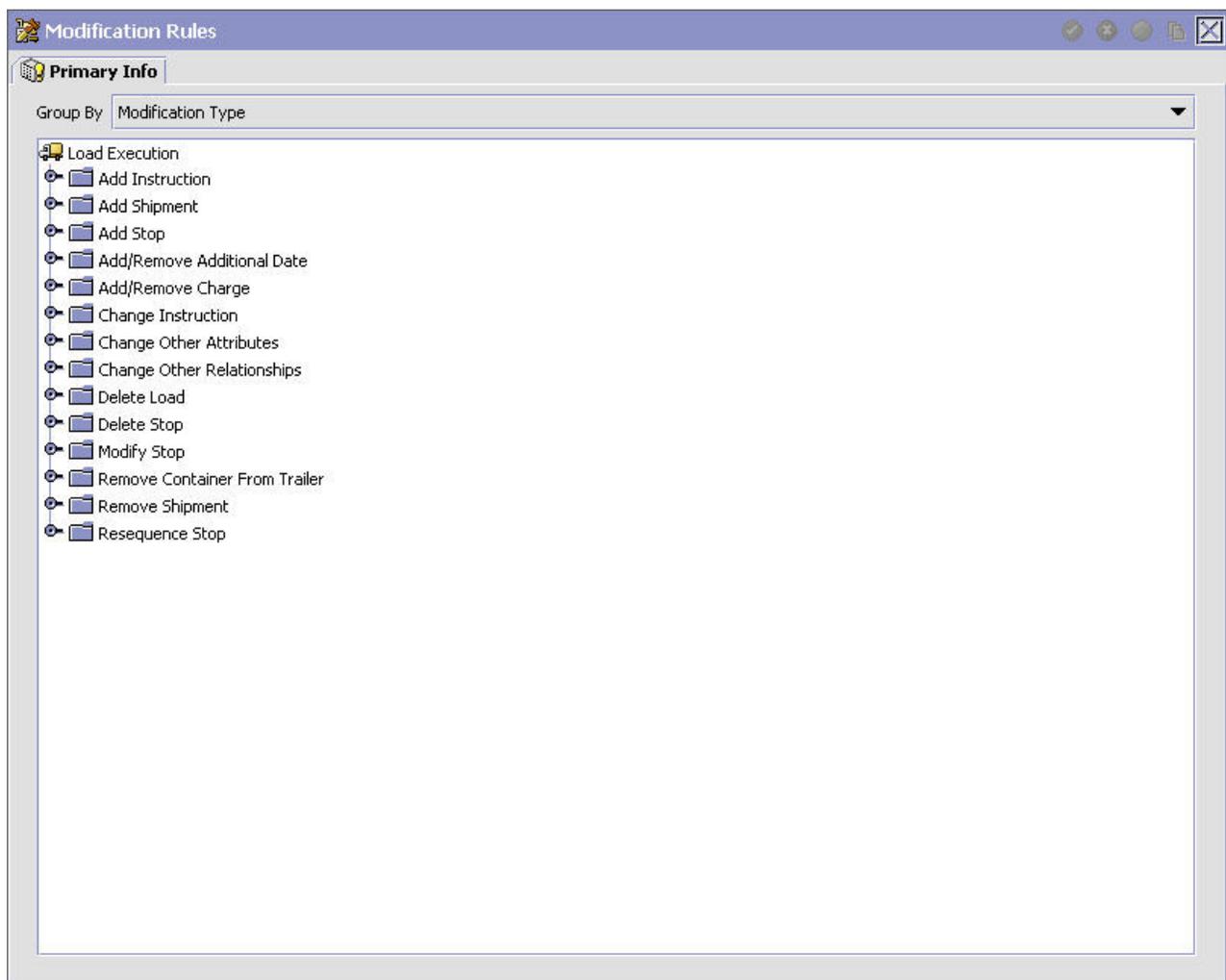
## 集合・混載伝票種別の変更ルールの変更

### このタスクについて

集合・混載伝票種別の変更ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「変更ルール」を選択します。作業領域に、「変更ルール」ウィンドウが表示されます。



2. 該当する変更タイプおよび変更レベルを展開して、ルールを設定します。
3. 該当するルールを右クリックし、ビジネスの慣習に従い、許可、禁止、または無視を選択します。フィールドの値の説明については、82 ページの表 19 を参照してください。

---

## カスタム変更タイプの定義

プロセス・タイプのカスタム変更タイプを定義できます。変更タイプの作成により、(拡張属性を含む) 特定の属性を 1 つのグループに分類することができます。そのグループに対して、それらの属性を変更できる時とできない時を決定するルールを定義できます。

作成すると、カスタム変更タイプは、定義するプロセス・タイプのビジネス・ドキュメントの変更ルールの下で表示されます。そこから、特定のステータスのカスタム変更タイプを許可、禁止、または無視するかどうかを決定できます。

カスタム変更タイプを作成、変更、および削除するには、「オーダー変更タイプ」ブランチを使用できます。

## カスタム変更タイプの作成

### このタスクについて

カスタム変更タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「カスタム変更リスト」から、 を選択します。「カスタム変更」ウィンドウが表示されます。必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、85 ページの表 20 を参照してください。
3.  を選択します。変更内容を有効にするにはアプリケーションからサインアウトする必要があることを警告するポップアップが表示されます。

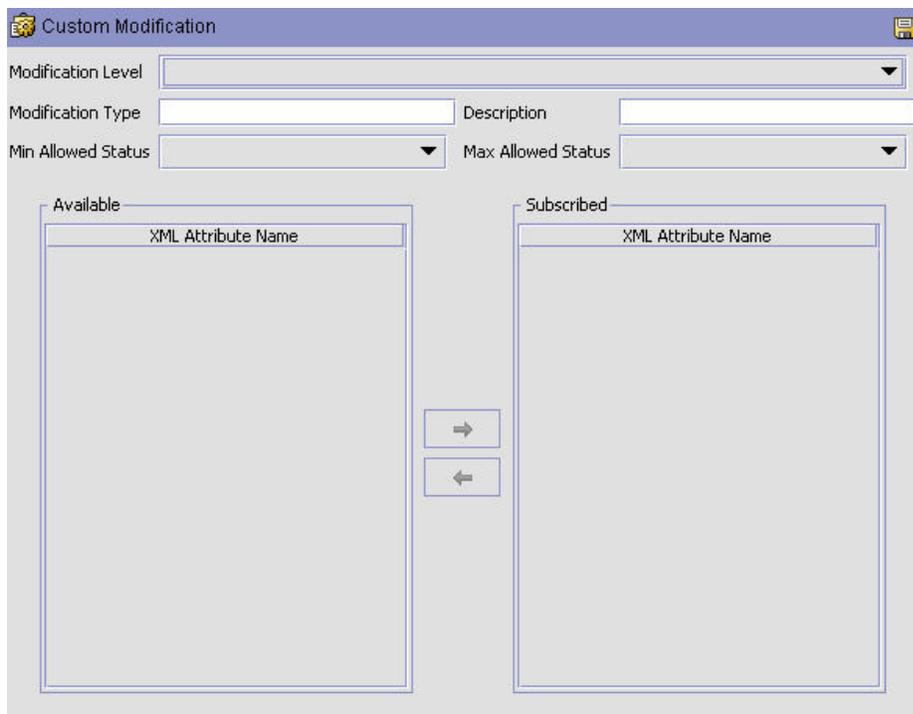


表 20. 「カスタム変更」ウィンドウ

フィールド	説明
変更レベル	変更タイプのレベルを選択します。ヘッダー、明細、またはリリースなどです。
変更タイプ	変更タイプの名前を入力します。
説明	変更タイプの短い説明を入力します。
最小許容ステータス	変更タイプを実行できる最小ステータスを選択します。
最大許容ステータス	変更タイプを実行できる最大ステータスを選択します。
使用可能 (Available)	変更タイプに関連付けることのできる XML 属性のリスト。使用可能属性を変更タイプに追加するには、追加する属性を選択して  を選択します。
登録済み	変更タイプに関連付けられた XML 属性のリスト。登録済み属性を削除するには、削除する属性を選択して  アイコンを選択します。

## カスタム変更タイプの変更 このタスクについて

カスタム共通コード・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。

2. 「カスタム変更リスト」から該当するカスタム変更を見つけて、 を選択します。「カスタム変更」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、85ページの表 20 を参照してください。
4.  を選択します。

## カスタム変更タイプの削除

### このタスクについて

カスタム変更タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「カスタム変更リスト」から該当するカスタム変更を見つけて、 を選択します。

---

## 集合・混載伝票種別の監査を必要とする変更ルールの変更

### このタスクについて

集合・混載伝票種別の監査を必要とする変更ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

注：監査を必要とする変更を構成した場合、それが効果的であるのは、YFS\_LOAD エンティティに対して監査が可能である場合のみです。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「監査を必要とする集合・混載の変更」を選択します。作業領域に、「監査を必要とする変更」リスト・ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「変更タイプ・リスト」ウィンドウが表示されます。

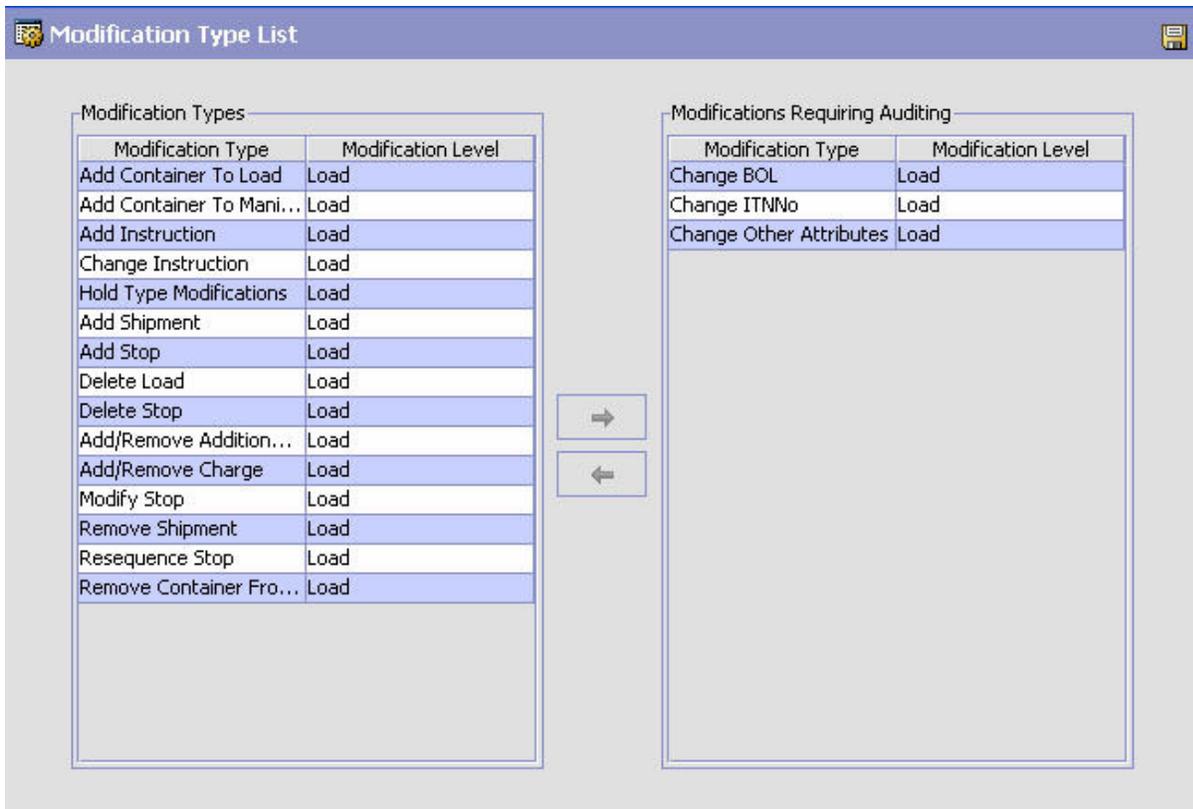


表 21. 「変更タイプ・リスト」ウィンドウ

フィールド	説明
変更タイプ	監査を有効にできる変更タイプのリスト。変更タイプを「監査を必要とする変更」リストに追加するには、追加する変更タイプを選択して、  を選択します。
監査を必要とする変更	監査が必要な変更タイプのリスト。「監査を必要とする変更」リストから変更タイプを削除するには、削除する変更タイプを選択して、  を選択します。

3.  を選択します。



---

## 第 17 章 オーダー・ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成

---

### オーダー・ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成

オーダー・ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントは一連のさまざまなプロセスを経ます。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。各オーダー・ドキュメントには、Sterling Selling and Fulfillment Foundation に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

オーダー・ドキュメントの出荷プロセス・タイプに固有のルールとコンポーネントを構成できます。

---

### 出荷変更ルールの定義

出荷変更ルールは、以下の伝票種別に適用されます。

- 販売オーダー
- 転送オーダー
- 返品オーダー
- 購入オーダー

変更ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

変更ルールの定義および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

---

### 出荷保留タイプの定義

出荷保留タイプは、以下の伝票種別に適用されます。

- 販売オーダー
- 転送オーダー
- 返品オーダー
- 購入オーダー

保留タイプについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

保留タイプの構成および変更について詳しくは、『出荷ドキュメントの保留タイプの構成』の章を参照してください。

---

## 出荷プロセス・タイプの詳細の定義

出荷プロセス・タイプの詳細は、以下の伝票種別に適用されます。

- 販売オーダー
- 転送オーダー
- 返品オーダー
- 購入オーダー

出荷プロセス・タイプの詳細の追加情報は、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

プロセス・タイプの詳細の定義および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

---

## 出荷プロセス・モデルの定義

出荷プロセス・モデルは、以下の伝票種別に適用されます。

- 販売オーダー
- 転送オーダー
- 返品オーダー
- 購入オーダー

出荷プロセス・モデルについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

パイプラインの決定について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

---

## 第 18 章 物流管理コンポーネントの構成

---

### 物流管理の定義

オーダーの出荷の物流管理に関連付けられるルールと共通コードを定義できます。

### 運賃条件の定義

運賃条件を運送会社に関連付けるときに使用する共通コードを定義できます。運賃条件は、輸送コストの計算方法を示します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの運賃条件は、以下のとおりです。

- 保険料および運賃 (CIF) - 運賃コストは、セラー、エンタープライズ、またはハブのいずれかにより完全に支払われます。
- 費用および運賃 (CFR) - 運賃コストは、バイヤーと、セラー、エンタープライズ、またはハブのいずれかにより支払われます。
- 本船渡し (FOB) - 運賃コストは、バイヤーにより支払われます。

運賃条件の作成、変更、および削除には、「運賃条件」タブを使用できます。

### 運賃条件の作成

#### このタスクについて

運賃条件を作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3.  を選択します。「運賃条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、92 ページの表 22 を参照してください。
5.  を選択します。

表 22. 運賃条件の詳細

フィールド	説明
運賃条件	運賃条件の名前を入力します。
簡略説明	運賃条件の短い説明を入力します。
詳細説明	運賃条件の詳細な説明を入力します。
バイヤーのルーティング・ガイドを考慮	<p>バイヤーとエンタープライズの両方が、アイテムの配送方法を制御するルーティング・ガイド (配送のルール) とエコノミック出荷パラメーター (ESP) を設定できます。バイヤー組織のみがこれらのルールに対する値を設定する場合があります。また、エンタープライズのみがこれらのルールに対する値を設定する場合があります。どちらも設定しない場合、ハブ・ルールが使用されます。</p> <p>バイヤーとエンタープライズの両方がこれらのルールに対する値を設定した場合、この設定によって、エンタープライズのルーティング・ルールを適用する前にバイヤーのルーティング・ルールを適用するかどうかが決まります。これらの配送の概念については詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i>』を参照してください。</p>
最初にバイヤー、次にエンタープライズ	バイヤーが設定した出荷ルールを最初に使用する場合に選択します。該当するバイヤーのルールが存在しない場合、エンタープライズのルールが適用されます。
最初にエンタープライズ、次にバイヤー	エンタープライズが設定した出荷ルールを最初に使用する場合に選択します。該当するエンタープライズのルールが存在しない場合、バイヤーのルールが適用されます。
支払人	
バイヤー	バイヤーが出荷料を支払う場合、このオプションを選択します。
出荷者	出荷者が出荷料を支払う場合、このオプションを選択します。

## 運賃条件の変更

### このタスクについて

運賃条件を変更する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3. 該当する運賃条件を選択し、を選択します。「運賃条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、92 ページの表 22 を参照してください。
5.  を選択します。

## 運賃条件の削除

### このタスクについて

運賃条件を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3. 該当する運賃条件を選択し、を選択します。

## 出荷計画の定義

### このタスクについて

出荷計画は、出荷の実行を制御する条件を記述するために使用されます。これには、標準オーダーとラッシュ・オーダーなどの特定のアイテムを一括出荷できるかどうか、エコノミック出荷パラメーターを使用できるかどうか、およびルーティングをどのように実行するかなどが含まれます。

出荷計画を定義するには、以下の手順を実行します。

## 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「物流管理」>「出荷計画」を選択します。作業領域に、「出荷計画」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、94 ページの表 23 を参照してください。
3.  を選択します。

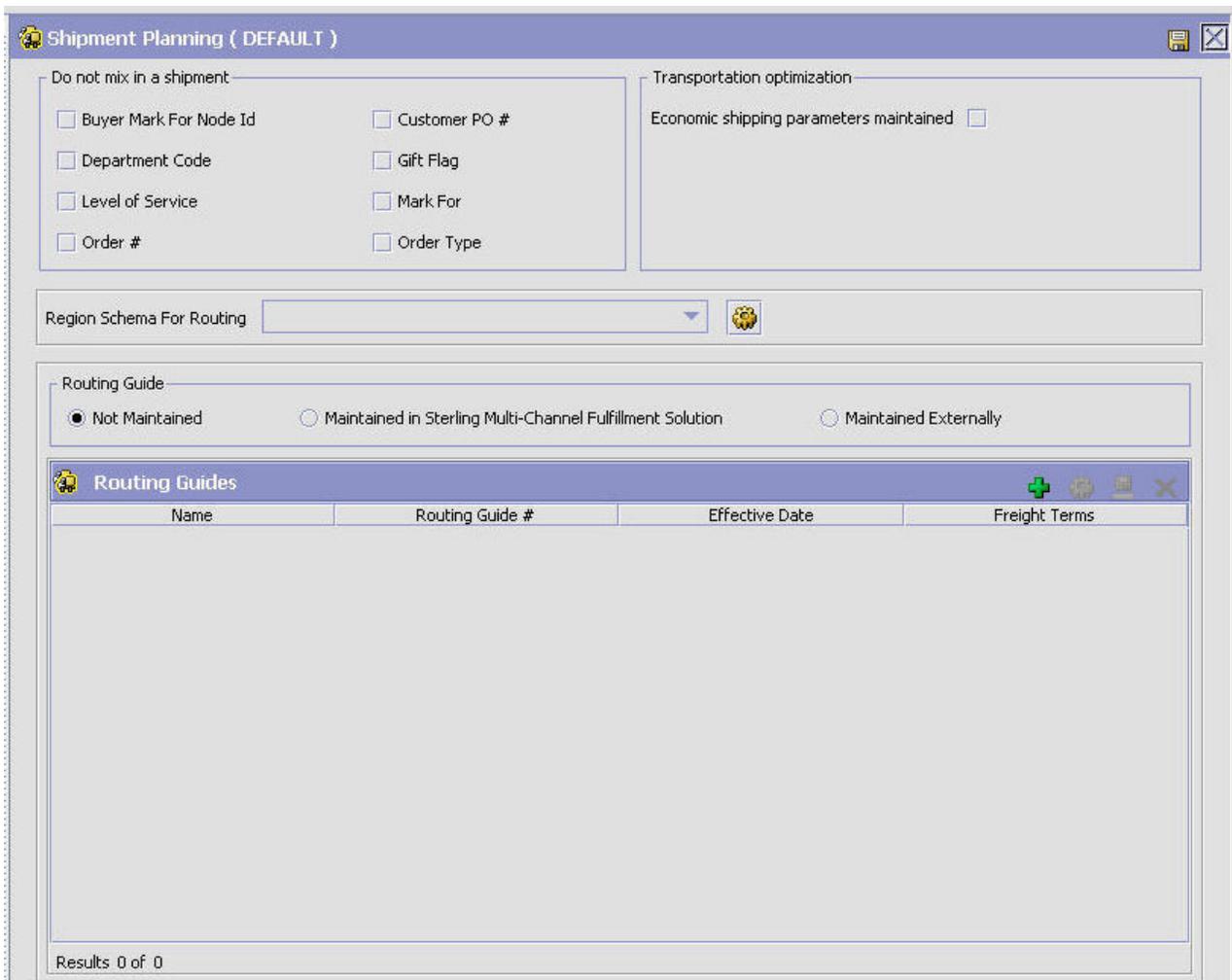


図 18. 「出荷計画」 ウィンドウ

表 23. 「出荷計画」 ウィンドウ

フィールド	説明
1 つの出荷内に混在させない	以下のオプションのいずれかが選択された場合、それらの属性に対して異なる値を持つアイテムについては、別の出荷を作成する必要があります。  例えば、「部門コード」を選択した場合、異なる部門のアイテムを同じ出荷に含めることはできません。
ノード ID のバイヤー・マーク	ノード ID のバイヤー・マーク。
顧客 PO 番号	顧客の購入オーダー番号。
部門コード	アイテムが対象としている部門。
贈答品フラグ	贈答品フラグ。
サービス・レベル (Level of Service)	オーダーのサービスのレベル。
マーク対象	この出荷のマーク対象の個人。
オーダー番号	オーダー番号。

表 23. 「出荷計画」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。
輸送の最適化	
エコノミック出荷パラメーターを維持	<p>エコノミック出荷パラメーター (ESP) は、出荷集約で使用されます。このフィールドは、以下のエコノミック出荷パラメーターのフィールドを有効にするために選択します。</p> <p>重量または容積のしきい値が満たされるまで、または一定の時間が経過するまで、ESP は出荷の集約をサポートします。出荷を集約することで、出荷コストは削減できます。</p> <p>例えば、出荷重量が 300 ポンド、または容積が 50 立方フィートまで出荷を集約するように設定できます。最終的に出荷が設定されていることを確認するために、条件が満たされるまで待機する最大日数を設定できます。</p> <p>重量、容積、または遅延のいずれかの出荷しきい値が満たされると、出荷は次の段階に移ります。</p>
出荷遅延時間の上限 __ 日	<p>出荷前にこの出荷が遅延可能な日数を入力します。</p> <p>例えば、重量のしきい値として 300 ポンドが設定されており、かつこのフィールドが 3 日に設定されている場合、重量のしきい値に達したかどうかに関係なく、3 日後に出荷されます。</p>
集約最大重量しきい値 (Consolidate up to weight threshold of)	重量を入力します。
集約最大容積しきい値 (Consolidate up to volume threshold of)	容積を入力します。
ルーティングの地域スキーマ	<p>ルーティングの適切な地域スキーマを選択します。</p> <p> を選択します。「地域スキーマの詳細」ウィンドウが表示されます。地域スキーマの詳細の変更について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p>
ルーティング・ガイド	
保持しない	手動ルーティングを使用するには、これを選択します。出荷は出荷コンソールで管理され、どのルーティング・ガイドも利用されません。

表 23. 「出荷計画」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
Sterling Selling and Fulfillment Foundation で管理	<p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation で保守されるルーティング・ガイドを使用して出荷のルーティング方法を決定するには、これを選択します。ルーティング・ガイドの作成を参照してください。</p> <p>エンタープライズによりここで保守されるルーティング・ガイドに加え、パイヤー組織のルーティング・ガイドが存在している可能性があります。パイヤー組織のルーティング・ガイドの構成については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>」を参照してください。</p> <p>パイヤーとエンタープライズの両方のルーティング・ガイドの使用については、ルーティング・ガイドの作成を参照してください。</p>
外部で管理	<p>外部ルーティング・システムを使用することを示すには、これを選択します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation で管理されているルーティング・ガイドは参照されません。</p> <p>外部ルーティング・システムの例には、統合された Transportation Management System (TMS) の使用や、パイヤー組織に問い合わせる外部プログラムの実装などがあります。</p>

## ルーティング・ガイドの作成

### このタスクについて

ルーティング・ガイド は、出荷のルーティング方法を決定する条件のリストです。ルーティング・ガイドは、有効である期間と、適用時期の条件があります。これらの条件は、運賃条件と部門に基づいています。

各ルーティング・ガイドには、ルーティング・ガイド明細 のリストが含まれており、それぞれには運送会社の選択についての詳細な条件が記述されています。ルーティング・ガイド情報は、VICS (Voluntary Interindustry Commerce Standards) ルーティングにより使用されるデータに基づいています。

ルーティング・ガイドを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド」リスト・ウィンドウで  を選択します。作業領域に、「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、97 ページの表 24 を参照してください。

4.  を選択します。

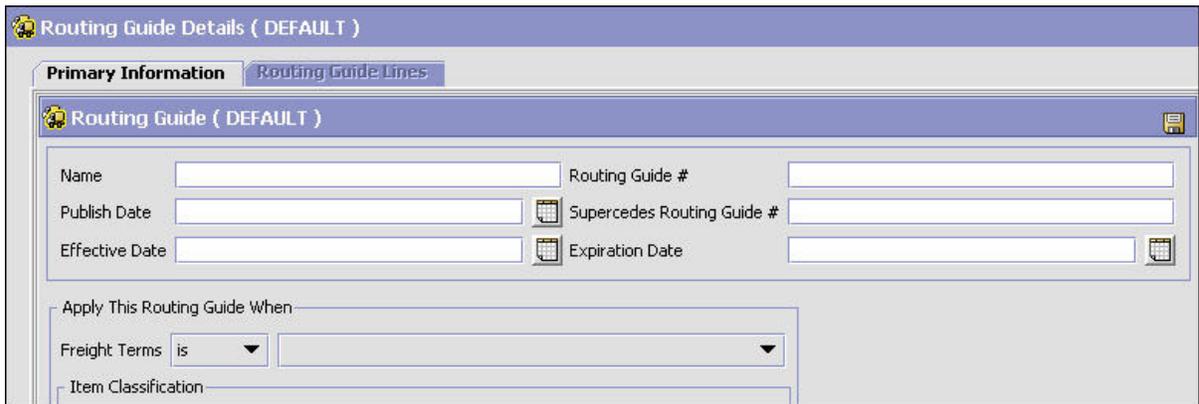


図 19. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

表 24. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
名前	ルーティング・ガイドの名前を入力します。
ルーティング・ガイド番号	ルーティング・ガイドの番号です。
発行日	このルーティング・ガイドがシステム内で使用可能になる日付です。
ルーティング・ガイド番号の置換 (Supersedes Routing Guide #)	追跡情報です。例えば、「1234」というルーティング・ガイドに小さな改訂を加えた場合は、「1234-A」というルーティング・ガイドを作成して、このルーティング・ガイドによってルーティング・ガイド「1234」を置き換える旨を入力できます。このフィールドは情報提供のみを目的としており、有効なルーティング・ガイドを決定するために使用されません。
有効日	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を開始する日付です。有効日と有効期限に基づいて、ルーティング・ガイド明細を特定の期間にわたって適用できます。
有効期限 (Expiration Date)	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を終了する日付です。
<b>このルーティング・ガイドを適用する場面</b>	
運賃条件	この条件が満たされた場合にこのルーティング・ガイドを適用します。「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次に含まれない」を選択します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>単一の運賃条件を指定するには、「次と同じ」を選択します。</li> <li>いずれかに一致する必要がある一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。</li> <li>一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。運賃条件がこれらの値のいずれにも一致しない場合に、このルーティング・ガイドが使用されません。</li> </ul>

表 24. 「ルーティング・ガイドの詳細」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
製品分類	<p>アイテムを分類できます。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、ルーティング・ガイドに対して有効なアイテム分類がセットアップされている場合です。</p>

## ルーティング・ガイド明細の変更

### このタスクについて

ルーティング・ガイド明細を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」 ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」 タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」 ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」 リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」 検索ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、「ルーティング・ガイド明細の詳細」 テーブルを参照してください。
4.  を選択します。

## ルーティング・ガイド明細の作成

### このタスクについて

ルーティング・ガイド明細 には、出荷品をルーティングする際に使用する特定の条件が含まれています。1 つのルーティング・ガイドに、複数のルーティング・ガイド明細を含めることができます。

ルーティング時には、出荷品がルーティング・ガイド明細と照合されます。指定された条件に基づいて、運送会社と運送会社サービスが選択されます。

ルーティングの結果として出荷宛先が変更された場合は、変更された宛先をルーティング要因として、システムによって再ルーティングされます。このタイプの構成は集約者ノードに使用されます。2 回目のルーティング時に、宛先ノードが含まれているが、他のどの宛先パラメーター (住所など) も入力されていないルーティング・ガイド・エントリーがシステムによって検索されます。

ルーティング・ガイド明細を作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイドの詳細」 ウィンドウで、「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」 タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」 タブにアクセスするためには、「主要情報」 タブで入力した情報を保存します。

2. 「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。

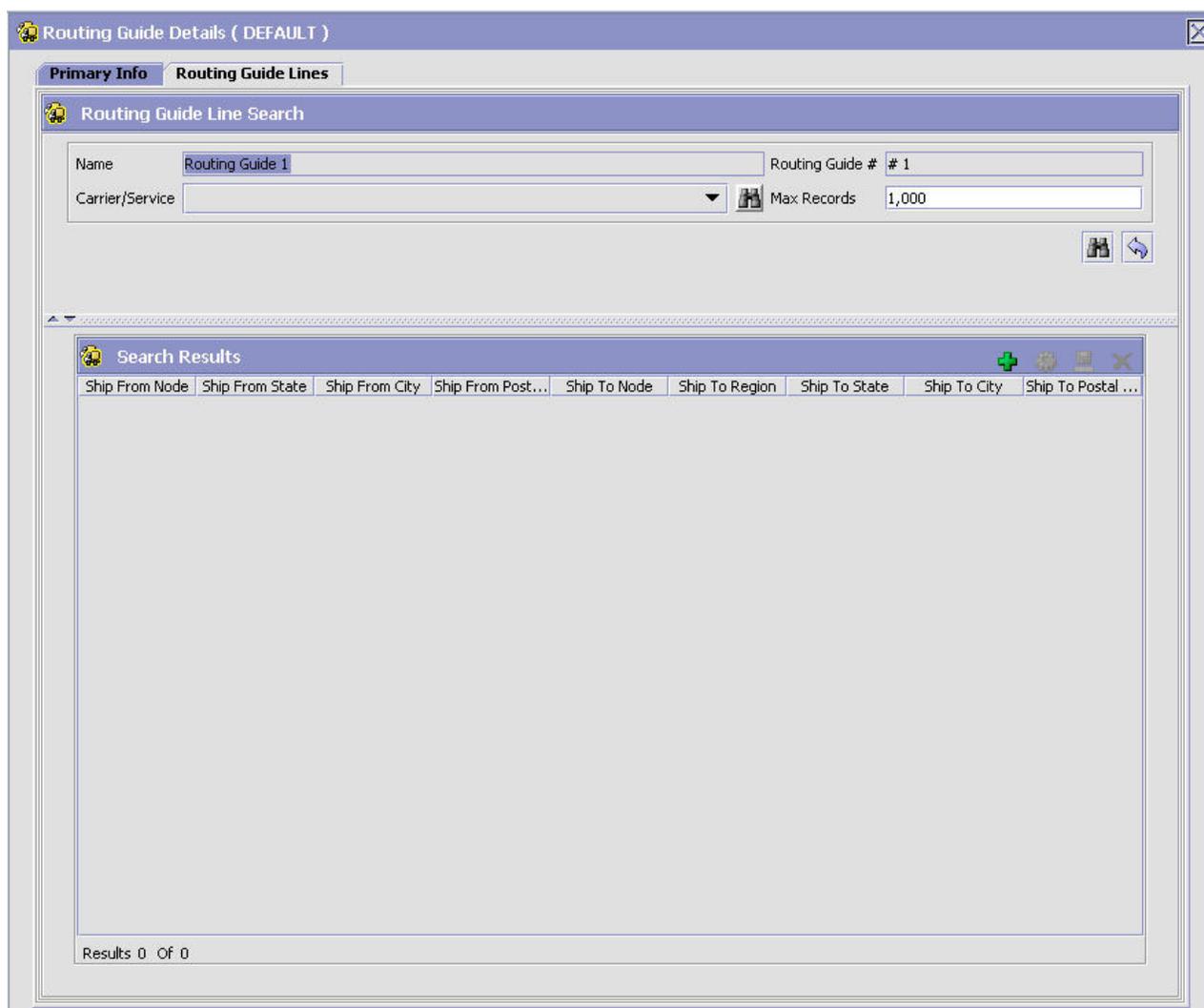


図 20. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

3.  を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」画面が作業領域に表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、100ページの表 25 を参照してください。
5.  を選択します。

表 25. ルーティング・ガイド明細の詳細

<p>条件の設定:</p> <p>以下のフィールドの多くでは、「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次のいずれでもない (is not in)」を選択してから、値を指定できます。それぞれの説明は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一致する必要がある単一の値を指定するには、「次と同じ」を選択します。</li> <li>いずれかに一致する必要がある一連の値を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。</li> <li>一連の値を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。これらの値のいずれにも一致しない場合に、そのルーティング・ガイド明細が使用されます。</li> </ul> <p>例えば、一連の都道府県のいずれかに一致させるには、「都道府県」について「次のいずれか (is in)」を選択して、「東京」、「大阪」、「愛知」などを指定します。この条件の検証時に、「東京」は一致対象となりますが、「福岡」は一致対象となりません。</p>	
フィールド	説明
出荷元	
ノード	ノードを選択します。
出荷元がノードでない場合、以下の属性を選択する	出荷元がノードではない場合はこのオプションを有効にしてから、次の条件のうち 1 つ以上を入力します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
出荷先	
ノード	ノードを選択します。
地域	地域を入力します。
出荷先がノードでも地域でもない場合、以下の属性を選択する	出荷先が特定地域内のノードではない場合はこのオプションを選択してから、次の条件のうち 1 つ以上を選択します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。
重量の範囲:	重量の条件を指定できます。例えば、重量が 100 から 500 ポンドの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「100」と指定して、「上限 (To)」に「500」と指定します。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
容積の範囲:	容積を一致させることができます。例えば、容積が 3 から 10 立方フィートの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「3」と指定して、「上限 (To)」に「10」と指定します。

表 25. ルーティング・ガイド明細の詳細 (続き)

出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
取り扱い単位の範囲:	容器の数です。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
要請された運送会社サービス・コードが以下の場合	
運送会社サービス・コード	運送会社サービス・コードを選択します。
運送会社サービスの定義について詳しくは、102 ページの『運送会社サービスの定義』を参照してください。	
出荷経路:	
優先順位	このルールの相対的重要度を決定する番号を指定します。  出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。この優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
運送会社/サービス	希望の運送会社とサービス・コードを指定します。
バルク仕分けノード (Break Bulk Node)	バイヤーに近接しているバルク仕分けノードです。
指定された連絡先	出荷品の連絡先詳細が指定されているかどうかを示します。
オーバーライドあり:	
運賃条件のオーバーライド	出荷品の運賃条件をオーバーライドする場合に選択します。
出荷先のオーバーライド	「出荷先」の値をオーバーライドするには、このフィールドを選択してから、次のいずれかを選択します。このフィールドが使用されるのは、出荷先住所が変更されたためにルーティングが再実行される場合のみです。
ノード	ノード名を選択します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。

## タスクの結果

設定された条件が検証されると、最も多くの条件に一致するルーティング・ガイド明細が使用されます。例えば、次の 3 つのルーティング・ガイド明細が存在するとします。

ルーティング・ガイド明細 A - 出荷元がマサチューセッツの場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 B - 出荷元がマサチューセッツであり、かつ出荷元の郵便番号が 01810 の場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 C - 出荷元がマサチューセッツまたはニューヨークの場合に実行する内容

出荷元の郵便番号が 01810 の場合は、これらのルーティング・ガイド明細のすべてに一致します。この場合は、最も多くの条件 (州と郵便番号) が満たされているルーティング・ガイド明細 B で指定されたアクションが使用されます。

出荷元がマサチューセッツであるが、出荷元の郵便番号が 01810 でない場合は、ルーティング・ガイド明細 A とルーティング・ガイド明細 C の両方が一致します。このような場合は、優先順位の番号が小さい方のガイド明細が使用されます。例えば、ルーティング・ガイド明細 A の優先順位番号が 3 であり、ルーティング・ガイド明細 C の優先順位番号が 5 の場合は、ルーティング・ガイド明細 A が使用されます。

**運送会社サービスの定義:** ルーティングが行われると、出荷はルーティング・ガイド明細に照らして照合されます。指定された選択条件に基づいて、使用する運送会社サービスを選択します。

運送会社サービスの作成、変更、または削除には、「運送会社サービス」パネルを使用できます。

### 運送会社サービスをルーティング・オプションとして作成: このタスクについて

運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウで、「運送会社サービス」パネルにある  を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。



2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、103 ページの表 26 を参照してください。

3.  を選択します。

表 26. 運送会社サービス

フィールド	説明
優先順位	ルールで使用する相対重要度の数値を入力します。  出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
配送業者/サービス	目的の運送会社かサービスのコードを選択します。
バルク仕分けノード (Break Bulk Node)	バルク仕分けロケーションを選択します。
バルク仕分けノードの集約要件	バルク仕分けノードでの出荷の集約の最小重量条件および最小容積条件を指定するために使用します。
最小重量	出荷の集約に必要な最小重量を入力します。
最小容積	出荷の集約に必要な最小容積を入力します。
連絡先住所	連絡先住所情報の指定に使用します。  をクリックして、連絡先住所を変更します。

### 運送会社サービスをルーティング・オプションとして変更: このタスクについて

運送会社サービスを変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

- 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで、「運送会社サービス」リスト・ウィンドウの運送会社サービスを選択し、 を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 26 を参照してください。
-  を選択します。

### 運送会社サービスをルーティング・オプションとして削除: このタスクについて

運送会社サービスを削除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで「運送会社サービス」リスト・ウィンドウ内の運送会社サービスを選択し、 を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。

2.  を選択します。

## ルーティング・ガイド明細の変更

### このタスクについて

ルーティング・ガイド明細を変更するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」検索ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、「ルーティング・ガイド明細の詳細」テーブルを参照してください。
4.  を選択します。

## ルーティング・ガイド明細の削除

### このタスクについて

ルーティング・ガイド明細を削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guide Lines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。

## ルーティング・ガイドの削除

### このタスクについて

ルーティング・ガイドを削除するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するルーティング・ガイドを選択して、 を選択します。

---

## 第 19 章 時間トリガー・トランザクション参照

---

### 時間トリガー・トランザクション参照

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一群の時間トリガー・トランザクションを提供します。これは、さまざまな個別機能をそれぞれ自動的にまたは一定の時間間隔で実行するユーティリティです。

時間トリガー・トランザクションは、スケジュール・ベースで反復アクションを実行します。標準的な実行内容としては、データベースの更新、イベントの発行、または API の呼び出しなどがあります。1 タイプのトランザクションであるモニターは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すように設計されています。モニターは、常時ではないものの頻繁に、タスク・キューからタスクを取り出したり、パイプラインから作業を取り出したりします。

一部のトランザクションでは、アプリケーションの正常性に関する統計データを収集できます。このデータは、`yfs.properties` ファイルの `yantra.statistics.persist.interval` 属性に指定された値を使用して、定期的に収集されます。デフォルトでは、統計収集は `on` に設定されています。このプロパティをオーバーライドするには、項目を `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

統計の持続性について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。使用される特定の統計パラメーターについて詳しくは、該当する時間トリガー・トランザクションを参照してください。

この章で説明されている時間トリガー・トランザクションは、固有のトランザクションであり、これは伝票種別に固有である場合もあれば、そうでない場合もあります。ドキュメント固有トランザクションの場合、命名法はそのベースとなる固有トランザクションを定義するのに役立ちます。トランザクション ID は `Unique_Transaction_ID.Document_Type_Code` という形式です。例えば、返品のパージのトランザクション ID が `PURGE.0003` であれば、それが固有トランザクション `PURGE` をベースとしており、伝票種別は返品オーダーの `0003` であることを示します。したがって、返品のパージを構成できるようにするには、この章で、オーダー・パージである `PURGE` トランザクション ID を探す必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のタイプの時間トリガー・トランザクションを提供します。

- ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション - 処理を扱います。
- 時間トリガー・パージ・トランザクション - 処理の完了後に破棄できるデータをクリアします。

- タスク・キュー同期プログラムの時間トリガー・トランザクション - 最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新します。
- モニター - 処理の遅延および例外について監視し、警告を送信します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各時間トリガー・トランザクションの以下の統計を追跡します。

- ExecuteMessageCreated - 一定の時間間隔内に JMS キューに追加されたジョブ数。
- ExecuteMessageSuccess - 一定の時間間隔内に正常に実行されたジョブ数。
- ExecuteMessageError - 一定の時間間隔内で実行が失敗したジョブ数。
- GetJobsProcessed - 一定の時間間隔内で処理された GetJob メッセージの数。

注: 時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

---

## 時間トリガー・トランザクションの実行

すべての時間トリガー・トランザクションは、スレッド対応です。これはつまり、単一のプロセス内でトランザクションの複数のインスタンスを実行できるということです。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。システムを同時に実行しながらのシステム・パフォーマンスの微調整については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

## 時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ

### このタスクについて

時間トリガー・トランザクションの実行およびスケジューリングの前に、以下の手順を完了していることを確認してください。

### 手順

1. 時間トリガー・トランザクション用に構成された QCF 名に関連付ける JMS 接続ファクトリーを構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、JMS 接続ファクトリーとして AGENT\_QCF が含まれます。JMS の構成について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
2. 時間トリガー・トランザクションのグループまたは個別の名前に関連付ける JMS サーバーの宛先を構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、サーバーの宛先として DefaultAgentQueue が含まれます。destination。  
JMS サーバーの宛先の名前にドット (.) を入れないでください (例えば、

「A.0001」)。ドットが入っている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのサーバーと通信できなくなります。

3. Applications Manager を使用して、ビジネス・プロセスで必要な時間トリガー・トランザクションごとに構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」の『トランザクションの定義』のセクションで説明されています。時間トリガー・トランザクションの条件パラメーターのセットごとに、JMS エージェント・サーバーとの適切な関連付けがされている必要があります。

---

## エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成

### このタスクについて

エージェント (時間トリガー・トランザクション) とリモート JMS サーバーの間の通信をセットアップするには、JMS システムで前提条件のセットアップをいくつか行う必要があります。それから、アプリケーション内で構成をいくつか行います。構成は、以下の手順で構成されます。

- ご使用の JMS システムの初期コンテキスト・ファクトリー・コードがアプリケーションに提供されない場合、このコードを作成する必要があります。提供されるコードのリストについては、108 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
- トランザクションの詳細の定義 - 時間トリガー・トランザクション、またはエージェントは、編集して、JMS システムの接続情報および作成する初期コンテキスト・ファクトリーを含める必要があります。109 ページの『トランザクション情報の定義』を参照してください。

時間トリガー・トランザクションおよびそれがアプリケーション・ビジネス・プロセス・モデリングの全体像にどのように適合するかについて詳しくは、『プロセス・モデルの構成』の章を参照してください。また、キューおよびエージェントの追加情報については、『警告キューの構成』の章を参照してください。

## 前提条件

### このタスクについて

開始する前に、JMS サーバーに対して以下の手順を実行します。これらタスクの実行に関する詳細は、JMS サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

### 手順

1. JMS サーバー上の JMS キュー接続ファクトリー (QCF) とキューの構成を行います。
2. JMS サーバー上のキューの JNDI 表現を構成します。

タスクに関して以下の情報が使用可能であることを確認してください。

- 各キューの JNDI 名
- JNDI QCF ルックアップ
- JMS ロケーション - JMS サーバープロバイダー URL

## タスクの結果

前述のタスクを完了した後に、以下の 2 つの手順を表示されている順番どおりに実行してください。これらはいずれもアプリケーション内で実行します。

## 初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

### このタスクについて

初期コンテキスト・ファクトリー (ICF) クラスを使用すると、リモート Java クライアントがアプリケーションに接続できます。このクラスはアプリケーション・ベンダーによって提供されます。アプリケーションは、エージェントを設定する際に、ICF コードを使用してこれらを識別します。以下の JMS ベンダー用の初期コンテキストのファクトリー・コードは、アプリケーションの中で事前定義されています。

- IBM WebSphere® MQ (IBM WebSphere Internet Inter-ORB Protocol URL を介してアクセスされる MQSeries® 用)
- ファイル (Oracle WebLogic などのように、ファイル URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- Oracle WebLogic (WebLogic JMS 用)
- JBoss (JBoss JMS 用)

上記のリストにない JMS サーバー (例えば ActiveMQ) を使用している場合、それに対する初期コンテキストのファクトリー・コードを、以下の手順にしたがってアプリケーションの中で作成する必要があります。

### 手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 「+」アイコンを選択して、新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを作成します。「初期コンテキスト・ファクトリー」ウィンドウが表示されます。
3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」フィールドに、JMS ベンダーによって提供されたクラス名を入力します。例えば、ActiveMQ の場合、クラス名は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialContextFactory` です。
4. 「簡略説明」フィールドに、40 文字以内の記述名を入力します。この名前を次の手順で使うので、書き留めておいてください (109 ページの『トランザクション情報の定義』を参照)。ActiveMQ の場合、**ActiveMQ** と入力します。
5. 「詳細説明」フィールドに、初期コンテキスト・ファクトリーの詳細な説明を 100 文字以内で入力します。
6. 新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを保存し、ウィンドウを閉じます。

## タスクの結果

ICF について詳しくは、「初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成」を参照してください。

## トランザクション情報の定義

### このタスクについて

JMS サーバーが当アプリケーションと通信するためには、JMS サーバーと ICF 情報を使用して構成された時間トリガー・トランザクションが存在する必要があります。

### 手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 希望のタブを選択して、「基本伝票種別」を選択してから、「プロセス・タイプ」をダブルクリックします。
3. 実行するエージェントに対応するトランザクションをダブルクリックします。
4. 「時間トリガー」タブを選択します。
5. 新しいエージェント条件の定義を作成するか、編集する既存のエージェント条件の定義を選択します。
6. 「エージェント条件の詳細」画面が表示されます。「実行時プロパティ」タブを選択します。
7. リストから既存のエージェント・サーバーを選択するか、独自のエージェント・サーバーを作成します (後者を推奨)。
8. リストから既存の警告キューを選択するか、独自の警告キューを作成します。
9. 「JMS キュー名」フィールドに、作成したキューの JNDI 名を入力します。107 ページの『前提条件』を参照してください。
10. このエージェントで実行するスレッドの希望数を入力します (5 スレッド以下を推奨。6 スレッド以上が必要な場合は、別のエージェントをそれ独自の JVM 内で開始してください)。
11. 作成した初期コンテキスト・ファクトリー・コードを選択します。108 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
12. 「QCF ルックアップ」フィールドに、作成したキューの JNDI QCF ルックアップを入力します (これは該当する JMS サーバー用に作成したキュー接続ファクトリーです)。107 ページの『前提条件』を参照してください。
13. 「プロバイダー URL」に入力します。この URL は JMS システムが配置されている場所であり、JMS ベンダー固有のものです。
14. このエージェントに自己トリガーさせるのか (推奨)、外部トリガー (`<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `triggeragent.sh`) を使用するのを選択します。前者の場合はトリガーの間隔 (分単位) を指定します。
15. JMS セキュリティー・オプションの設定については、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。
16. 「条件パラメーター」タブの値はデフォルト値のままにします。
17. 「エージェント条件の詳細」の内容を保存して、このウィンドウを閉じます。
18. `<install_dir>/install/bin` ディレクトリー内の `startagentserver.sh/cmd` スクリプトを実行して、このエージェントをそれ独自の JVM 内で起動します。

## タスクの結果

トランザクションの定義およびこの手順について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で『トランザクションの定義』および『トランザクションを時間トリガーに指定』のセクションを参照してください。

---

## ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundationの次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、このモニターに関する保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## 非同期要求プロセッサ

このトランザクションは、任意の API 要求またはサービス要請をオフライン・モードで作成します。YFS\_ASYNC\_REQ テーブルから API メッセージまたはサービス・メッセージが選択され、それに対応する API またはサービスが呼び出されます。createAsyncRequest API を使用して、メッセージを YFS\_ASYNC\_REQ テーブルに挿入することができます。Sterling Warehouse Management System の一部のビジネス・トランザクションも、YFS\_ASYNC\_REQ テーブルにメッセージを挿入します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクション (time-triggered transaction) の属性は、以下のとおりです。

表 27. 「非同期要求プロセッサ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ASYNC_REQ_PROCESSOR
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 28. 「非同期要求プロセッサー」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リード日数	エージェントがレコードを消去するまでの日数です。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、30 がデフォルト設定されます。
最大エラー件数 (Maximum Error Count)	例外がスローされた場合にレコードが処理される最大回数です。失敗した回数がこの値と等しくなると、エージェントはそれ以上レコードを処理しません。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、20 がデフォルト設定されます。
再処理間隔 (分単位) (Reprocess Interval In Minutes)	トランザクションが処理されて例外がスローされてから、次にトランザクションが処理されるまでの、分単位の時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_ASYNC_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし

## 保留中のジョブの数

なし

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 29. 非同期要求プロセッサーによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
HAS_EXCEPTIONS	なし	YCP_ASYNC_REQ_PROCESSOR.HAS_EXCEPTIONS.html	あり

\* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。

<INSTALL\_DIR>/xapidocs/api\_javadocs/XSD/HTML

## 大/小文字を区別しないデータ・ローダー

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、「大/小文字を区別しない検索 (CaseInsensitiveSearch)」のマークが付けられた列からシャドー列にデータをマイグレーションします。このエージェントは、トランザクション条件を使用して更新が必要なレコードを特定し、次に元の列の値をシャドー列内で小文字に変換します。大/小文字を区別しない検索の使用可能化について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張*』を参照してください。

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、既存データを更新する場合に必要なです。シャドー列が作成されると、テーブルまたはテーブル・タイプごとに、「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントを一度だけ実行する必要があります。その後、アプリケーションによって、シャドー列がリアルタイムで入力されます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 30. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DATA_LOADER
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 31. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>これを空欄のままにするか、10000 未満の数を指定した場合、5000 がデフォルト設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>

表 31. 「大小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
テーブル・タイプ (TableType)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある場合、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。  有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。  これを CONFIGURATION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。  これを TRANSACTION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。
テーブル名	必須。シャドー列にマイグレーションするレコードのテーブル名です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## 集合・混載ステータスの変更

このトランザクションは、changeLoadStatus() API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』を参照してください。

集合・混載処理パイプラインの一部として構成するために、集合・混載ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。この自動変更では、集合・混載情報の集合・混載計画ソフトウェアへのエクスポートや集合・混載の運送会社への送信を表現できます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 32. 「集合・混載ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_LOAD_STATUS
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeLoadStatus()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 33. 「集合・混載ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 34. 「集合・混載ステータスの変更」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	ステータスが変更された集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が現在日付の値以下 ( $\leq$ ) の、トランザクションによって処理可能な YFS\_Task\_Q テーブル内のレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `changeLoadStatus()` API の項に記載されたイベントが発生します。

## 出荷ステータスの変更

このトランザクションは、`changeShipmentStatus()` API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

出荷処理パイプラインの一部として構成するために、出荷ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。例えば、この自動変更では、倉庫管理システムへの出荷情報のエクスポートやバイヤーへの事前出荷通知の送信を表すことができます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 35. 「出荷ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_SHIPMENT_STATUS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 36. 「出荷ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 37. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
ステータスに変更された出荷数 (NumShipmentsChanged)	ステータスに変更された出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `changeShipmentStatus()` API の項に記載されたイベントが発生します。

## 配送計画の終了

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「配送計画のページ (Delivery Plan Purge)」が配送計画関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (199 ページの『配送計画のページ (Delivery Plan Purge)』を参照してください)。

このトランザクションは、未完了の集合・混載や出荷が存在しない配送計画をすべて選択して、`deliveryplan_closed_flag` に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの計画にないことを示します。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「配送計画の終了」(CLOSE\_DELIVERY\_PLAN) 基本トランザクションに対応しています。

コンソールを使用するエンタープライズは、ページ・ジョブをスケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 38. 「配送計画の終了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_DELIVERY_PLAN
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし

表 38. 「配送計画の終了」の属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 39. 「配送計画の終了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 40. 「配送計画の終了」の統計

統計の名前	説明
クローズされた配送計画数 (NumDeliveryPlansClosed)	クローズされた配送計画の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 41. 「配送計画の終了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	delivery_plan_dbd.txt	YDM_CLOSE_DELIVERY_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## 集合・混載を閉じる

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「集合・混載ページ」が集合・混載関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します（215 ページの『集合・混載ページ』を参照してください）。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「集合・混載を閉じる」基本トランザクション (CLOSE\_LOAD) に対応しています。

集合・混載処理パイプラインを使用する場合、このトランザクションをスケジュールする必要があります。閉じられた集合・混載のみが、ページ・トランザクションによって選択されます。したがって、このトランザクションをパイプラインの一部に含め、その日の最後に実行されるようにスケジュールする必要があります。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 42. 「集合・混載を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_LOAD
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 43. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 43. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 44. 「集合・混載を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた集合・混載数 (NumLoadsClosed)	閉じられた集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、どの未完了の集合・混載、未完了の出荷にも関連付けられていない、未完了の配送計画の数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 45. 「集合・混載を閉じる」トランザクションによって発生するイベント。

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_CLOSE_LOAD_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## 積荷目録を閉じる (Close Manifest)

この時間トリガー・トランザクションは、積荷目録の MANIFEST\_CLOSED\_FLAG フラグを「Y」に設定し、積荷目録ステータスを CLOSED に更新します。この時間トリガー・トランザクションは、確認を保留しているすべての出荷を確認し、積荷目録を閉じます。

注: 条件を指定しないで「積荷目録を閉じる」エージェントを起動した場合、出荷ノード全体において対象となるすべての積荷目録が閉じられます。

yfs.properties\_ysc\_ext.in ファイル内の yfs.closemanifest.online プロパティは、この時間トリガー・トランザクションをオンライン・モードまたはオフライン・モードで動作するように設定するために使用されます。

- ・ **オンライン・モード:** オンライン・モードでは、通常どおり「積荷目録を閉じる」トランザクションが実行され、積荷目録内のすべての出荷が確認されてから、積荷目録が閉じられます。
- ・ **オフライン・モード:** オフライン・モードでは、「積荷目録を閉じる」トランザクションがエージェントを起動し、積荷目録ステータスを「終了要求済み」に変更します。エージェントが実行されると、1 回の呼び出しで、積荷目録の各出荷が確認されるか、積荷目録が閉じられます。

操作モード (オンラインまたはオフライン) は、`yfs.properties_ycs_ext.in` ファイルの `yfs.closemanifest.online` プロパティに指定された値に基づいて決定されます。このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリを `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。 `customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

デフォルトのすぐに使用可能な出荷済みプロパティを使用すると、「積荷目録を閉じる」トランザクションはオンライン・モードで実行されます。

「積荷目録を閉じる」トランザクションをオフライン・モードで実行する場合は、トランザクションに対して定義されたすべてのエージェント条件が正しく構成されていることを確認してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 46. 「積荷目録を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_MANIFEST
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	積荷目録作成
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	confirmShipment()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 47. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 47. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
出荷ノード	オプション。「積荷目録を閉じる」の実行が必要な出荷ノードです。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 48. 「積荷目録を閉じる」の統計

統計の名前	説明
確認された出荷数 (NumShipmentsConfirmed)	確認された出荷の数。
閉じられた積荷目録数 (NumManifestsClosed)	閉じられた積荷目録の数。
エラーが発生した積荷目録数 (NumManifestsErrored)	エラーが発生した積荷目録の数。
エラーが発生した出荷数 (NumShipmentsErrored)	エラーが発生した出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、未完了の積荷目録数と積荷目録 (MANIFEST\_STATUS が「1200」) に含まれる出荷数の合計です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 49. 「積荷目録を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	manifest_dbd.txt	YDM_CLOSE_MANIFEST .ON_SUCCESS.xml	あり

## オーダーを閉じる

この時間トリガー・トランザクションは、オーダーの ORDER\_CLOSED フラグを「Y」に設定し、ON\_SUCCESS イベントを生成します。これらのアクションは、すべてのオーダー明細の ORDER\_QTY が構成済みピックアップ・ステータスに達した場合のみ実行されます。オーダーの ORDER\_CLOSED フラグが「Y」に設定された場合、そのオーダーはモニター対象として選択されません。

パイプライン内で、ページ・トランザクションと共に、「オーダーを閉じる」エージェントを構成する必要があります。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

キャンセル済みオーダーに対して警告が発生するのを避けるために、「オーダーを閉じる」エージェントを実行してからモニター・エージェントを実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 50. 「オーダーを閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 51. 「オーダーを閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 52. 「オーダーを閉じる」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
閉じられたオーダー数 (NumOrdersClosed)	閉じられたオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Task\_Q テーブル内の AVAILABLE\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 53. 「オーダーを閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YFS_CLOSE_ORDER.ON_SUCCESS.xml	あり

## 受入の完了

この時間トリガー・トランザクションは、指定された受入ルールを使用して受入を完了させます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 54. 「受入の完了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPT_COMPLETE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	受入 (購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入、受入)
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 55. 「受入の完了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「受入の完了」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	必須です。「受入の完了」の実行に必要なノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 56. 「受入の完了」の統計

統計の名前	説明
完了した受入数 (NumReceiptsClosed)	完了した受入の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、完了できる受入 (OPEN\_RECEIPT\_FLAG が「Y」) の数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 57. 「受入の完了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	receipt_dbd.txt	YFS_RECEIPT_COMPLETE .ON_SUCCESS.xml	あり

複数の入荷が同じロケーションに受け入れられ、受け入れた在庫にライセンス・プレートが付与されていない場合、エラー・メッセージ「格納する在庫がソース・ロケーションにありません (There is no inventory for put away at the SourceLocation)」が表示されます。この問題の解決方法は、以下の手順のいずれかです。

- 既に受け入れている入荷に対する移動要請を手動で作成します。移動要請の作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System User Guide*』を参照してください。
- 受け入れる予定である入荷については、在庫にライセンス・プレートが付与されていることを確実にし、入荷と格納用の在庫を同じロケーションに受け入れることがないようにします。

## 出荷を閉じる (Close Shipment)

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「出荷ページ」が出荷関連のデータをすべて削除するまで、一時的なページとして機能します (259 ページの『出荷ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、CLOSE\_SHIPMENT トランザクションの抽出についてのパイプライン構成に基づいて、完了の条件を満たすすべての出荷を抽出し、それらの shipment\_closed\_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの出荷にないことを示します。関連するステータスの変更はありません。

せん。出荷済みステータスまたは配達済みステータスを抽出するように、パイプライン内でこのトランザクションを構成できます。

このトランザクションは、出荷パイプライン内の「出荷を閉じる」基本トランザクション (CLOSE\_SHIPMENT) に対応しています。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 58. 「出荷を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 59. 「出荷を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 60. 「出荷を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた出荷数 (NumShipmentsClosed)	閉じられた出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 61. 「出荷を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CLOSE_SHIPMENT. ON_SUCCESS.xml	あり

## 出荷統計の収集

「出荷統計の収集」は、時間トリガー・トランザクションです。これを起動して出荷を処理し、日次出荷レポートに必要な情報を生成できます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 62. 「出荷統計の収集」の属性

属性	値
トランザクション名	出荷統計の収集
トランザクション ID	COLLECT_STATISTICS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 63. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 64. 「出荷統計の収集」の統計

統計の名前	説明
統計収集日数 (NumDaysStatisticsCollected)	出荷統計が収集された日数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、出荷統計を収集する必要のある日数です。この日数は、現在の日付と出荷統計を最後に収集した日付との差 (日単位) によって計算します。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 65. 「出荷統計の収集」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_COLLECT_STATISTICS.ON_SUCCESS.xml	なし

## 追加在庫の統合

「追加在庫の統合」時間トリガー・トランザクションは、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブルおよび YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブルの供給と需要を統合します。統合は、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND テーブル内の追加の供給と需要の数量を合計することによって行います。

適合する供給または需要がない場合、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内の変更の合計数量を使用して新しい供給または需要が作成されます。変更が適用された後、統合処理で使用された YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内のレコードは削除されます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 66. 「追加在庫の統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_ADDNL_INV
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションのパラメーターは、以下のとおりです。

表 67. 「追加在庫の統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に検索および処理される、追加の供給と需要が統合された在庫アイテム・レコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 68. 「追加在庫の統合」の統計

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫供給レコード数 (NumInventorySupplyAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫供給レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要レコード数 (NumInventoryDemandAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要詳細レコード数 (NumInventoryDemandDtlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要詳細レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、  
YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_ADDNL テーブル内および  
YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内の個別の在庫アイテムの数を 2  
倍した値です。

## 発生するイベント

なし。

## 出荷に統合

これは、オーダー・パイプライン内のタスク・キューに基づくトランザクションであり、CONSOLIDATE\_TO\_SHIPMENT 基本トランザクションに対応します。このトランザクションは、指定されたオーダー・リリースを含めることができる出荷を検索します。既存の出荷が見つかったら、changeShipment() API が呼び出されます。見つからない場合は、createShipment() API が呼び出されます。

トランザクションは、既存の出荷を検索するために、オーダー・リリースの出荷ノード、出荷先住所、セラー組織コード、運送会社、伝票種別などを既存の出荷と突き合わせます。トランザクションが突き合わせる属性のリストは、実際は、オーダーの伝票種別の伝票テンプレートに基づきます。

このトランザクションは、以下のいずれかのステータスの出荷にのみ適用可能です。

- 荷作成済み
- ESP チェックが必要
- ESP 保留時
- ESP 保留解除
- ルーティングのためにリリース済み
- ルーティング待機中
- 出荷ルーティング中 (Shipment Routing)
- ノードに送信

オーダー・リリースを既存の出荷と正常に統合するには、現在のステータスの出荷に対して「明細の追加」および関連する変更タイプが許可されている必要があります。

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・パイプラインの一部です。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

GIFT\_FLAG が Y に設定されたオーダー・リリースは、他のどのリリースとも統合できません。

詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API、changeShipment() API、および releaseOrder() API についての記述を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 69. 「出荷に統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createShipment() および changeShipment()
ユーザー出口	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランザクションは、com.yantra.ydm.japi.ue の beforeConsolidateToShipment を呼び出します。</li> <li>トランザクションは、処理を開始する前にリリースごとに YDMBeforeConsolidateToShipment を呼び出します。</li> <li>トランザクションは、出荷を検索した後、com.yantra.ydm.japi.ue の determineShipmentToConsolidateWith を呼び出します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">YDMDetermineShipmentToConsolidateWith。</p> <p>詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 70. 「出荷に統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 71. 「出荷に統合」の統計

統計の名前	説明
統合されたオーダー・リリース数 (NumOrderReleasesConsolidated)	統合されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 72. 「出荷に統合」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API および changeShipment() API の項に記載されたイベントも発生します。

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションは、カタログ検索で使用される Apache Lucene インデックス・ファイルを作成します。このインデックス・ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースから抽出された非正規化アイテム・データを格納することによって、検索パフォーマンスを向上させます。

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションを構成して、以下のタスクを実行できます。

- スケジュール済みインデックス作成またはユーザーが開始するインデックス作成の実行
- フル・インデックス・ファイルまたはインクリメンタル・インデックス・ファイルの作成
- インデックス・ファイルのアクティブ化

### インデックス作成処理

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションでは、インデックス作成用のエージェントが提供されます。インデックス作成はマルチスレッド処理になっており、各処理では、インデックス作成エージェントが Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベース内のアクティブな販売カタログから、アイテム情報およびアイテム関連情報を抽出します。対応する XML 構成ファイルが拡張されている場合、エージェントはこの情報を外部ソースから抽出することができます。

エージェントはこの情報を、最終的なインデックスに含める必要のあるアイテム・データを識別するための複数のファイルに書き込みます。エージェントは、ファイルへの書き込みを完了した後、各ファイルを最終的なインデックス・ファイルにマージします。

マルチスレッド処理には、並列に処理できるメリットがあります。大量のデータベース・データは、セグメント化されて同時に処理されます。これにより、1 つの大きなファイルを逐次処理する場合に比べて高速化され、拡張が容易になります。

インデックス作成エージェントは、情報を複数のファイルに書きこむときに、アイテムごとに以下のタスクを実行してから次のアイテムにループします。

- アイテムに関するデータについて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースに照会します。
- XML 構成ファイルおよび拡張ファイルの情報を使用して、照会によって取得するデータを決定します。
- Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースから、関連データを取得します。
- アイテムの Lucene ドキュメントを作成します。

トランザクションは、アイテムごとに Lucene ドキュメントを作成した後、組織および組織のロケールに基づいて、それらのドキュメントをインデックス・ファイルに書き込みます。

## カタログ・インデックス・ファイルにアクセスするための構成オプション

ビジネス要件に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで「カタログ・インデックスの作成」を構成できます。

- 共有された集中型ディスク上にインデックスを作成し、すべてのサーバーからアクセスできるようにします。
  - メリット
    - 共有されたインデックスの集中制御
    - インデックスが複数のサーバー間でコピーされないため、ファイル転送問題が発生しません。
  - 制限
    - 共有ディスクが単一障害点になる可能性があります (予備ディスクが起動されない場合)。
    - 設定によっては、共有ディスクからの大量の読み取り/書き込みによって、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- インデックスのコピーを作成し、ファイル転送を介してそれを複数のサーバーにプッシュします。インデックス作成の完了時にファイル転送処理は自動的に行われますが、インデックスは自動的にアクティブ化されません。すべてのサーバーからファイル転送完了の応答が返されたときに、`manageSearchIndexTrigger` API を呼び出してインデックスをアクティブ化します。
  - メリット
    - 障害の中心点がない
  - 制限
    - インデックス・ファイルを作成してサーバー間でプッシュするため、オーバーヘッドが生じる可能性があります。

1 つの場所にインデックスを作成して、別の場所からそれを読み取る方法を選択した場合、個々のプロセスで異なるプロパティを使用可能にする方法について、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

カタログ・インデックスの作成と検索について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド』を参照してください。

## 属性

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの属性を示します。

表 73. 「カタログ・インデックスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	Create_Catalog_Index
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCMParseAssetUE  YCMGetAdditionalCatalogIndexInformationUE

## 条件パラメーター

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの条件パラメーターを示します。

表 74. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
組織コード	必須。検索インデックスを維持するカタログ組織またはサブカタログ組織の組織コード。
メッセージ数 (Number of Messages)	必須。インデックス・ファイルの作成時に使用するメッセージの数。  Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、スレッドあたり 1 つのメッセージのみを処理します。例えば、メッセージ数が 10、スレッド数が 3 に設定された場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は一度に 3 つのメッセージのみを処理します。システム・パフォーマンスの微調整については、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド』を参照してください。

表 74. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
インクリメンタル・ビルド	<p>Y または N です。</p> <p>既存のインデックス・ファイルを再作成するには、Y を指定します。Y を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、最後に作成に成功したインデックスに基づいて、インデックスを再作成します。アイテムの属性が変更されたかどうかは、YFS_ITEM テーブルの MaxModifyTS 列によって判別されます。アイテムの外部属性が変更された場合、アイテムに対して manageItem API を呼び出すことによって MaxModifyTS 列を更新します。</p> <p>フル・インデックス・ファイルを作成するには、N を指定します。</p> <p>ユーザーがインデックス作成を開始した場合は、このパラメーターは無視されます。しかし、スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、インデックスのフル・ビルドまたはインクリメンタル・ビルドを指定していることを確認してください。</p>
カテゴリ・ドメイン	<p>オプション。インデックスを作成する元になるカタログです。カタログ組織またはサブカタログ組織のアクティブな販売カタログがデフォルトになります。スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、カタログを指定していることを確認してください。</p>
自動的にアクティブ化する (Auto Activate)	<p>Y または N です (オプション)。</p> <p>インデックス・ファイルの作成後にインデックスをアクティブ化するには、Y を指定します。</p> <p>デフォルトは、N です。</p>

表 74. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
検索インデックス・トリガーの自動挿入 (Auto Insert Search Index Trigger)	<p>Y または N です (オプション)。 スケジュールされたカタログ・インデックス・ファイルの作成を有効にするには、Y を指定します。エージェントは、YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルに格納された情報を参照して、スケジュールされたインデックス作成をいつ実行するかを決定します。インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) をエージェント条件に指定します。</p> <p>カタログ・インデックス・ファイルの作成をユーザーが開始できるようにするには、N を指定します。エージェントは、継続的に YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルを照会し、インデックス作成が指示されているかどうかを判定します。ユーザーが、IBM Sterling Business Center からインデックス作成を開始した場合、このテーブルのステータス設定が「スケジュール済み」に変わります。これによって、エージェントはインデックス作成を起動します。ユーザーは、Sterling Business Center から、インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) を指定します。</p> <p>スケジュールまたはユーザーによってインデックス作成が実行された後、インデックスを Sterling Business Center からアクティブ化することができます。あるいは、インデックスが自動的にアクティブ化されるようにエージェントを構成することもできます。</p> <p>スケジュールとユーザーの両方がインデックス作成を開始できるようにするには、トランザクションが 2 つのエージェントのインスタンスを含むように構成します。1 つのインスタンスによってユーザーが開始するインデックス作成を起動し、もう 1 つのインスタンスによってスケジュール済みインデックス作成を起動するように構成します。</p>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの統計を示します。

表 75. 「カタログ・インデックスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された検索インデックス数 (SearchIndicesBuilt)	作成された検索インデックスの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 76. 「カタログ・インデックスの作成」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	非公開	CATALOG_INDEX_BUILD.ON_SUCCESS.xml	あり

## 連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の連鎖オーダーを作成します。連鎖可能なオーダー明細を含む新しい連鎖オーダーを作成する代わりに、それらの明細を既存の連鎖オーダーに追加することもできます。既存の連鎖オーダーは、`determineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、外部プログラムが空白文書を返す場合、1 つ以上の連鎖オーダーが新規作成されます。

連鎖オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createChainedOrder()` API および `YFSDetermineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

このトランザクションは、オーダーをスケジュールした後に起動する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 77. 「連鎖オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHAINED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createChainedOrder()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 78. 「連鎖オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 79. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「連鎖オーダーの作成」で処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された連鎖オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが連鎖オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された連鎖オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createChainedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

## 派生オーダーの作成 (Create Derived Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の派生オーダーを作成します。派生

オーダーが存在する場合、派生可能な明細を追加するか、それらの明細を含む派生オーダーを新規作成することができます。既存の派生オーダーは、`determineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、ヌル文書を返す場合、派生オーダーが新規作成されます。派生オーダーの作成については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createDerivedOrder()` API および `YFSDetermineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 80. 「派生オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DERIVED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createDerivedOrder()</code>

タスク・キュー・オブジェクトにポストされるトランザクション・キーは、オーダーに関連付けられたプロセス・タイプの `DERIVED_ORDER_CREATE` 抽象化トランザクションのインスタンスである必要があります。それ以外の場合、例外がスローされます。

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 81. 「派生オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 82. 「派生オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された派生オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが派生オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された派生オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createDerivedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

## オーダー・インボイスの作成

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上のインボイスを作成します。オーダー・ヘッダー・キーのために、createOrderInvoice() API が呼び出されます。

数量または価格に影響する可能性のある処理がすべて完了している場合にのみ、このトランザクションをパイプライン内で構成します。インボイスの作成後に、明細の数量を請求済み数量よりも減らすことはできません。

「オーダー・インボイスの作成」トランザクションと「出荷インボイスの作成」トランザクションのどちらも、オーダーのインボイスを作成することができます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。詳しくは、143 ページの『出荷インボイスの作成』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 83. 「オーダー・インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_ORDER_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	createOrderInvoice()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 84. 「オーダー・インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 85. 「オーダー・インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成されたオーダー・インボイス数 (NumOrderInvoicesCreated)	作成されたオーダー・インボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createOrderInvoice()` API の項に記載されたイベントが発生します。

## 出荷インボイスの作成

オーダーが決済処理を必要とする場合、インボイス作成は必須です。以下の条件が満たされる場合、インボイスが作成されます。

- ドキュメント・パラメーター・レベルでインボイス作成が可能。
- セラーが決済処理を必要とする。

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納された出荷キーを持つ出荷に対して、1 つ以上のインボイスを作成します。出荷ヘッダー・キーに対して、`createShipmentInvoice()` API が呼び出されます。

このトランザクションは、出荷が出荷済みステータスに達した場合にのみ、出荷パイプライン内で構成する必要があります。

「オーダー・インボイスの作成」と「出荷インボイスの作成」のどちらも、オーダーのインボイスを作成できます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。141 ページの『オーダー・インボイスの作成』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 86. 「出荷インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_SHIPMENT_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createShipmentInvoice()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 87. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 87. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 88. 「出荷インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された出荷インボイス数 (NumShipmentInvoicesCreated)	作成された出荷インボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipmentInvoice() API の項に記載されたイベントが発生します。

## ESP 評価者

「ESP 評価者」時間トリガー・トランザクションは、出荷が特定のエコノミック出荷パラメーターに適合するかどうかを検証します。出荷に対してどの運賃を適用するかを決定する運賃条件を使用して、バイヤーまたはエンタープライズについて ESP を構成することができます。

ESP のために出荷を保留するように構成を定義している場合、出荷は作成時に ESP のために保留されます (ステータスは「ESP 保留時」)。このタスク・キューに基づく時間トリガー・トランザクションは、ESP に対して出荷を評価し、その条件 (重量と容積の制限、および保留の最大日数) に適合する場合、出荷パイプライン内の次のステップに出荷を渡します。これで出荷ステータスは「ESP 保留解除」に設定され、ルーティング処理が開始されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 89. 「ESP 評価者」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ESP_EVALUATOR.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	出荷
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	getNodeMinimumNotificationTime

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 90. 「ESP 評価者」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「ESP 評価者」の実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 91. 「ESP 評価者」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	ESP_EVALUATOR.ON_SUCCESS.xml	あり

## アイテム・ベースの割り当て

「アイテム・ベースの割り当て」トランザクションは、YFS\_IBA\_TRIGGER テーブルで「アイテム・ベースの割り当て」プロセス用にトリガーされている在庫アイテムおよび在庫ノードに基づいて、既存オーダーの約束していない需要と約束した需要をより適切な供給に割り当てます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、YFS\_IBA\_TRIGGER テーブルから、以下の条件に合致するすべての「アイテム・ベースの割り当て」トリガーを取得し、処理します。

- IBA\_RUN\_REQUIRED = "Y"
- LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS が現在時刻よりも「x」時間前である。ここで「x」は、インストール・ルール内の「アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間数)」のルールに定義されている時間です。インストール・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。このルールは、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントが、前に処理した YFS\_IBA\_TRIGGER テーブル内のトリガーを、再処理してはならない間隔を示すために使用されます。これによって、IBA エージェントは指定された時間間隔内にアイテムとノードの組み合わせを処理しすぎることがなくなるため、システムに対する高負荷を避けることができます。
- PROCESSING\_BY\_AGENT="N" または PROCESS\_OVER\_BY\_TS が現在のタイム・スタンプより前である。PROCESSING\_BY\_AGENT フィールドを使用して、他のエージェントのインスタンスによって処理中の IBA トリガーがピックアップされないようにします。

「在庫組織コード」がエージェント条件に指定されている場合は、その在庫組織の在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが取り出されます。

トリガーされたアイテムとノードの組み合わせごとに、エージェントは、そのアイテムおよびノードを含むすべての該当するオーダー明細またはオーダー明細予約を見つけて、ユーザー構成の IBA 選択ルールまたは FIFO (先入れ先出し) IBA 選択ルールに基づいて、それらの約束していない需要と約束した需要を、より適切な入手可能な供給に移動しようとします。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一致した供給の最初の出荷日で新規の正のオーダー明細予約を作成し、既存の需要の出荷日には負のオーダー明細予約を作成します。すべてのオーダーは、処理が完了すると保留状態になり、オーダー明細予約で変更が検出された場合に、再スケジュールされます。

「アイテム・ベースの割り当て」プロセスには、以下の構成が必要です。

- 「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にする必要があります。
- アイテムおよびノードで「アイテム・ベースの割り当て許可」が有効でなければなりません。
- 再スケジュールのためオーダーを保留状態にできるように、保留タイプをオーダー明細予約変更の変更タイプ用にセットアップする必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

バックオーダーされた需要を再割り当てするために、「1 つの明細がバックオーダーされた場合は、優先度が最も高い出荷ノードに対してバックオーダーする」のルールにチェック・マークを付ける必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の『フルフィルメント・ルール (Fulfillment Rules)』セクションを参照してください。

「アイテム・ベースの割り当て」ロジックを処理する前に、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガー上の以下のフィールドを更新します。

- PROCESSING\_BY\_AGENT = “Y”。これは、エージェントのインスタンスが、現在このトリガーを処理中であることを示します。
- PROCESS\_OVER\_BY\_TS = 現在時刻 + 1 時間。これは、エージェントがこの IBA トリガーの処理を終了する予定時間を示します。1 時間は固定ウィンドウで、変更できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、現在のタイム・スタンプがこのタイム・スタンプより後の場合は、実際の値に関係なく、PROCESSING\_BY\_AGENT フラグを「N」として扱います。
- IBA\_RUN\_REQUIRED = “N”。これは、IBA\_RUN\_REQUIRED フラグを「N」にリセットします。

### **該当するオーダー・リリース・ステータスおよび割り当て済みのオーダー明細予約に基づいて需要のリストを取得する**

需要のリストは、該当するオーダー・リリース・ステータスおよびオーダー明細予約から派生し、これらには IBA トリガーにおけるアイテムおよびノードが含まれません。以下のタイプの需要が取り出されます。

- 連鎖オーダーの需要
- 作成済みの連鎖オーダーのあるオーダーの需要
- 調達ノードはあるが、連鎖オーダーがまだ作成されていないオーダーの需要

- 調達ノードがないオーダーの需要
- オーダー明細予約からの需要

需要数量は、需要タイプを保有する「ステータス在庫のタイプ」構成のステータスを持つオーダー・リリース・ステータスの量に基づいて派生します。ここでは、「アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する」が有効である場合に供給タイプが考慮されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

## 割り当てる使用可能な供給のリストを取得する

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、約束していない需要および約束した需要を無視して、ノード上のアイテムの在庫状況に基づいて、使用可能な供給を取得します。在庫組織が在庫を外部で管理している場合、外部の在庫状況は、YFSGetExternalInventoryUE 外部プログラムによって読み取ることができます。「アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ」を考慮する供給の在庫状況のみが、割り当てロジックで使用されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てられた需要は、「リリース時に検索する需要」と同じ供給と一致しなければなりません。

## 需要を FIFO (先入れ先出し) 順序と突き合わせる

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、使用可能な供給のリストを最初の出荷日 (ETA) 順にソートして、トップダウン・ロジックを使用して、取得した需要のリストと突き合わせます (最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われる、在庫状況取得における通常の突き合わせロジックとは異なります)。需要は、以下の順序で割り当てられます。

- 連鎖オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、連鎖オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 作成済みの連鎖オーダーがあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次に製品利用可能日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 調達ノードおよび連鎖オーダーの作成が迫っている (事前通知時刻ウィンドウ内にある) オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 調達ノードがなくリリース・ウィンドウ (事前通知時刻ウィンドウ) 内にあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- オーダー明細でのオーダー明細予約からの需要は、要求された予約日の順序になり、調達ノードあり、または調達ノードなしのオーダーの余剰需要 (事前通知時刻ウィンドウ外) は、最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 在庫予約からの需要は、出荷日の順序になります。

需要のタイプが異なると、その重要度に基づいて、優先順位が異なる点に注意してください。連鎖オーダーまたは連鎖オーダーに関連したオーダーの需要は、通常のオーダーの需要よりも高い優先順位で処理されます。また、出荷日が事前通知時刻ウィンドウ内にある需要も、事前通知時刻ウィンドウ外にある需要よりも優先順位が高くなります。

## 一致した需要のオーダー予約を更新する

ユーザー構成の順序付け、次に FIFO 順序で入手可能な供給と需要を突き合わせた後、システムはオーダー明細予約変更および在庫需要変更 (オーダー明細予約変更に対応) のリストを構築し、それらを要約して、オーダー予約更新と在庫更新の数を最適化します。一致した需要について、負のオーダー明細予約が追加されます。一致した需要について、正のオーダー明細予約が追加され、製品利用可能日が一致した供給の最初の出荷日に設定されます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガーに関するタスクの完了後、トリガーのフィールドを以下の値で更新します。

- IBA\_REQUIRED = "N"
- LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESS\_OVER\_BY\_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESSING\_BY\_AGENT = "N"

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、再スケジュール・プロセスと合わせて使用する必要があります。再スケジュール・プロセスは、「アイテム・ベースの割り当て」プロセスで作成されたオーダー明細予約の使用によって影響を受けたオーダーを再スケジュールするためです。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 92. 「アイテム・ベースの割り当て」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ITEM_BASED_ALLOCATION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder - 「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの一部として作成されたオーダー明細予約を更新します。
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 93. 「アイテム・ベースの割り当て」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理される在庫アイテムの在庫組織コード。指定された場合、この在庫組織に属する在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_IBA_TRIGGER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 94. 「アイテム・ベースの割り当て」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理されたオーダーの数。
再スケジュールを必要とするオーダー数	「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの結果、再スケジュールを必要とするオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `changeOrder` API で指定されたイベントを引き起こします。

## 集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク

これは、「集合・混載パイプライン」上で動作する時間トリガー・トランザクションです。

この時間トリガー・トランザクションは、タスク・キューからレコードを取得します。このトランザクションは、集合・混載のすべての容器がトレーラー上にある場合に、その集合・混載を集合・混載済みトレーラーとしてマークするために使用されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 95. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	MARK_AS_TRAILER_LOADED
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 96. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
再処理間隔	オプション。「再処理間隔」は、集合・混載の再処理に使用する時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 97. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	変更されたトレーラー集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## 在庫の照合

「在庫の照合」は、YFS\_INVENTORY\_SHIPMENT テーブルにあるすべての保留レコードを処理します。保留レコードは、POSTED\_QUANTITY の数字が QUANTITY の数字よりも小さくなります。

各保留レコードは、在庫コスト決定ロジックを適用することによって、YFS\_INVENTORY\_RECEIPT テーブル内の受入レコードと照合されます。販売と受入のデータが照合されたユニット・コストは、YFS\_INVENTORY\_MATCH テーブルにも計上されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 98. 「在庫の照合」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 99. 「在庫の照合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 99. 「在庫の照合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
供給停止日 (CutOffDate)	オプション。渡された場合、レコードは最大でこの日付まで照合されます。デフォルトでは、データベース内のすべての照合未済のレコードが対象になります。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SHIPMENT、YFS_INVENTORY_RECEIPT、および YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 100. 「在庫の照合」の統計

統計の名前	説明
処理された在庫出荷数 (NumInventoryShipmentsProcessed)	処理された在庫出荷の数。
挿入された在庫一致数	挿入された在庫一致の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、QUANTITY の値が POSTED\_QUANTITY の値と等しくない、YFS\_INVENTORY\_SHIPMENT テーブルに存在する個別の在庫アイテムの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## 支払集金

このトランザクションは、承認または請求を保留中のオーダーについて、クレジットの検証を要求します。

承認要請および請求要請作成にこのトランザクションを使用します。

このトランザクションは、「支払実行」トランザクションと組み合わせて動作します。このトランザクションは「支払実行」トランザクションとは独立して実行可能ですが、承認と集金は支払実行の依存関係が満たされた後にのみ、発生します。詳しくは、156 ページの『支払実行』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 101. 「販売オーダーの支払集金」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

表 102. 返品オーダーの支払集金属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 103. 「支払集金」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。このトランザクションを実行する必要があるエンタープライズ。空欄のままにした場合、すべてのエンタープライズのオーダーが処理されます。指定した場合、そのエンタープライズのオーダーのみ処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

表 103. 「支払集金」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)	<p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力され、requestCollection エージェントが例外をスローする場合 (getFundsAvailable 外部プログラムからなど)、「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」が使用されて、オーダーは保留状態に置かれます。古いオーダー保留機能を使用している場合、保留の理由として使用されます。保留タイプが存在しない場合、例外がスローされます。</p> <p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力されていない場合、例外がスローされてもオーダーは保留されません。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 104. 「支払集金」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された請求要請数 (NumChargeReqsCreated)	作成された請求要請の数。
作成された承認要請数 (NumAuthorizationReqsCreated)	作成された承認要請の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AUTHORIZATION\_EXPIRATION\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) の、該当する支払ステータスにあるオーダーの数になります。オーダーの該当する支払ステータスは以下のとおりです。

- Awaiting Pay Info
- Awaiting Auth
- Requested Auth
- Request Charge
- Authorized, Invoiced
- Paid
- Release Hold
- Failed Auth
- Failed Charge
- Verify
- Failed

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 105. 「支払集金」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION.xml	あり
PAYMENT_STATUS	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS_dtd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS.xml	あり
REQUEST_PAYMENT_STATUS		YFS_PAYMENT_COLLECTION.REQUEST_PAYMENT_STATUS.xml	あり
ON_LIABILITY_TRANSFER	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.ON_LIABILITY_TRANSFER.xml	あり
ON_INVOICE_COLLECTION	order_dbd/txt	YFS_CREATE_ORDER_INVOICE.ON_INVOICE_COLLECTION.xml	あり

## 支払実行

このトランザクションは、承認および請求を保留するすべての要請を処理します。

すべての承認要請および請求要請処理にこの時間トリガー・トランザクションを使用します。

このトランザクションには、会計サービスを提供する製品とのインターフェースが必要です。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 106. 「販売オーダーの支払実行」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION
基本伝票種別	オーダー

表 106. 「販売オーダーの支払実行」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、 collectionOthers、 collectionCustomerAcct

表 107. 返品オーダーの支払実行属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、 collectionOthers、 collectionCustomerAcct

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 108. 「支払実行」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
料金タイプ	クレジット・カード・プロセスのタイプ。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• AUTHORIZATION - クレジット・カード・アカウントを検証</li> <li>• CHARGE - クレジット・カードに請求を適用</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 109. 「支払実行」の統計

統計の名前	説明
処理された承認トランザクション数 (NumAuthTransProcessed)	処理された承認トランザクションの数。
処理が完了した承認トランザクション数 (NumAuthTransSuccessfullyProcessed)	処理された承認トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
処理された請求トランザクション数 (NumChargeTransProcessed)	処理された請求トランザクションの数。
処理が完了した請求トランザクション数 (NumChargeTransSuccessfullyProcessed)	処理された請求トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
集金検証数 (NumCollectionValidations)	起動された集金検証外部プログラムからの正常な戻りの数。
クレジット・カード集金数 (NumCreditCardCollections)	クレジット・カード集金の数。
顧客アカウント集金数 (NumCustomerAccountCollections)	顧客アカウント集金外部プログラムからの正常な戻りの数。
その他の集金数 (NumOtherCollections)	その他の集金外部プログラムからの正常な戻りの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンな請求および承認トランザクションの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 110. 「支払実行」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>CHARGE_FAILED</b>	modifyOrder dbd.txt	PAYMENT_EXECUTION_ CHARGE_FAILED_dbd.txt	なし

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `executeCollection()` API で指定されたイベントを引き起こします。

## 在庫一致の公示

このトランザクションは、`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のすべてのオープンなレコードを処理し、そのレコードを会計システムに公示します。

`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のオープンなレコードのステータスは、01 です。公示後、ステータスは 02 に変更されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 111. 「在庫一致の公示」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POST_INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 112. 「在庫一致の公示」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 113. 「在庫一致の公示」の統計

統計の名前	説明
公示された在庫一致数 (NumInventoryMatchPosted)	公示された在庫一致レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンなステータスを持つ在庫一致の数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 114. 「在庫一致の公示」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
POST_INVENTORY_MATCH	POST_ INVENTORY_ MATCH_dbd.txt	YFS_postInventory Match_output.xml	なし

## オーダー保留タイプの処理

PROCESS\_ORDER\_HOLD\_TYPE 抽象化トランザクションから派生した、時間トリガー・トランザクションを作成できます。これは、1 つ以上の保留タイプの処理トランザクションとして構成できます。オーダーが、処理トランザクションとして構成されたトランザクションを持つ保留タイプに関連付けられている場合、そのトランザクションを処理するために、レコードが YFS\_TASK\_Q テーブルに作成されます。

処理トランザクションがトリガーされると、保留タイプ構成に基づいて、処理できる保留タイプをチェックします。処理できる保留タイプがない場合、YFS\_TASK\_Q レコードは削除されます。処理できる保留タイプがある場合、処理対象の保留タイプのリストと共に、processOrderHoldType 外部プログラムが起動されます。processOrderHoldType 外部プログラムは、オーダーから削除可能な保留タイプのリストを戻します。

次に、このトランザクションは、processOrderHoldType 外部プログラムによって戻される出力に基づいて、オーダーを変更し、オーダー保留タイプ・リストを更新します。これで処理できる保留タイプがなくなった場合、YFS\_TASK\_Q レコードは削除されます。処理可能な保留タイプがまだ存在する場合、YFS\_TASK\_Q は次の利用可能日で更新されます。

また、processOrderHoldType 外部プログラムを呼び出して、新規の保留タイプを追加するか、またはオーダーに既に適用されている保留タイプのステータスを変更することもできます。processOrderHoldType 外部プログラムについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs* を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 115. 「オーダー保留タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	オーダー

表 115. 「オーダー保留タイプの処理」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 116. 「オーダー保留タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_TASK_Q テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 117. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ORDER_ CHANGE.ON_ SUCCESS.xml	あり *
ON_HOLD_TYPE _STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスを変更され ます。	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ON_ HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE.xml	あり

表 117. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント (続き)

トランザクション/イベント	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE</b>	保留タイプのステータスが変更されます。	modifyOrder_dbd.txt	YFS_ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

## 保留作業オーダー・タイプの処理

この時間トリガー・トランザクションは、「オーダー保留タイプの処理」トランザクションと同じですが、このトランザクションは作業オーダーに使用されます。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 118. 「保留作業オーダー・タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_WO_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	modifyWorkOrder

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 119. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 119. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 120. 「保留作業オーダー・タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	workOrder_ dbd.txt	VAS_MODIFY_ WORK_ORDER .ON_SUCCESS. xml	あり *
ON_HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	workOrder_ ldbd.txt	VAS_ON_HOLD _TYPE_STATUS _CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

## 交渉の発行結果

このトランザクションは、交渉条件をオーダーに発行します。

オーダーで交渉フェーズを使用する必要がある環境で、このトランザクションを使用します。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 121. 「交渉の発行結果」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PUBLISH_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー

表 121. 「交渉の発行結果」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 122. 「交渉の発行結果」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 123. 「交渉の発行結果」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。
発行された交渉数 (NumNegotiationsPublished)	発行された交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 124. 「交渉の発行結果」トランザクションによって発生するイベント

基本トランザクション	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
<b>PUBLISH_ORDER_NEGOTIATION/ON_SUCCESS</b>	成功時	Negotiation_dbd.txt	YCP_get 交渉 Details_output.xml	あり *
<b>RECEIVE_ORDER_NEGOTIATION/ON_SUCCESS</b>	成功時 (伝票種別が 0001 で、エンティティ・タイプが ORDER の場合)。	同時に実行中の時間トリガー・トランザクションの数。	receiveOrder Negotiation_dbd.txt	なし

\* 注: このイベントで使用されるテンプレートは、出力 XML を形成するために getNegotiationDetails() API が使用するテンプレートと同じです。

## リリース

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してリリースし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

このトランザクションは、プロセスのスケジューリング後に起動する必要があります。

詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `releaseOrder()` API で提供される情報を参照してください。

組み合わせられた「スケジュールおよびリリース」エージェントを実行する場合、個別のスケジュール・エージェントおよび個別のリリース・エージェントを実行しないでください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 125. リリース属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RELEASE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	releaseOrder()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 126. リリースの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。</li> <li>• N - デフォルト値。リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。</li> </ul>
在庫の確認 (CheckInventory)	オプション。在庫のチェックが必要かどうかを判断します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。在庫のチェックが必要です。</li> <li>• N - 在庫のチェックは不要です。</li> </ul>
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 127. リリース条件の統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	将来の日付エラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	リリースを試行されたオーダーの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理をできないエラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
リリースされたオーダー数 (NumOrdersReleased)	リリースされたオーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。

表 127. リリース条件の統計 (続き)

統計の名前	説明
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理エラーが原因でリリースされなかったオーダーの数。

リリース・プロセスの結果、オーダー明細が分割される場合、NumOrderLinesReleased、NumOrderLinesBackordered、および NumOfReleasesCreated の結果は、1 より大きくなることがあります。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Task\_Q テーブル内の AVAILABLE\_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の releaseOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

## 出荷のルーティング

この時間トリガー・トランザクションは、出荷のルーティングに使用され、出荷パイプラインに属しています。構成されたルーティング・ガイドに基づき、出荷用の運送会社コードおよび運送会社サービス・コードを割り当てます。

出荷のルーティング・トランザクションは、既存の集合・混載に出荷を含めるか、新規の集合・混載を作成し、そこに出荷を含めます。

出荷は、以下の条件を満たす場合のみ、1 つの集合・混載にまとめることができます。

- 予定出荷日 - 出荷の予定出荷日が集合・混載の出荷期限日以前であること。
- 集合・混載出発予定日 - 集合・混載出発予定日が集合・混載内の出荷品の出荷期限日以前であること。

出荷期限日は、集合・混載に含まれるすべての出荷に基づき、集合・混載用に計算される日付です。例えば、1 つの集合・混載に 3 つの出荷があり、それぞれの出荷期限日が 2005/12/22、2005/12/12、および 2005/12/19 の場合、2005/12/12 が 3 つの日付の中で最も早いいため、集合・混載の出荷期限日は 2005/12/12 と計算されます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 128. 出荷のルーティング

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ROUTE_SHIPMENT.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	ORDER_DELIVERY
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	com.yantra.ydm.japi.ue.YDMOverrideDetermineRoutingUE com.yantra.ydm.japi.ue.YDMBeforeDetermineRoutingUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 129. 出荷のルーティングの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 130. 出荷のルーティングの統計

統計の名前	説明
ルーティング数 (NumRouted)	ルーティングされる出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 131. 出荷のルーティング・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり
ON_FAILURE	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_FAILURE.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON\_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

## スケジュール

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してスケジュールし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

オーダー作成後にこのトランザクションを実行します。

個別のスケジュール・エージェントまたはリリース・エージェントは、組み合わされた「スケジュールおよびリリース」エージェントの実行中は実行しないでください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 132. スケジュールの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SCHEDULE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	scheduleOrder()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 133. スケジュールの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
最大レコード数 (MaximumRecords)	スケジュール・エージェントが検出可能で、考えられるソリューションの最大数を判別します。このパラメーターにより、検出される最適なソリューションが改善される可能性があります。このエージェントのパフォーマンスにも影響を及ぼします。  これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5 に設定されます。
最適化タイプ (OptimizationType)	オプション。スケジューリング処理に適用する最適化ルールを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 01 - 日付で最適化 (デフォルト)</li> <li>• 02 - 出荷ノードの優先順位で最適化</li> <li>• 03 - 出荷数で最適化</li> </ul>
フィルターするオーダー (OrderFilter)	オプション。フィルターするオーダー・タイプを決定します。指定できる値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A - 全オーダー (デフォルト)</li> <li>• B - バックオーダーのみ</li> <li>• N - 新規オーダーのみ</li> </ul>
スケジュールおよびリリース (ScheduleAndRelease)	オプション。スケジュール・プロセスに対してリリース可能なすべての明細数量をリリースするように通知します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - スケジュール済み明細数量を正常にリリースします。</li> <li>• N - デフォルト値。明細数量のスケジュールのみ行います。</li> </ul> <p>このパラメーターを使用可能にすると、リリース・トランザクションに構成される保留タイプは妥当性検査されません。</p>
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。</li> <li>• N - リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。これがデフォルトです。</li> </ul>
次のタスク・キュー間隔	未使用。このエージェントは、失敗したタスクを更新し、適切にスケジュールされたルール内のバック・オーダー再試行間隔セットアップに対して保留になるようにします。

表 133. スケジュールの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 134. スケジュールの統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	<p>将来の日付エラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OrderFilter が「B」(バックオーダーのみ) でバックオーダー済み明細およびスケジュール解除明細がない場合。</li> <li>OrderFilter が「N」(新規オーダーのみ) でバックオーダー済み明細またはスケジュール解除明細がいくつかある場合。</li> <li>オーダーに、バックオーダー済みステータスまたはスケジュール解除ステータスのみのオーダー明細があり、ステータス変更タイム・スタンプが現在時刻からスケジューリング・ルールに指定されるバック・オーダー待機期間を減算した日時よりも後の場合。</li> </ul>
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	スケジュールを試行したオーダーの数。この統計には、NumFutureDateFailures 統計および NumOrdersCannotBeProcessedFailures 統計の値は含まれません。
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。

表 134. スケジュールの統計 (続き)

統計の名前	説明
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	<p>処理をできないエラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• YFSCheckOrderBeforeProcessingUE 外部プログラムの結果が false として戻される。</li> <li>• オーダーの HoldFlag 属性に「Y」が設定される。</li> <li>• オーダーの SaleVoided 属性に「Y」が設定される。</li> <li>• オーダーの PaymentStatus が、「承認済み」、「請求済み」、「支払済み」、および「該当せず」のいずれでもない。</li> </ul>
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成されたオーダーの数。これには、作成された調達オーダーの数も含まれます。
作成されたオーダー明細数 (NumOrderLinesCreated)	作成されたオーダー明細の数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
スケジュールされた明細数 (NumOrdersScheduled)	<p>スケジュールされた明細が少なくとも 1 つはあるオーダーの数。</p> <p>これには、「バック・オーダー」を除くあらゆるステータスのスケジュール済み明細が含まれます。</p>
作成された調達オーダー数 (NumOrdersProcOrdersCreated)	作成された調達オーダーの数。
作成された作業オーダー数 (NumWorkOrdersCreated)	作成された作業オーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。
スケジュールされたオーダー明細数 (NumOrderLinesScheduled)	スケジュールされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `scheduleOrder()` API で指定されるイベントを発生させます。

## Oracle ヒントの指定

Oracle ヒントを指定して、`scheduleOrder` エージェントのパフォーマンスを向上させることができます。`scheduleOrder` エージェントのそれぞれの条件 ID に指定できるヒントは、外部ヒントおよび内部ヒントの 2 つです。外部ヒントは、`YFS_TASK_Q` テーブルで必ず使用されます。内部ヒントは、初期の保留機能が使用される場合のみ、`YFS_ORDER_HEADER` テーブルで使用されます。それ以外の場合、内部ヒントは、`YFS_ORDER_RELEASE_STATUS` テーブルで使用されます。

Oracle ヒントを使用可能にするには、以下のエントリを `yfs.properties` ファイルに挿入します。

1. `<INSTALL_DIR>/properties/yfs.properties` ファイルを編集します。
2. `yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.outer=/* parallel(YFS_TASK_Q 8) full(yfs_task_q) */` を挿入します。  
  
`yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.inner=/* NL_SJ */` を挿入します。

## インボイスの送付

このトランザクションは、外部の売掛システムに送信できるインボイス・データを公開します。

売掛システムとのインターフェースを必要とする環境では、このトランザクションをスケジュールに入れる必要があります。このトランザクションは、インボイス向けのイベントの発生を、以下の構成に基づきオーダー・ライフサイクルの次のタイミングで行います。

- 出荷作成時にインボイス発行 - これは、ご使用の買掛システムが支払集金を行うことを示します。インボイスは、作成されると即時に発行できます。
- 支払集金後にインボイス発行 - これは、コンソールで支払集金を行うことを示します。支払いが `AT_COLLECT` ステータスにあり、支払いが外部システムからは行われない場合、すべての支払い金額が集金済みのときのみインボイスが発行されます。支払いが `AT_CREATE` ステータス、または支払いが外部システムから行われる場合、インボイスは無条件に発行されます。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 135. インボイスの送付の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_INVOICE

表 135. インボイスの送付の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	getOrderInvoiceDetails()

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 136. インボイスの送付の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 137. インボイスの送付の統計

統計の名前	説明
送信されたインボイス数 (NumInvoicesSent)	送信されたインボイスの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、作成済み (「00」) ステータスのオーダー・インボイスの数です。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 138. インボイスの送付トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_INVOICE_DETAIL	modifyOrder_dbd.txt および sendInvoice_dbd.txt	YFS_getOrderInvoice Details_output.xml	あり

追加のイベントが `getOrderInvoiceDetails()` API により発生することがあります。イベントについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」のこの API で提供される詳細情報を参照してください。

## アイテム変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信されるアイテム・データの変更を公開します。

アイテム変更が *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で発生すると、アイテム変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、すべてのアイテムの同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、`sendItemChanges` エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを抽出します。また、`SyncTS` が `NULL` か `MaxModifyTS` が `SyncTS` より大きいすべてのアイテムを抽出します。

アイテムの `MaxModifyTS` は、アイテムが変更されるたびに現在のタイム・スタンプを使用して更新されます。次に、トランザクションはそれらのアイテムに関する詳細情報を取得し、`ON_SUCCESS` イベントを発生させます。このイベントは、「アイテム変更を送信」アクションの起動のために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 139. アイテム変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ITEM_CHANGES
基本伝票種別	なし

表 139. アイテム変更の送信の属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 140. アイテム変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。アイテムの同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とするアイテムの数です。これは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを算出します。また、SyncTS が NULL か MaxModifyTS が SyncTS より大きいアイテムを算出します。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 141. アイテム変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	なし	YCM_SEND_ITEM_CHANGES_ON_SUCCESS.XML	あり

## 顧客変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信される顧客変更データを公開します。

顧客変更が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生すると、顧客変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、顧客の同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、sendItemChanges エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、ユーザー ID を現在有するコンシューマーであり、同期化を必要とするすべての顧客を抽出します。また、このトランザクションは、2 つのシステム間でユーザーの初期の同期を実行するのにも使用できます。例えば、外部システムが既に存在しており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が追加される場合、SendCustomerChanges エージェントは外部システムのユーザーを同期化します。

sendCustomerChanges エージェントは、バックアップ手段としても機能します。顧客の同期イベントが失敗した場合、エージェントは、指定された時間の経過後に自動的に同期を再試行します。

顧客の MaxModifyTS の更新は、顧客が変更される場合と syncTS が MaxModifyTS より小さい場合には常に、現在のタイム・スタンプを使用して行われ、また syncTS が NULL の場合にも現在のタイム・スタンプを使用して行われます。次に、トランザクションはそれらの顧客に関する詳細情報を取得し、ON\_SUCCESS イベントを発生させます。このイベントは、顧客変更の送信アクションを起動するために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 142. 顧客変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_CUSTOMER_CHANGES
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 143. 顧客変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。顧客の同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とする顧客の数です。これは、コンシューマーであり、ユーザー ID を現在有し、さらに同期化を必要とする、顧客について算出されます。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 144. 顧客変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS	なし	YSC_SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS.XML	あり

## オーダーの送信

このトランザクションは、OrderHeaderKey がタスク・キュー・オブジェクトに格納されるオーダーに関して、ON\_SUCCESS イベントを発生するように試行します。イベントが発生するのは、オーダーのすべてのオーダー明細が特定のステータス (複数の場合あり) に完全に達するときのみです。つまり、明細ごとの ORDERED\_QTY 全体が特定のステータス (複数の場合あり) になる必要があります。イベントの発生に加え、明細のステータスもドロップ・ステータスに変更されて、ピックアップ・ステータスに対応します。抽象化トランザクション SEND\_ORDER から派生する

SendOrder トランザクションでは、イベント、ピックアップ、およびドロップの各ステータスを構成する必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `sendOrder()` API で提供される詳細情報を参照してください。

オーダーでサード・パーティーとの通信が必要な場合は、このトランザクションを使用します。

タスク・オブジェクトにポストされる `TransactionKey` は、オーダーに関連付けられる `ProcessType` の抽象化トランザクション `SEND_ORDER` のインスタンスであることが必要です。それ以外の場合、例外がスローされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 145. オーダーの送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>sendOrder()</code>

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 146. オーダーの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の sendOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

## リリースの送信

リリースの送信エージェントは、リリースを出荷ノードにディスパッチします。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 147. リリースの送信の属性

属性	値
トランザクション名	リリースの送信
トランザクション ID	SHIP_ADVICE
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	com.yantra.yfs.agent.YFSWMSShipAdviceAgent

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 148. リリースの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 149. リリースの送信の統計

統計の名前	説明
処理されたりリース数 (NumReleasesProcessed)	処理されたオーダー・リリースの数。
送信されたりリース数 (NumReleasesSent)	送信されたオーダー・リリースの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 150. リリースの送信トランザクションで発生するイベント

トランザクションイベント	公開されるデータ
PUBLISH_SHIP_ADVICE	YFS_publishShipAdvice_output.xml

## オーダー開始交渉

このトランザクションは、交渉プロセスを経るよう構成される、オーダーの交渉を作成します。

このトランザクションは、オーダーが、リリース前に交渉フェーズを経る必要のある環境で使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 151. オーダー開始交渉の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	START_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createNegotiation()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCPBeforeCreateNegotiationUE、YCPGetNegotiationNoUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 152. オーダー開始交渉の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 153. オーダー開始交渉の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された交渉数 (NumNegotiationsCreated)	作成された交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の createNegotiation() API で指定されるイベントを発生させます。

## コロニー・マップの同期化

コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェントは、PLT\_COLONY\_MAP テーブル内の組織およびユーザーのコロニー・マップの挿入または更新を行います。エージェントを最初に実行する場合、エージェントはこのテーブルにデータを入れま

す。これは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のインストール後および更新後、マルチ・スキーマ・モードにアップグレードする際に必要なステップです。

マルチ・スキーマ・モードへのアップグレードについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Multi-Tenant Enterprise Guide*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 154. コロニー・マップ・シンクロナイザーの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	COLONY_MAP_SYNC
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 155. コロニー・マップ・シンクロナイザーの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	同期されるコロニー。  エージェントが PLT_COLONY_MAP テーブルにデータを設定するように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール済み環境に備わっているデフォルトのコロニーで、最初にエージェントを実行する必要があります。この後に、別の ColonyID でエージェントを実行できます。
InsertDefaultMappings	「Y」が設定されている場合、コロニーが特定できないユーザーは、コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェント実行対象のコロニーにマッピングされます。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

なし。

## ベスト・マッチ地域の更新

ベスト・マッチ地域の更新トランザクションは、YFS\_REGION\_BEST\_MATCH テーブルを管理し、このテーブルは、ベスト・マッチ地域データをレポートするデータウェアハウス分析で使用されます。ベスト・マッチ地域は、個人情報レコード内の以下の 5 つの住所属性により定義されます。

- ADDRESS\_LINE6
- CITY
- 都道府県 (STATE)
- SHORT\_ZIP\_CODE
- COUNTRY

ベスト・マッチ地域の更新トランザクション用のエージェントは、2 つのモードで稼働します。このモードを使用して、YFS\_REGION\_BEST\_MATCH テーブルのセットアップおよび更新を行うことができます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 156. ベスト・マッチ地域の更新の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	UPDATE_BEST_MATCH_REGION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YSCGetShortZipCode UE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 157. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 UpdateOnly = N の場合、エージェントを呼び出すごとに特定のレコードのみ戻されます。空欄のままにすると、デフォルトは 1000 です。
テーブル・タイプ (TableType)	YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。  有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。  CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。  TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。  エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対しても実行されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
UpdateOnly	実行モード。有効な値は、以下のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• N - デフォルト値。レコードを YFS_PERSON_INFO テーブルから YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルに追加し、地域キーを YFS_BEST_MATCH テーブルに入れます。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行するには、UpdateOnly に N を設定します。</li> <li>• Y - 更新モード。地域キーを YFS_REGION_BEST_MATCH 内の住所に基づき更新します。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行後、この値に Y を設定して更新モードを指定します。</li> </ul>
LastPersonInfoKey	オプション。UpdateOnly に N が設定される場合、LastPersonInfoKey は、最初に入れる個人情報レコードを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

表 157. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
<b>LastRegionBest MatchKey</b>	オプション。UpdateOnly に Y が設定される場合、LastRegionBestMatchKey は、更新する最初の地域ベスト・マッチ・キーを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

### 追跡対象の統計

なし。

### 保留中のジョブの数

なし。

### 発生するイベント

なし。

### ページされるテーブル

なし。

## 所有権転送サマリーの読み込み

このメソッドは、YFS\_OWNERSHIP\_TRANSFER\_SUMMARY テーブルを更新します。

このトランザクションは、YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD テーブル内のレコードをチェックすることによって、YFS\_OWNERSHIP\_TRANSFER\_SUMMARY テーブルを更新します。

また、このトランザクションによってレコードが使用された後、YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD テーブル内の IS\_STATISTICS\_UPDATED を「Y」に更新します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 158. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POPULATE_OWN_TRANS_SUMM
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 159. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルおよび YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

なし

---

## 時間トリガー・ページ・トランザクション

一定の時間間隔でデータベース表をページするために使用できる、いくつかのトランザクションがあります。

ページ・トランザクションは、現在日付を判別し、ページに指定された保持日数を差し引くことで、表をページする時を決定します。表のタイム・スタンプが「現在日付から保持日数を差し引いた日付」を経過していれば、表はページされます。

場合によっては、ページが表のタイム・スタンプ以外の別のフィールドを参照することもあります。これらは資料内で示されています。

エンティティーがページされる場合、他の表に存在する関連情報または従属情報を一緒にページするかを考慮する必要があります。例えば、ライブ出荷があるオーダーがページされると、オーダー出荷コンソール内のそのオーダーの相互参照は不正確になります。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべての時間トリガー・ページ・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、その時間トリガー・トランザクションの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## ページ方法

各ページ・トランザクションに対してページ方法を計画するには、以下の推奨事項を考慮に入れる必要があります。

- 「ライブ」を「N」に設定して、ページをテストします。
- ページ内容をテストするためにロギングをオンにします。
- System Management Console でページ・トレースをセットアップし、情報を分析します。

## ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成

### このタスクについて

ページを構成して、指定するディレクトリーにログ・ファイルを書き込むことができます。特定のページを実行するたびに、新規データがこのファイルに追加されます。ファイルが存在しない場合、作成されます。

ページ・ログ・ファイル・ディレクトリーを指定するには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. yfs.purge.path プロパティーを <INSTALL\_DIR>/properties/customer\_overrides.properties ファイルに構成します。例えば、UNIX では、ログ・ファイルが /app/yfs/logs/purges ディレクトリーに書き込まれるように指定できます。  
  
customer\_overrides.properties ファイルを使用したプロパティーのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティー・ガイド』を参照してください。
2. UNIX で <INSTALL\_DIR>/bin/setupfiles.sh スクリプトを実行するか、Windows で <INSTALL\_DIR>/bin/setupfiles.cmd スクリプトを実行します。

## 使用可能なページ

このセクションでは、すべてのページ・トランザクションの詳細を英字順に記載しています。

## アクセス・トークン・ページ

このページは、アクセス・トークンをシステムから削除します。以下の条件がすべて満たされる場合、PLT\_ACCESS\_TOKEN テーブルからページ対象が選択されます。

- アクセス・トークンが期限切れか、非アクティブ状態にある。
- 最終変更日時が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付以前である。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 160. 「アクセス・トークン・ページ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ACCESSTOKPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 161. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>

表 161. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 162. 「アクセス・トークン・ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたアクセス・トークン数 (NumAccessTokenPurged)	ページされたアクセス・トークンのレコード数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_ACCESS\_TOKEN テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_ACCESS\_TOKEN

## キャパシティー・ページ

このページは、システムからキャパシティー・データを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、ページ対象のキャパシティー・データが選択されます。

- すべてのリソース・プールの標準キャパシティー期間の有効終了日が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのオーバーライド済みキャパシティーの日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、予定日が、システム日付からページ条件の保持日数 (手動で作成された予約の場合は「手動予約のページ・リード日数 (ManualReservationPurgeLeadDays)」) を引いた日付よりも古い。

- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、有効期限が過ぎており、予約 ID が空欄ではない。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 163. 「キャパシティー・パージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 164. 「キャパシティー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 165. 「キャパシティー・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた標準キャパシティー期間数 (NumStdCapacityPeriodsPurged)	パージされた標準キャパシティー期間の数。
パージされたキャパシティー・オーバーライド数 (NumCapacityOverridesPurged)	パージされたキャパシティー・オーバーライドの数。
パージされたキャパシティー消費数 (NumCapacityConsumptionsPurged)	パージされたキャパシティー消費の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_RES\_POOL\_STD\_CAPCTY\_PERD、YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_OVERRIDE、YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS、およびYFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_CONSMPTN の各テーブルからパージできるレコードの総数です。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_RES\_POOL\_STD\_CAPCTY\_PERD テーブルは、EFFECTIVE\_TO\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_OVERRIDE テーブルは、CAPACITY\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CAPCTY\_CONSMPTN テーブルは、CONSUMPTION\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合、または手動で予約された場合は、CONSUMPTION\_DATE <= (現在日付 - 手動予約の保持日数) の場合にパージされます。このテーブルがパージされると、YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS もパージされます。

YFS\_RES\_POOL\_CONSMPTN\_DTLS テーブルは、RESERVATION\_EXPIRATION\_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

## ドラフト・オーダー履歴パージ

このパージは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルからデータを削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。

ページ・コードの疑似論理を使用して、ページを分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴をページするためにドラフト・オーダーが選択されます。

- 最後に変更されたドラフト・オーダーの日付が、保持日数の期間を過ぎている。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

**注:** ドラフト・オーダーをページして履歴テーブルに移動してから、ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする必要があります。195 ページの『ドラフト・オーダー・ページ』を参照してください。

*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* では、ドラフト・オーダー履歴をページするトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード `DRAFTORDERHISTPRG` を指定することができます。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするための「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、229 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

## 条件パラメーター

ドラフト・オーダー履歴トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 166. 「ドラフト・オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。資格を満たすレコードを、「ページされるテーブル」に記載された履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>

表 166. 「ドラフト・オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERHISTPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

なし。

### 発生するイベント

なし。

### パージされるテーブル

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN\_H

YFS\_ANSWER\_TRAN\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST\_H

YFS\_CHARGE\_TRANSACTION\_H

YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION\_H

YFS\_ENTITY\_ADDRESS\_H

YFS\_HEADER\_CHARGES\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

YFS\_INVOICE\_COLLECTION\_H

YFS\_LINE\_CHARGES\_H

YFS\_NOTES\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL\_H

YFS\_ORDER\_DATE\_H

YFS\_ORDER\_HEADER\_H

YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS\_H  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM\_H  
YFS\_PAYMENT\_H  
YFS\_PROMOTION\_AWARD\_H  
YFS\_PROMOTION\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_H  
YFS\_REFERENCE\_TABLE\_H  
YFS\_TAX\_BREAKUP\_H

## **ドラフト・オーダー・ページ**

このページは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルにデータを保存します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。履歴テーブルからのドラフト・オーダーのページについて詳しくは、192 ページの『ドラフト・オーダー履歴ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー・ページ用のトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダーをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダーをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード DRAFTORDERPRG

を指定することができます。ドラフト・オーダー・ページ用の「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、229 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

ドラフト・オーダーは、以下の条件が満たされる場合に、検証用のエージェントによって選択されます。

- ドラフト・オーダー・フラグが、Y に設定されている。
- 変更時のタイム・スタンプが、保存日付に対して設定されている。

ドラフト・オーダーの選択後、以下の条件に基づいて、各ドラフト・オーダーのページについて妥当性が検証されます。

- オーダーに、資格を満たすオーダー・リリース・ステータス・レコード (ゼロより大きなステータスを持つレコード) が存在しない。
- オーダーの未完了の子オーダー (派生、連鎖、返品、交換、または返金フルフィルメント) が既にすべてページされている。

ドラフト・オーダーが上記の一連の検証条件を満たす場合、エージェントは以下の条件について引き続きドラフト・オーダーを検証します。

- 「ドラフト作成済み」ステータス (1000) およびすべての拡張「ドラフト作成済み」ステータスが含まれる。
- 保持日数に適合しないオーダー・リリース・ステータス・レコードが含まれない。
- オーダーの最後の変更が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
- 交換オーダーが返品オーダーの一部である場合、返品オーダーをページする前に交換オーダーが履歴テーブルからページされている。
- オーダー明細予約の場合、ドラフト・オーダーのページは不可。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが N に設定されている場合、ドラフト・オーダーはページされる。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが Y に設定され、ドラフト・オーダーに料金が存在する場合、ドラフト・オーダーはページされない。ただし、ドラフト・オーダーのページを検証する場合、承認は考慮されない。
- オーダー明細の場合、以下のサービス・オーダー明細は除外されます。
  - セラーの在庫更新が必要で、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンに設定され、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。(「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが使用可能なカスタム・セラー供給タイプでも可。)
  - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
  - バイヤーの在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。

## 条件パラメーター

「ドラフト・オーダー・ページ」トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 167. 「ドラフト・オーダー・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクの再処理を検討するまでの中断期間を、時間単位で指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー・ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  エンタープライズ・コードが空欄の場合、デフォルト・エンタープライズに対して構成されたページ条件が使用され、ドラフト・オーダーのエンタープライズに対して構成されたページ条件は使用されません。
タイプ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN

YFS\_ANSWER\_TRAN  
YFS\_CHARGE\_TRANSACTION  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST  
YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION  
YFS\_ENTITY\_ADDRESS  
YFS\_HEADER\_CHARGES  
YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL  
YFS\_INVOICE\_COLLECTION  
YFS\_LINE\_CHARGES  
YFS\_MONITOR\_ALERT  
YFS\_NOTES  
YFS\_ORDER\_AUDIT  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL  
YFS\_ORDER\_HEADER  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG  
YFS\_ORDER\_INVOICE  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG  
YFS\_ORDER\_LINE\_RESERVATION  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE\_SRC\_CNTRL  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC

YFS\_ORDER\_RELEASE  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM  
YFS\_ORDER\_DATE  
YFS\_PAYMENT  
YFS\_PMNT\_TRANS\_ERROR  
YFS\_PROMOTION  
YFS\_PROMOTION\_AWARD  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL  
YFS\_REFERENCE\_TABLE  
YFS\_TAX\_BREAKUP

### **配送計画のパージ (Delivery Plan Purge)**

配送計画が通常のライフサイクルを完了した場合、このパージによって配送計画を削除します。配送計画に関連付けられたすべての集合・混載と出荷をパージしてから、このパージ・エージェントを実行する必要があります。

条件パラメーターで指定された保持日数を超える期間「完了」のマークが付けられていた配送計画、および、どの出荷、集合・混載も含まない配送計画が、すべてパージされます。設定されたリード・タイム (日単位) より前に、オーダーを履歴に移動しておく必要があります。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、配送計画がパージ対象として選択されます。

- 配送計画が「完了」ステータスにある。
- 配送計画が、どの集合・混載、出荷にも関連付けられていない。
- 配送計画に関連付けられたすべてのオーダーが、パージされている。
- 配送計画に対して最後に行われた変更が、設定されたリード・タイム (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 168. 「配送計画のバージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DELIVERYPLANPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 169. 「配送計画のバージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「配送計画のバージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li><li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li></ul>

表 169. 「配送計画のパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_DELIVERY_PLAN テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 170. 「配送計画のパージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた配送計画数 (NumDeliveryPlansPurged)	パージされた配送計画の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_DELIVERY\_PLAN テーブルからパージできるレコードの数です。

7 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_DELIVERY\_PLAN

## エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)

このパージは、システムからエクスポート・テーブルのデータを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、パージ対象として YFS\_EXPORT テーブルから選択されます。

- YFS\_EXPORT レコードに、処理済み (ステータス = 10) のマークが付けられている。
- 最後に変更された時刻が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。  
このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されません。

アプリケーション・コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 171. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 172. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 172. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_EXPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 173. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」の統計

統計の名前	説明
ページされたエクスポート数 (NumExportsPurged)	ページされたエクスポートの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Export テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_EXPORT

## インポート・テーブル・ページ

このページは、インポート・テーブル・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS\_IMPORT テーブルがページ対象としてピックアップされます。

- YFS\_IMPORT レコードが「処理済み」としてマークされている (Status = "10")。
- 「最終変更時刻」がリード・タイム設定 (日単位) より前である。  
このページは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 174. 「インポート・テーブル・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	IMPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 175. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
パージ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 175. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID	YFS_IMPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 176. 「インポート・テーブル・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたインポート数 (NumImportsPurged)	パージされたインポート・テーブルの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Import テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_IMPORT

## 在庫監査パージ

このパージは、在庫監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

現在日付からパージ条件の保持日数を引いた日付より前の変更時のタイム・スタンプを持つ、指定された組織のすべての在庫監査を、「在庫監査パージ」でピックアップされるように構成できます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、在庫監査レコードはパージ対象としてピックアップされます。

- 在庫監査レコードの最終変更日時が、現在のタイム・スタンプから保持日数を引いた日時よりも前である。

このパージのエージェント条件の詳細のスレッド数が 1 に設定されている必要があります。エージェント条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

「在庫監査パージ」は、そうするように構成されていた場合でも、過去 60 日以内のレコードはパージしません。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 177. 「在庫監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYAUDITPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 178. 「在庫監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫監査ページ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 179. 「在庫監査」の統計

統計の名前	説明
ページされた在庫監査数 (NumInventoryAuditsPurged)	ページされた在庫監査の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Inventory\_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_AUDIT

## 在庫ページ

このページは、在庫データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このページは、ページの際に保持日数を考慮しません。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY では、以下の条件を満たす場合、在庫供給はページ対象としてピックアップされます。

- 供給レコードとノードの在庫状況タイプが同じである。例えば、「追跡」または「無限」である。
- 供給レコードの量が 0 である。
- 供給レコードに、「情報」の供給タイプが含まれていない。

YFS\_INVENTORY\_DEMAND では、以下の条件を満たす場合、在庫需要はページ対象としてピックアップされます。

- 需要レコードの量が 0 以下である。
- YFS\_INVENTORY\_DEMAND\_ADDNL テーブル内に需要の詳細および一致する需要レコードがない。

YFS\_INVENTORY\_TAG の場合、INVENTORY\_TAG\_KEY を使用する既存の供給および需要がない場合に、ページされます。

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION では、以下の条件を満たす場合、在庫予約はページ対象としてピックアップされます。

- 在庫予約レコードの量が 0、または出荷日が、システム日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前である。

YFS\_INVENTORY\_NODE\_CONTROL では、INV\_PIC\_INCORRECT\_TILL\_DATE が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

YFS\_IBA\_TRIGGER では、IBA\_REQUIRED = 'N'、IBA\_RUN\_REQUIRED = 'N'、および LAST\_IBA\_PROCESSED\_TS が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 180. 「在庫パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 181. 「在庫パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「在庫パージ」を実行する対象の在庫組織。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>

表 181. 「在庫パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 182. 「在庫パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫需要数 (NumInventoryDemandsPurged)	パージされた在庫需要の数。
パージされた在庫ノード管理数 (NumInventoryNodeControlsPurged)	パージされた在庫ノード管理の数。
パージされた在庫予約数 (NumInventoryReservationsPurged)	パージされた在庫予約の数。
パージされた在庫タグ数 (NumInventoryTagsPurged)	パージされた在庫タグの数。
パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガー数 (NumItemBasedAllocationTriggersPurged)	パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Inventory\_Supply、YFS\_Inventory\_Demand、YFS\_Inventory\_Tag、YFS\_Inventory\_Reservation、YFS\_IBA\_Trigger、および YFS\_Inventory\_Node\_Control テーブルからパージできるレコードの総数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_IBA\_TRIGGER

YFS\_INVENTORY\_DEMAND

YFS\_INVENTORY\_TAG

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY

YFS\_INVENTORY\_NODE\_CONTROL

## 在庫供給一時パージ

「在庫供給一時パージ」エージェントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーとノード上の実際の在庫ピクチャーの同期プロセスによって生成された、一時在庫テーブルのコンテンツをクリーンアップします。

ノード在庫ピクチャーは、ロードのプロセス時に、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルに保管されます。同期フェーズが完了し、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY テーブルの更新が終了したら、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルをパージする必要があるため、このエージェントがそのパージを実行します。

ノード在庫との同期の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

「在庫供給一時パージ」エージェントを使用して、YantraMessageGroupID のグループについて、現在日時からパージ条件の保持日数を引いた日時より前の変更時のタイム・スタンプを持つ YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP 内のすべてのレコードがパージされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 183. 「在庫供給一時パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SUPPLYTEMPPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 184. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 184. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫供給一時パージ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 185. 「在庫供給一時パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫一時供給数 (NumInventorySupplyTempsPurged)	パージされた YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブル内のエントリーの数。

## 保留中のジョブの数

最大の変更時のタイム・スタンプが現在のタイム・スタンプからパージ条件のリード日数を引いた日時より前である、YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP テーブルの固有の YantraMessageGroupID の数。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_SUPPLY\_TEMP

## アイテム監査パージ

このパージは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このパージ

は、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをパージします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS\_AUDIT レコード、および「YFS\_ITEM」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS\_ITEM テーブル内のレコードを変更したときに、YFS\_ITEM が監査され、監査レコードが YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このパージ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションを適宜スケジュールする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 186. 「アイテム監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ITEM_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 187. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>

表 187. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 188. 「アイテム監査パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたアイテム監査レコード数 (NumItemAuditRecords Purged)	パージされたアイテム監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_AUDIT、YFS\_AUDIT\_HEADER

## 集合・混載履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、集合・混載データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。集合・混載に行われた最終変更が、リード・タイム (日単位) が満たされるより前の場合、パージ対象として集合・混載がピックアップされます。

このトランザクションを実行する前に、必ず集合・混載をパージして、履歴テーブルに移動してください。集合・混載のパージに関する詳細は、215 ページの『集合・混載パージ』を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 189. 「集合・混載履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADHISTPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 190. 「集合・混載履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 191. 「集合・混載履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載履歴数 (NumLoadHistoriesPurged)	パージされた集合・混載履歴の数。
パージされた集合・混載の出荷履歴数 (NumLoadShipmentHistoriesPurged)	パージされた集合・混載の出荷履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Load\_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_LOAD\_H

YFS\_LOAD\_STOP\_H

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGE\_H

YFS\_LOAD\_STATUS\_AUDIT\_H

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER\_H

YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY\_H

YFS\_LOADED\_CONTAINER\_H

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_H

YFS\_ADDITIONAL\_DATE\_H

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H

## 集合・混載パージ

このパージは、集合・混載データをシステムから削除します。「クローズ」としてマークされているすべての集合・混載をピックアップしてパージします。空の集合・混載 (出荷のない集合・混載など) は、パージ対象と見なされません。このパージの一部として、関連した子テーブルもパージされます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、集合・混載はページ対象としてピックアップされます。

- 集合・混載の最終変更が、リード・タイム設定 (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 192. 「集合・混載ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 193. 「集合・混載ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>

表 193. 「集合・混載パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 194. 「集合・混載パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載の出荷数 (NumLoadShipmentsPurged)	パージされた集合・混載の出荷の数。
パージされた集合・混載数 (NumLoadsPurged)	パージされた集合・混載の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Load テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_DATE

YFS\_LOAD

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE

YFS\_LOAD\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_LOAD\_STOP

YFS\_LOAD\_SHIPMENT

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGES (この集合・混載に関する料金)

YFS\_LOAD\_STATUS\_AUDIT

YFS\_LOADED\_CONTAINER

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER

## 交渉履歴ページ

このページは、交渉履歴データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これによって、オーダー交渉履歴テーブルからデータがページされます。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉は履歴ページ対象としてピックアップされます。

- 交渉の最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 195. 「交渉履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	NEGOTIATIONHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 196. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 196. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 197. 「交渉履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた交渉履歴数 (NumNegotiationHistoriesPurged)	ページされた交渉履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Negotiation\_Hdr\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_NEGOTIATION\_HDR\_H

YFS\_NEGOTIATION\_LINE\_H

YFS\_RESPONSE\_H

YFS\_RESPONSE\_HDR\_H

YFS\_RESPONSE\_LINE\_H

YFS\_RESPONSE\_LINE\_DTL\_H

## 交渉ページ

このページは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キュー (YFS\_TASK\_Q) テーブルから動作します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉はページ対象としてピックアップされます。

- 交渉に対して行われた最終変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- 交渉がピックアップ可能なステータスにある。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 198. 「交渉ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 199. 「交渉ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 199. 「交渉パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 200. 「交渉パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたオーダー交渉数 (NumOrderNegotiationsPurged)	パージされたオーダー交渉の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし

## パージされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_NEGOTIATION\_HDR

YFS\_NEGOTIATION\_LINE

YFS\_RESPONSE

YFS\_RESPONSE\_HDR

YFS\_RESPONSE\_LINE

## 案件履歴パージ

このトランザクションは、案件パージによって前にアーカイブされたタスクを削除します。223 ページの『案件パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件パージ・エージェントによって前にパージされた案件が、履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 見積履歴がパージされている。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 201. 「案件履歴パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYHISTPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 202. 「案件履歴パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>

表 202. 「案件履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたページ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたページ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 203. 「案件履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた案件履歴数 (NumOpportunityHistoryPurged)	ページされた案件履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_OPPORTUNITY\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_OPPORTUNITY\_H

## 案件ページ

この時間トリガー・トランザクションは、「案件ページ」条件で指定された保持日数より長い期間のすべての案件、および「キャンセル済み」または「完了済み」のいずれかのステータスにあるすべての案件をページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件はページ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 案件に関連付けられた見積がページされている。
- 案件が、ページ・トランザクションによってピックアップ可能なステータスにある。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 204. 「案件ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 205. 「案件ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 205. 「案件パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 206. 「案件パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた案件数 (NumOpportunityPurged)	パージされた案件の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_OPPORTUNITY テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_OPPORTUNITY

## オーダー履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

このトランザクションを実行するには、オーダーがパージされ、履歴テーブルに移動されている必要があります。これについて詳しくは、229 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーは履歴パージ対象としてピックアップされます。

- オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 207. 「オーダー履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDERHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 208. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 208. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 209. 「オーダー履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー履歴数 (NumOrderHistoriesPurged)	ページされたオーダー履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Order\_HEADER\_H テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN\_H

YFS\_ANSWER\_TRAN\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_REQUEST\_H

YFS\_CHARGE\_TRAN\_RQ\_MAP\_H

YFS\_CHARGE\_TRANSACTION\_H

YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION\_H

YFS\_ENTITY\_ADDRESS\_H

YFS\_HEADER\_CHARGES\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

YFS\_INVOICE\_COLLECTION\_H

YFS\_LINE\_CHARGES\_H

YFS\_NOTES\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL\_H

YFS\_ORDER\_AUDIT\_H  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL\_H  
YFS\_ORDER\_DATE\_H  
YFS\_ORDER\_HEADER\_H  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL\_H  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG\_H  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE\_H  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_H  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS\_H  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM\_H  
YFS\_PAYMENT\_H  
YFS\_PROMOTION\_AWARD\_H  
YFS\_PROMOTION\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL\_H  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_H  
YFS\_REFERENCE\_TABLE\_H  
YFS\_TAX\_BREAKUP\_H  
YIC\_BOM\_HEADER\_H  
YIC\_BOM\_LINE\_H  
YIC\_BOM\_MESSAGE\_H

## オーダー・パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。オーダーを履歴テーブルからパージするには、225 ページの『オーダー履歴パージ』を参照してください。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キューで動作します。トランザクション PURGE で使用可能なオーダーを、YFS\_TASK\_Q テーブルからピックアップします。

パージ条件が一致しない場合、AVAILABLE\_DATE が YFS\_ORDER\_HEADER テーブルおよび YFS\_TASK\_Q テーブル内のオーダーの変更タイム・スタンプで、どちらか最大の方に基づいて計算されます。この値については、保持日数が新規の AVAILABLE\_DATE に追加されます。

このトランザクションは、「パージ」トランザクションによってピックアップ可能なステータスにあるオーダーの、すべての明細に依存します。

以下のステータスが、オーダー・パージでピックアップされる構成で使用可能です。

- 「ドラフト作成済み (1000)」、およびすべての拡張された「ドラフト作成済み」ステータス。
- 「作成済み (1100)」およびすべての拡張された「作成済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「販売オーダー」、「購入オーダー」および「転送オーダー」のみです。
- 「リリース済み (3200)」およびすべての拡張された「リリース済み」ステータス。
- 「出荷済み (3700)」およびすべての拡張された「出荷済み」ステータス。
- 「完了済み (3700)」およびすべての拡張された「完了済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「マスター・オーダー」のみです。
- 「受入済み (3900)」およびすべての拡張された「受入済み」ステータス。
- 「キャンセル (9000)」およびすべての拡張された「キャンセル」ステータス。
- 「不足 (9020)」およびすべての拡張された「不足」ステータス。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーはパージ対象としてピックアップされます。

- オーダーのすべてのオープンな子オーダー (派生、チェーン、返品、交換、調達または返金のフルフィルメント) がパージ済み。
- 転入を超える他のオーダーへの保留中の転出料金が無い。
- 保留中の調整インボイスが無い。

前述の 3 つの条件に一致した場合、オーダーは即時にパージされ、支払集金が完了すると完全にキャンセルされます。

パージ・エージェントがキャンセルされたオーダーをピックアップするには、オーダーの支払ステータスが以下のいずれかでなければなりません。

- 支払済み

- 該当せず

オーダーが前述の条件のいずれにも一致しない場合、以下に示す条件についてチェックが続行されます。

- 保持日数に一致しないオーダー・リリース・ステータス・レコードがないこと。
- パージ対象となる正しいステータスにある。例:
  - オーダーのすべてのサービス要請のステータスが「出荷済み」または拡張された「出荷済み」である。
  - オーダーの支払ステータスが「支払済み」または「該当せず」である。
  - パージ未済の交渉がない。
- サービス要請の明細以外のすべてのオーダー明細について、以下が該当する。
  - セラー在庫更新が必要な場合、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンになっており、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。（「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが有効になっているカスタム・セラー供給タイプでも構いません。）
  - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
  - バイヤー在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。
- オーダーの最終変更は、リード・タイム設定（日単位）より前でなければなりません。
- コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。
- オーダーは、配達未済のサービス明細を保有してはいけません。
- 返品オーダー処理のための交換オーダーの場合、返品オーダーをパージするには、その前に交換オーダーを履歴からパージする必要があります。

ステータス在庫のタイプに変更がない場合、バイヤーが渡されないと、「出荷済み (3700)」ステータスまたはその拡張ステータスにあるオーダーがパージされます。

デフォルト・パイプラインで「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスにあるオーダーは、渡されたバイヤーが在庫を追跡している場合、パージされません。これによって、在庫を追跡しているバイヤーの保留中の供給に関連したオーダーがパージされることを防ぎます。

そのようなオーダーをパージするには、「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスのステータス在庫のタイプを構成して、「バイヤー供給タイプ」がステータス在庫タイプで ONHAND になるようにします。

パージ・エージェントが実行されている場合、明細のないドラフト・オーダーが、オーダー履歴テーブルにパージされます。パージ履歴エージェントが実行されると、明細のないドラフト・オーダーは永久に削除されるようになります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 210. 「オーダー・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 211. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>

表 211. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	<p>必須。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。このパラメーターを、以下の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DRAFTORDERHISTPRG。ドラフト・オーダー情報をオーダー履歴テーブルからパージします。</li> <li>• DRAFTORDERNOLINEHISTPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをオーダー履歴テーブルからパージします。</li> <li>• DRAFTORDERNOLINEPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをパージします。</li> <li>• DRAFTORDERPRG。ドラフト・オーダー情報をパージし、オーダー履歴テーブルにアーカイブします。</li> </ul> <p>「パージ・コード」の値は ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定できません。</p>
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	<p>オプション。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。</p> <p>詳しくは、234 ページの『オーダー・リリース・ステータスのパージ』を参照してください。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 212. 「オーダー・パージ」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
パージされたオーダー数 (NumOrdersPurged)	パージされたオーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND  
YFS\_ANSWER\_SET\_TRAN  
YFS\_ANSWER\_TRAN  
YFS\_CHARGE\_TRANSACTION  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_DIST  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_REQUEST  
YFS\_CHARGE\_TRAN\_RQ\_MAP  
YFS\_CREDIT\_CARD\_TRANSACTION  
YFS\_ENTITY\_ADDRESS  
YFS\_HEADER\_CHARGES  
YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL  
YFS\_INVOICE\_COLLECTION  
YFS\_LINE\_CHARGES  
YFS\_MONITOR\_ALERT  
YFS\_NOTES  
YFS\_ORDER\_AUDIT  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_AUDIT\_LEVEL  
YFS\_ORDER\_HEADER  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE  
YFS\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG  
YFS\_ORDER\_INVOICE  
YFS\_ORDER\_INVOICE\_DETAIL  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE  
YFS\_ORDER\_KIT\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE  
YFS\_ORDER\_LINE\_OPTION

YFS\_ORDER\_LINE\_REQ\_TAG  
YFS\_ORDER\_LINE\_RESERVATION  
YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE  
YFS\_ORDER\_LINE\_SRC\_CNTRL  
YFS\_ORDER\_PROD\_SER\_ASSOC  
YFS\_ORDER\_RELEASE  
YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS  
YFS\_ORDER\_SER\_PROD\_ITEM  
YFS\_ORDER\_DATE  
YFS\_PAYMENT  
YFS\_PMNT\_TRANS\_ERROR  
YFS\_PROMOTION  
YFS\_PROMOTION\_AWARD  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY  
YFS\_RECEIVING\_DISCREPANCY\_DTL  
YFS\_REFERENCE\_TABLE  
YFS\_TAX\_BREAKUP  
YIC\_BOM\_HEADER  
YIC\_BOM\_LINE  
YIC\_BOM\_MESSAGE  
YIC\_BOM\_PROP

### **オーダー・リリース・ステータスのパージ**

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントは、「オーダー・パージ」エージェントがデータを履歴テーブルに完全にパージする前に、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージすることによって、「オーダー・パージ」エージェントの機能を拡張します。

オーダーがパージ対象の条件を満たした場合、数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードは YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS テーブルから削除され、履歴テーブルに入れられません。

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントが完了すると、タスク・キューの AVAILABLE\_DATE は、「オーダー・パージ」のパージ条件で指定

された日付にリセットされます。これによって、「オーダー・パージ」エージェントは、必要に応じてオーダーをピックアップし、処理することができます。「オーダー・パージ」は、通常どおりオーダー・リリース・ステータス・レコードのパージを続行します。

以下の条件を満たす場合、「オーダー・パージ」エージェントは、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージします。

- 「オーダー・パージ」のすべての条件が一致。「オーダー・パージ」の条件については、229 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。
- オーダー・リリース・レコードの数量が 0 である。
- 「オーダー・パージ」条件の「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」が ORDER\_RELEASE\_STATUS\_PURGE に設定されている。
- 「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」の「オーダー・パージ」リード日数内にオーダーが変更されている。

### 条件パラメーター

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 213. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。  「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。「オーダー・パージ」エージェントを拡張して、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、ORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。また、「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」も設定する必要があります。

表 213. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	必須。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) の「オーダー・パージ」によって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ORDER\_RELEASE\_STATUS

## オーダー・ステータス監査パージ

このパージは、オーダー・ステータス監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダー・ステータス監査は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 214. 「オーダー・ステータス監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	STATUSAUDITPRG
基本伝票種別	オーダー

表 214. 「オーダー・ステータス監査ページ」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 215. 「オーダー・ステータス監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・ステータス監査ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_STATUS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 216. 「オーダー・ステータス監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたステータス監査数 (NumStatusAuditsPurged)	ページされたステータス監査の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Status\_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_STATUS\_AUDIT

## 組織監査ページ

このページは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS\_AUDIT レコード、および「YFS\_ORGANIZATION」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS\_ORGANIZATION テーブル内のレコードを変更したときに、YFS\_ORGANIZATION が監査され、監査レコードが YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 217. 「組織監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ORGANIZATION_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 218. 「組織監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li><li>• N - テスト・モード。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 219. 「組織監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた組織監査レコード数 (NumOrganizationAudit RecordsPurged)	ページされた組織監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_AUDIT\_HEADER

## 個人情報のページ

このページは、個人情報レコード・カウントを持つ日付のリストを取得し、日付の昇順にソートします。次に、バッファーに入れる指定済みのレコード数および変更タイム・スタンプに基づいて、該当するレコードをページし、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルに配置します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 220. 「個人情報ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 221. 「個人情報ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 221. 「個人情報ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

空欄のままにするか、10000 よりも小さい数字が指定された場合、デフォルトの 10000 に設定されます。しかし、10000 より大きい数字が指定された場合、その値が使用されます。

表 222. 「個人情報ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた個人情報数 (NumPersonInfoPurged)	ページされた個人情報レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PERSON\_INFO テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_PERSON\_INFO

## 個人情報履歴のページ

これは、ページ基準に基づいて、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルからレコードを削除します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 223. 「個人情報履歴のページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOHISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 224. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none"><li>空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。</li><li>10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。</li></ul>

表 224. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	<p>オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	<p>必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。</p>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	<p>このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。</p>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	<p>オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。</p>
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_PERSON_INFO_H テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 225. 「個人情報履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた個人情報履歴レコード数 (NumPersonInfoHlstoryRecords Purged)	パージされた個人情報履歴レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PERSON\_INFO\_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_PERSON\_INFO\_H

## ピック・リスト・パージ

このパージは、条件パラメーターで指定された保持日数より長い期間存在し、出荷を保有していない、すべてのピック・リストをピックアップします。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、ピック・リストはパージ対象としてピックアップされます。

- ピック・リストが指定された保持日数よりも長い期間存在する。
- ピック・リストが出荷に関連付けられていない。

ピック・リストに関連付けられたすべての出荷は、このパージ・エージェントを実行する前に、パージ済みでなければなりません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 226. 「ピック・リスト・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PICKLISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 226. 「ピック・リスト・パージ」属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 227. 「ピック・リスト・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PICK_LIST テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 228. 「ピック・リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたピック・リスト数 (NumPickListsPurged)	パージされたピック・リストの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_PICK\_LIST テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_PICK\_LIST

## 価格リスト・ページ

このページは、価格リスト・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、価格リストはページ対象としてピックアップされます。

- 価格リストが、現在日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前の有効な日付である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 229. 「価格リスト・ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRICELISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 230. 「価格リスト・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 230. 「価格リスト・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 231. 「価格リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた価格セット数 (NumPriceSetsPurged)	パージされた価格セットの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Price\_Set テーブルからパージできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

現在日付からリード日数を引いた日付以前の VALID\_TILL\_DATE を持つ YFS\_PRICE\_SET テーブル

YFS\_PRICE\_PROGRAM\_DEFN

YFS\_ITEM\_PRICE\_SET

YFS\_ITEM\_PRICE\_SET\_DTL

## カタログ一括監査のパージ

このパージでは、YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルから古い監査レコードを削除します。このテーブルには、属性および属性値をカテゴリーおよびアイテムに対して割り当てたことに起因する、カタログに対する変更についてのデータが含ま

れています。また、継承される属性および属性値に関する情報が含まれます。ページ・トランザクションは、指定された日数の間に変更されなかった一括監査レコードを検出し、このレコードをデータベースから削除します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 232. カタログ一括監査のページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CATALOG_MASS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 233. カタログ一括監査のページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 234. カタログ一括監査のページの統計

統計の名前	説明
ページされる一括監査レコード数 (NumCatalogMassAuditsPurged)	ページされる一括監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、  
YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの合計数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_CATALOG\_MASS\_AUDIT テーブルは、MODIFYTS < (CurrentDate -  
LeadDays) の条件を満たす場合にページされます。

## 受入履歴ページ

このトランザクションは、以前、受入ページでアーカイブされた受入を削除しま  
す。251 ページの『受入ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケ  
ジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の  
条件を満たす場合、受入ページ・エージェントで以前にページされた受入は、履歴  
をページするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷が履歴テーブルからページされること。

受入履歴をページするには、受入を閉じて、出荷をページするようにします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 235. 受入履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし

表 235. 受入履歴パージの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 236. 受入履歴パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 237. 受入履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細履歴数 (NumReceiptLineHistoriesPurged)	パージされた受入明細履歴の数。
パージされた受入履歴数 (NumReceiptHistoriesPurged)	パージされた受入履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Receipt\_Header\_H テーブルからバージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## バージされるテーブル

YFS\_RECEIPT\_HEADER\_H

YFS\_RECEIPT\_LINE\_H

YFS\_RECEIPT\_STATUS\_AUDIT\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

## 受入バージ

このバージは、受入データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、開かれておらず検査が保留されていない受入をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。249 ページの『受入履歴バージ』を参照してください。また、受入の子テーブルのアーカイブおよびバージを行います。

これはパイプライン・トランザクションで、タスク・キューから動作します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、バージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

バージは、バージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入はバージするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷がバージされること。
- 受入がバージ・トランザクションに対してピックアップ可能ステータスであること。
- OpenReceiptFlag フィールドの値に「N」が設定されていること。
- 受入に保留中の検査がないこと。
- 受入のウェアハウスに在庫がないこと。

受入をバージするには、受入を閉じて、出荷をバージするようにします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 238. 受入ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 239. 受入ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 240. 受入パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細数 (NumReceiptLinesPurged)	パージされた受入明細の数。
パージされた受入数 (NumReceiptsPurged)	パージされた受入の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE\_DATE の値が YFS\_Task\_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_RECEIPT\_HEADER

YFS\_RECEIPT\_LINE

YFS\_RECEIPT\_STATUS\_AUDIT

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL

## 再処理エラー・パージ

このパージは、再処理エラーをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS\_REPROCESS\_ERROR テーブルはパージするためにピックアップされます。

- 状態 (State) = 固定 (Fixed) または状態 (State) = 無視 (Ignored) の YFS\_REPROCESS\_ERROR レコードが処理されること。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。

ConsoleConsole を使用するあらゆるエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールに入れる必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 241. Reprocess Error Purge Attributes

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REPROCESSPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 242. 再処理エラー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_REPROCESS_ERROR テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 243. 再処理エラー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた再処理エラー数 (NumReprocessErrorsPurged)	ページされた再処理エラーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_REPROCESS\_ERROR テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_REPROCESS\_ERROR

## 予約ページ

このページは、有効期限が切れた在庫予約をシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減するとともに、有効期限切れの予約で使用される需要を解放します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、YFS\_INVENTORY\_RESERVATION テーブル内のすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- EXPIRATION\_DATE が現在日付よりも早いか、数量が 0 以下である

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 244. 予約ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RESERVATIONPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 244. 予約ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 245. 予約ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 246. Reservation Purge Statistics

統計の名前	説明
NumReservationsPurged	ページされた予約の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_INVENTORY\_RESERVATION テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_INVENTORY\_RESERVATION

### 出荷履歴ページ

このトランザクションは、以前、出荷ページでアーカイブされた出荷を削除します。259 ページの『出荷ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴テーブルにアーカイブされたすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。125 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 247. 出荷履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 248. 出荷履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 248. 出荷履歴パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 249. 出荷履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた出荷履歴数 (NumShipmentHistoriesPurged)	パージされた出荷履歴の数。
パージされた出荷明細履歴数 (NumShipmentLineHistoriesPurged)	パージされた出荷明細履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Shipment\_H テーブルからパージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_ATTRIBUTE\_H

YFS\_ADDITIONAL\_DATE\_H

YFS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_DETA\_ILS\_H

YFS\_CONTAINER\_STS\_AUDIT\_H

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL\_H

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER\_H

YFS\_SHIPMENT\_H

YFS\_SHIPMENT\_LINE\_H

YFS\_SHIPMENT\_LINE\_REQ\_TAG\_H

YFS\_SHIPMENT\_STATUS\_AUDIT\_H

YFS\_SHIPMENT\_TAG\_SERIAL\_H

YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY\_H

## 出荷ページ

このページは、出荷データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、「クローズ」とマークが付いた出荷をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。257 ページの『出荷履歴ページ』を参照してください。また、出荷の子テーブルのアーカイブおよびページを行います。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。詳しくは、125 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、出荷はページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- ShipmentClosedFlag フィールドの値に「Y」が設定されていること。
- オーダー・レコードがすべての出荷明細に関して既にページ済みであること。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 250. 出荷ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTPRG
基本伝票種別	オーダー

表 250. 出荷バージの属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 251. 出荷バージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
実行する日数	オプション。バージする出荷レコードをエージェントが探すリード日数より前の最大日数。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷バージの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 252. 出荷バージの統計

統計の名前	説明
NumShipmentsPurged	バージされる出荷の数。
NumShipmentLinesPurged	バージされる出荷明細の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_Shipment テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_ADDITIONAL\_ATTRIBUTES

YFS\_ADDITIONAL\_DATE

YFS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_DETAILS

YFS\_LOAD\_SHIPMENT\_CHARGE

YFS\_MONITOR\_ALERT

YFS\_SHIPMENT\_CONTAINER

YFS\_SHIPMENT\_STATUS\_AUDIT

YFS\_SHIPMENT

YFS\_INSTRUCTION\_DETAIL

YFS\_SHIPMENT\_MONITOR\_ALERT

YFS\_HEADER\_CHARGES

YFS\_LINE\_CHARGES

YFS\_TAX\_BREAKUP

YFS\_SHIPMENT\_HOLD\_TYPE

YFS\_SHIPMENT\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_SHIPMENT\_TAG\_SERIALS

YFS\_SHIPMENT\_LINE

YFS\_SHIPMENT\_LINE\_REQ\_TAG

YFS\_ACTIVITY\_DEMAND

YFS\_CONTAINER\_STS\_AUDIT

YFS\_CONTAINER\_ACTIVITY

## 出荷統計ページ

このトランザクションは、指定される保持日数を経過したテーブルから出荷統計を削除します。

このエージェントは、出荷統計レコードの削除が必要な場合 (アプリケーション・サーバーの再始動後など) は常に使用する必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、出荷統計はページするためにピックアップされます。

- 出荷統計で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 253. 出荷統計ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRG_SHIP_STATS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 254. 出荷統計ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷統計ページの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 254. 出荷統計パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 統計パラメーター

このトランザクションの統計パラメーターは、以下のとおりです。

表 255. 出荷統計パージの統計

パラメーター	説明
パージされた出荷統計数 (NumShipmentStatisticsPurged)	パージされた出荷統計の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_SHIPMENT\_STATISTICS テーブルからパージできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_SHIPMENT\_STATISTICS

## ユーザー・アクティビティー・パージ

このパージは、ユーザー・アクティビティー・データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコード、およびログアウトのステータスにあるレコードをパージします。このパージは、バッチ削除モード (BatchDelete)=Y で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをパージする際は、以下の制限が想定されます。

このパージは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもパージしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最

後のアクティビティー時刻またはログアウト時刻には値が入りません。ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、これらのレコードを手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 256. ユーザー・アクティビティー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTIVITYPRG
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 257. ユーザー・アクティビティー・ページのパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。

表 257. ユーザー・アクティビティ・ページのパラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッチ削除 (BatchDelete)	<p>必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_USER_ACTIVITY テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 258. 統計ページの統計

統計の名前	説明
ページされた統計数 (NumStatisticsPurged)	ページされた統計の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_USER\_ACTIVITY

## ユーザー・アクティビティ・監査ページ

このページは、ユーザー・アクティビティ・監査データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコードをページします。ページするのは、ログアウトのステータス (ログイン・タイプが「T」または「N」のレコード) にあるレコードのみです。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

- このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最後のアクティビティ時刻またはログアウト時刻には値が入らず、ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、このレコードは手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 259. ユーザー・アクティビティ監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTAUDPURGE
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 260. ユーザー・アクティビティ監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。</li> <li>• N - レコードは 1 件ずつ削除されます。</li> </ul>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_USER_ACT_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 261. 統計パージの統計

統計の名前	説明
パージされた統計数 (NumStatisticsPurged)	パージされた統計の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## パージされるテーブル

YFS\_USR\_ACT\_AUDIT

## 作業オーダー履歴パージ

このトランザクションは、以前、作業オーダー・パージでアーカイブされたタスクを削除します。269 ページの『作業オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている場合、作業オーダー・パージ・エージェントで以前にパージされた作業オーダーは、履歴をパージするためにピックアップされます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 262. 作業オーダー履歴パージの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_HISTORY_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 263. 作業オーダー履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。</li> <li>• N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー履歴ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 264. 作業オーダー履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー履歴数 (NumWorkOrderHistoriesPurged)	ページされた作業オーダー履歴の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_WORK\_ORDER\_H テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_WO\_APPT\_USER\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_APPT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTIVITY\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTY\_DTL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_AUDT\_DTL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_COMPONENT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_COMP\_TAG\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_PROD\_DEL\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_SERVICE\_LINE\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_STS\_AUDIT\_H

YFS\_WORK\_ORDER\_TAG\_H

## 作業オーダー・ページ

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダー・ページ条件に指定される保持日数を超えている作業オーダー、および「キャンセル」ステータスまたは「完了」ステータスの作業オーダーをすべてページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、作業オーダーはページするためにピックアップされます。

- 作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 作業オーダーに関連付けられるオーダーがページされること。
- 作業オーダーがページ・トランザクションによりピックアップ可能なステータスであること。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 265. 作業オーダー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 266. 作業オーダー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー・ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。

表 266. 作業オーダー・ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。  有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 267. 作業オーダー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー数 (NumWorkOrdersPurged)	ページされた作業オーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS\_WORK\_ORDER テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT

YFS\_WO\_APPT\_USER

YFS\_WORK\_ORDER

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTIVITY

YFS\_WORK\_ORDER\_ACTY\_DTL

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE

YFS\_WORK\_ORDER\_HOLD\_TYPE\_LOG

YFS\_WORK\_ORDER\_APPT

YFS\_WORK\_ORDER\_AUDT\_DTL

YFS\_WORK\_ORDER\_COMPONENT

YFS\_WORK\_ORDER\_COMP\_TAG

YFS\_WORK\_ORDER\_PROD\_DEL

YFS\_WORK\_ORDER\_SERVICE\_LINE

YFS\_WORK\_ORDER\_STS\_AUDIT

YFS\_WORK\_ORDER\_TAG

## YFS 監査ページ

このページは、YFS\_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS\_AUDIT テーブルおよび YFS\_AUDIT\_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定される保持日数より大きい modifyts を有し、かつ YFS\_AUDIT テーブル内に一致するテーブル名の値を有する YFS\_AUDIT レコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

YFS 監査ページの構成方法によっては、構成データ・バージョン管理ツールの機能に何らかの影響を及ぼすおそれがあります。データ・バージョン管理ツールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

エンタープライズがエンティティを拡張し、拡張エンティティ属性 AuditTable="Y" を設定する場合、拡張されたテーブルは監査されて、監査レコードは YFS\_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 268. YFS 監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 268. YFS 監査パージの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 269. YFS 監査パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
テーブル名	必須。監査レコードのパージが必要なテーブル名。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。</p> <p>TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。</p> <p>エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対しても実行されます。</p>

表 269. YFS 監査ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 270. YFS 監査ページの統計

統計の名前	説明
ページされる監査レコード数 (NumAuditRecordsPurged)	ページされる監査レコードの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS\_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

YFS\_AUDIT、YFS\_AUDIT\_HEADER

## YFSInventoryOwnershipAudit ページ

このトランザクションは、条件パラメーターに指定されるリード日数より前の YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD からすべてのレコードをページします。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 271. YFSInventoryOwnership ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE_INV_TRANSFR_RECORD
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 271. YFSInventoryOwnership ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 272. YFSInventoryOwnership ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。YFSInventoryOwnership 監査ページの実行が必要な在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。</li> <li>• N - テスト・モード。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
リード日数	エージェントがレコードをページする、現在日付より前の日数。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

ページされるテーブル

YFS\_INV\_OWN\_TRANSFER\_RCD

## パスワードのリセット要求ページ

このページは、パスワードのリセット要求データをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 273. 「パスワードのリセット要求ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 274. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li><li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li></ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 274. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	PLT_PWD_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 275. 「パスワードのリセット要求ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたパスワード要求数 (NumPasswordRequestPurged)	ページされたパスワード要求の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_PWD\_REQ テーブルからページできるレコードの数になります。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_PWD\_REQ

## ユーザー・ログイン失敗ページ

このページは、ユーザーのログイン試行失敗数に関するデータをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 276. ユーザー・ログイン失敗ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

表 276. ユーザー・ログイン失敗ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 277. ユーザー・ログイン失敗ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。</li> <li>• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。</li> </ul>
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 278. ユーザー・ログイン失敗ページの統計

統計の名前	説明
ページされたログイン失敗数 (NumUserLoginFailPurged)	ページされたログイン試行失敗の数

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT\_USER\_LOGIN\_FAILED テーブルからページできるレコードの数です。

## 発生するイベント

なし。

## ページされるテーブル

PLT\_USER\_LOGIN\_FAILED

---

## タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション

多くのトランザクションは、タスク・キューをその作業リポジトリとして使用します。パイプラインで構成済みの次の処理ステップを取り扱うために、ワークフロー・マネージャーはトランザクションのタスクを自動的に作成します。

状況によっては、タスク・キュー・リポジトリは期限切れになる場合もあります。例えば、パイプラインがアクティブであるときに処理パイプラインを再構成すると、キューが新規パイプライン構成と同期しなくなることがあります。

ビジネス・ドキュメントのライフサイクル内の一時停止を示す警告は、期限切れのタスク・キュー・リポジトリを示す場合があります。

タスク・キュー同期プログラム・トランザクションは、最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新するように設計されています。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、次のリリースで変更される可能性があります。

## 集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューを同期化します。

以下の疑似論理を使用して、この時間トリガー・トランザクションを分析できます。以下の条件を満たす場合、その集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューは同期化されます。

- 集合・混載の `LOAD_CLOSED_FLAG` が「Y」でない。
- 集合・混載が、パイプラインのトランザクションでピック可能なステータスにある。
- タスク・キュー・テーブルに集合・混載のタスク・キュー・レコード、トランザクションの組み合わせがない。この場合、システムは、この集合・混載のとトランザクションの組み合わせについて、利用可能日として現在のデータベース時刻を設定したタスク・キュー・レコードを 1 つ挿入します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 279. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_L_D
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 280. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 281. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー配達タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー配達プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 282. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_D
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 283. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 284. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

### 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 285. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 286. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

### 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 287. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー交渉プロセス・タイプを同期化します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 288. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_N
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

### 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 289. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 290. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

## 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、見積フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 291. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_Q_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 292. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 292. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 293. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

なし。

---

## モニター

モニターとは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すトランザクションのことです。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのモニターは、CollectPendingJobs 条件パラメーターを持ちます。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、そのモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。これは、1 つのモニターがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

## 在庫状況モニター

この時間トリガー・トランザクションは、在庫状況をモニターします。在庫量が、当日、今後の ATP 時間フレーム内の日数、および今後の ATP 時間フレーム外の日数に対して構成されている数量を下回った場合、在庫状況モニターはグローバル警告を発します。ATP 時間フレーム外の日数に対する数量は、最大モニター日数によ

って決定されます。在庫状況モニターは、スケジュールやリリースのトランザクションとは異なり、無限在庫を想定するのではなく、ATP 水準を上回る実際の在庫量を計算します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 294. 「在庫状況モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 295. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
MonitorOption	オプション。在庫のモニター方法を指定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 現在の在庫</li> <li>• 0 - ATP 時間フレームの範囲内と範囲外の在庫。これはデフォルト値です。</li> </ul>
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。

表 295. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに対して公開されるデータは、AVAILABILITY\_MONITOR\_dbd.txt です。

## 例外モニター

この時間トリガー・トランザクションは、以下に示すようにシステムの例外をモニターします。このトランザクションは、システムのログに記録された例外をモニターし、以下の場合にそれらの例外を上申します。

- 特定の時刻までに例外がユーザーに割り当てられなかった場合。
- 特定の時刻までに例外が解決されなかった場合。
- キューのアクティブ・サイズが、特定の最大サイズを超えた場合。

例外モニターを実行するたびに例外に対して再警告するのを防ぐために、Applications Manager の警告管理を使用して再警告時間間隔を指定します。この属性はキューに関連付けられており、キューごとに構成できます。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 296. 「例外モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXCEPTION_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 297. 「例外モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
キュー ID	オプション。このモニターの例外を格納する警告キューを定義します。
組織コード	オプション。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
キュー・グループ	オプション。例外のモニター対象となるキューのセットを定義します。キュー ID とキュー・グループの両方が指定された場合、キュー ID は無視されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 298. 「例外モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された警告数 (NumInboxProcessed)	処理された警告の数。
キュー・サイズ超過警告数 (NumExceededQueueSizeAlerts)	未解決の警告数がキューの最大アクティブ・サイズを超えた場合に発生するアクションの数。
未解決警告数 (NumUnResolvedAlerts)	警告の未解決警告時間がキューの解決時間を超えた場合に発生するアクションの数。
未割り当て警告数 (NumUnAssignedAlerts)	警告の未割り当て警告時間がキューの割り当て時間を超えた場合に発生するアクションの数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

## 在庫モニター

この時間トリガー・トランザクションは、出荷ノードのレベルで在庫状況をモニターします。使用可能な在庫が構成済みの量を超えたとき、または下回ったときに、出荷ノード・レベルで警告を発行します。

このモニターは、OPEN\_ORDER 需要タイプを使用して、指定されたノードで使用可能な在庫を計算します。OPEN\_ORDER 需要タイプによって考慮される供給タイプに割り当て済みの、すべての供給が考慮されます。在庫供給と需要の考慮の構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 299. 「在庫モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	checkAvailability()

### 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 300. 「在庫モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 300. 「在庫モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	このパラメーターが「Y」に設定された場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライドの値を、エージェントのトリガー時に以下の形式でコマンド・ラインで指定できます。  <AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue>  これらの属性を渡す場合の詳細については、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> インストール・ガイド」を参照してください。
出荷ノード	オプション。この実行で処理する必要のある有効な出荷ノードのコンマ区切りリスト。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに公開されるデータは、<INSTALL\_DIR>/xapidocs/api\_javadocs/dbd/INVENTORY\_MONITOR\_dbd.txt です。

## 交渉モニター

この時間トリガー・トランザクションは、交渉が一定時間特定のステータスのままの場合に、エンタープライズに警告します。また、交渉の有効期限をモニターします。この時間トリガー・トランザクションは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。交渉の有効期限をモニターするには、ステータス「期限切れ (2000)」を構成します。

オーダーまたはオーダー・リリースに交渉フェーズが必要な環境で、その交渉をモニターしたい場合に、このモニターを使用します。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 301. 「交渉モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 302. 「交渉モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉モニター」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 303. 「交渉モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。

表 303. 「交渉モニター」の統計 (続き)

統計の名前	説明
警告を要する交渉数 (NumNegotiationsRequiringAlert)	少なくとも 1 つの警告が発行されている交渉の数。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

これは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開されるデータ - YCP\_getNegotiationDetails\_output.xml

## 強化したオーダー・モニター

「強化したオーダー・モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。
- オーダーが y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。
- オーダーが日付タイプ z の前の y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。

オーダー・モニターを構成して、以下のシステム日付タイプと購入オーダー・ドキュメント・タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの ORDER\_DATE 列から読み取られます。
- 実際の次の反復日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの NEXT\_ITER\_DATE 列から読み取られます。
- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。

- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。  
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化したオーダー・モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについては、122 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 304. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDER_MONITOR_EX
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 305. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 306. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

「強化したオーダー・モニター」トランザクションは、ON\_AUTO\_CANCEL イベントを生成しますが、オーダーのキャンセルは行いません。オーダーをキャンセルするには、このイベントに対するサービスを構成する必要があります。

表 307. 「強化したオーダー・モニター」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
ON_AUTO_CANCEL	ORDER_MONITOR_dbd.txt	YFS_ORDER_MONITOR_EX.ON_AUTO_CANCEL.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## 強化した見積モニター

「強化した見積モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

見積モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際の有効期限 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの EXPIRATION\_DATE 列から読み取られます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*』を参照してください。

「強化した見積モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、122 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されま  
す。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 308. 「強化した見積モニター」の属性

属性	値
トランザクション ID	ORDER_MONITOR_EX.0015
ドキュメント・タイプ	見積
プロセス・タイプ	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 309. 「強化した見積モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「見積モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 310. 「強化した見積モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理された見積の数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、ORDER\_MONITOR\_EX.0015.xml です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## 強化した返品モニター

「強化した返品モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

強化した返品モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS\_ORDER\_HEADER テーブルの ORDER\_DATE 列から読み取られます。

- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_SHIP\_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。
- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_SHIPMENT\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS\_ORDER\_RELEASE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS\_ORDER\_LINE テーブルの REQ\_DELIVERY\_DATE から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS\_ORDER\_LINE\_SCHEDULE テーブルの EXPECTED\_DELIVERY\_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。  
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化した返品モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、122 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 311. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RETURN_MONITOR_EX

表 311. 「強化したオーダー・モニター」の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	返品オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 312. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ステータス最小値 (FromStatus)	オプション。渡されたステータス以上のステータスがモニターされます。
ステータス最大値 (ToStatus)	オプション。渡されたステータス以下のステータスがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 313. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT\_ALERT\_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、RETURN\_MONITOR\_EX.xml です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER\_MONITOR\_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

## リアルタイム在庫状況モニター

リアルタイム在庫状況モニターの時間トリガー・トランザクションは、在庫アイテムの在庫状況をモニターします。このトランザクションは、Global Inventory Visibility モジュール内の Applications Manager で定義されるしきい値の間で、特定のアイテムの在庫レベルが変わった場合に REALTIME\_AVAILABILITY\_CHANGE イベントが発生するように構成できます。

このトランザクションは、以下の 3 つのモードで実行できます。

- アクティビティー・ベース: アイテムがしきい値のいずれかを上回るか下回るたびにリアルタイムにイベントを発生させます。
- クイック同期: 最も近くに公開された在庫状況情報を再送します。
- 完全同期: アクティビティーにかかわらずすべてのアイテムをモニターし、すべてのアイテムの在庫情報を公開します。

すべての場合、将来の在庫状況のパーセンテージは検索時に在庫状況を検討の際に使用されます。将来の在庫状況について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

在庫状況ピクチャーを把握するには、OPEN\_ORDER タイプの要求を使用します。供給が維持されていれば、リアルタイム在庫状況モニターは、ノード全体の総合在庫状況または個々のノードの在庫状況をモニターできます。在庫状況モニター・ルールのない在庫アイテム、または使用できないルールがある在庫アイテムは、この時間トリガー・トランザクションで処理することはできません。

ノード全体の総合在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫組織のデフォルトの分配グループ内のすべてのノードをモニターします。

個別のノードの在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定された分配グループ内のすべてのノードをモニターします。分配グループの構成およびノード・レベルの在庫モニターについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

構成する場合、リアルタイム在庫状況モニターでは、モニターする際の、手持ちおよび将来の在庫状況のセーフティー要因も考慮します。在庫状況のセーフティー要因および findInventory() API については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より大きい場合、REALTIME\_ONHAND 警告タイプが発生し、警告レベルは手持ち数量がベースになります。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より小さくなった場合、REALTIME\_FUTURE\_MAX 警告タイプが発生します。その場合、警告レベルのベースになるのは将来の供給合計 (FutureAvailableQuantity) で、FirstFutureAvailableDate に最も早く供給される日付が設定され、FutureAvailableDate に最も遅く供給される日付が設定されます。

リアルタイム在庫状況モニターがアクティビティー・ベース・モードで稼働する場合、在庫アイテムのしきい値のいずれかを変更しても、アクティビティーで変更がない限りエージェントはその在庫アイテムをモニターしません。例えば、在庫数量が 700 のアイテム I が 600 の下限しきい値でモニターされており、下限しきい値が 1000 に変更される場合、I のアクティビティーに変更がない限りイベントは公開されません。このようなシナリオで I がモニター対象外のままにされないようにするには、アイテムのモニター・ルールを変更する場合に createInventoryActivity API を呼び出します。

## 在庫数量の最大出荷日の計算および公開

使用可能な場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫数量の最大出荷日のマトリックスを計算し、公開します。マトリックスには、以下の情報が含まれます。

- 在庫数量 - 最大出荷日に出荷できるアイテムの数を表します。
- 最大出荷日 - 在庫数量が出荷される日時を表します。
- 有効期限日 - オーダーが最大出荷日に出荷される場合に、オーダーを起票できる最後の日時を表します。

マトリックスは、REALTIME\_AVAILABILITY\_CHANGE イベントに対して公開され、YFS\_INVENTORY\_ALERTS 表の AVAILABILITY\_INFO フィールドに XML 形式で保管されます。マトリックスの更新には monitorItemAvailability() API が使用

できます。monitorItemAvailability() API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

在庫数量の最大出荷日のマトリックスの計算および公開を行うためのリアルタイム在庫状況モニターの使用について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」の在庫ルールの構成に関する章を参照してください。

### 最大出荷日の計算

最大出荷日は、考慮対象のノード全体での最大予定出荷日と同じです。予定出荷日の計算について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。さらに、以下のオプションを最大出荷日の一部として構成できます。

- 最大出荷日時
- 最大出荷日時を相殺する日数

**最大出荷日時** - 最大出荷日の時刻を指定する場合、リアルタイム在庫状況モニターは、先に説明したように、最大出荷日を計算してから、以下のロジックを適用します。

- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より遅い場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定される時刻で最大出荷日をリセットします。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 21 日の午前 10 時と計算し、最大出荷日時に午前 11 時が設定される場合、最大出荷日は 7 月 21 日の午前 11 時と再計算されます。
- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より早い場合、最大出荷日に 1 日加算されて、指定される時刻でリセットされます。例えば、最大出荷日が 7 月 21 日の午前 11 時と計算され、最大出荷日時に午前 10 時が設定される場合、リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日を 7 月 22 日の午前 10 時と再計算します。

**最大出荷日時を相殺する日数** - 最大出荷日を相殺する日数を指定できます。リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日時を含む最大出荷日を計算してから、相殺日数で指定される日数を最大出荷日に加算します。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 19 日の午前 11 時と計算し、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定される場合、最大出荷日は 7 月 20 日の午前 11 時と再計算されます。

### 有効期限日の計算

リアルタイム在庫状況モニターは、有効期限日を、最大出荷日からノードの最小通知時間を減算することで計算してから、ノードの通知スケジュール上の先行する通知時間に調整します。有効期限日は、供給がノードで提供される間のみ有効です。

例えば、在庫数量の最大出荷日が 7 月 19 日の午後 4 時で、出荷ノードの通知スケジュールが以下のような場合、有効期限日は 7 月 18 日の午後 3 時と計算されます。

- 24 時間の最小通知時間
- 午後 3 時と午後 5 時の通知時刻

この例で有効期限日は、最初に 24 時間の最小通知時間を 7 月 19 日の午後 4 時の最大出荷日から減算し、次に午後 3 時の通知時刻に調整します。オーダーが 7 月 18 日の午後 3 時より前に起票されない場合、7 月 19 日の午後 4 時まででアイテムを出荷する前に少なくとも 24 時間前の通知がノードには必要なため、7 月 19 日の最大出荷日はもはや使用できません。また、該当のオーダーが 7 月 19 日の午後 3 時に起票される前に、別のオーダーによりノードの在庫数量が減少する場合、最大出荷日の条件に合わないため、有効期限日は無効になります。

さらに、有効期限日を計算する場合、調整日数は考慮されません。このため、先の例の最大出荷日が、最大出荷日時を相殺する日数に 1 を指定して 7 月 20 日の午後 4 時に更新される場合、有効期限日は 7 月 19 日の午後 3 時と更新されます。

### 例 1: 在庫数量の最大出荷日の計算

ノード 1 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 24 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 3 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

ノード 2 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 48 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 2 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

以下の表は、次の条件が真の場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。

- 現在日付は 7 月 19 日
- 到着予定時刻 (ETA) は数量がノードで使用可能になると推定される日時と同一
- 最大出荷日時に午後 4 時を設定
- 最大出荷日時を相殺する日数に 0 を設定

表 314. 例: 在庫数量の最大出荷日の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 20 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 3 時
7/22/2010	10	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 21 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 2 時
7/22/2010	20	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 20 日、午後 2 時

この例で、7 月 19 日は、ノード 1 の 80 アイテムおよびノード 2 の 100 アイテムの数量の ETA です。表で、ノード 1 の使用可能な 80 アイテムの最大出荷日は 7 月 20 日の午後 4 時、ノード 2 の使用可能な 100 アイテムの最大出荷日は 7

月 21 日の午後 4 時と示されます。ノード 1 の場合、最大出荷日は、7 月 19 日午後 3 時の通知時刻に 24 時間の最小通知時間を加算し、さらに午後 4 時の最大出荷日時に調整することで計算します。有効期限日は、24 時間の最小通知時間を最大出荷日から減算してから、午後 3 時の通知時刻に調整することで計算します。ノード 2 の場合、最大出荷日および有効期限日は、ノード 2 の最小通知時間が 48 時間で通知時刻が午後 2 時であることを除いて同様に計算されます。

さらに、例では、ノード 1 の 10 アイテムおよびノード 2 の 20 アイテムの数量の ETA として 7 月 22 日を表示しています。ノード 1 の 10 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時、ノード 2 の 20 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時です。現在日付と ETA の間の差が、ノードの最小通知時間よりも大きい場合、ETA 日付は最大出荷日に使用されます。この例で、現在日付 (7 月 19 日) および ETA 日付 (7 月 22 日) の間の差は、両方のノードで最小通知時間よりも大きくなっています。したがって、最大出荷日には、ETA 日付の最大出荷日時 (ノード 1 およびノード 2 とともに 7 月 22 日の午後 4 時) が設定されます。

### 例 2: 作業日でないノードでの最大出荷日の計算

以下の表は、例 1 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、7 月 19 日および 7 月 20 日は作業日ではありません。

表 315. 例: 作業日ではないノードの在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 には 7 月 19 日時点で 80 の在庫数量があり、最小通知時間は 24 時間です。7 月 19 日および 20 日はノード 1 の作業日ではないため、80 アイテムは 7 月 21 日までは使用可能と見なされません。この場合、最大出荷日は 24 時間の最小通知時間を 7 月 21 日に加算し、午後 4 時の最大出荷日時に調整します。ノード 2 の場合、最大出荷日は、最小通知時間が 48 時間であることを除いて同様に計算されます。

### 例 3: 最大出荷日の相殺

以下の表は、例 2 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されます。

表 316. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 3 時

表 316. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス (続き)

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 24 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 およびノード 2 の最大出荷日は、例 2 と同様に計算されます。ただし、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されるため、最大出荷日に 1 加算されます。この例で、ノード 1 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 3 時が設定され、ノード 2 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 2 時が設定されます。相殺日数は有効期限日を計算する際に考慮されないためです。

## 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 317. リアルタイム在庫状況モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REALTIME_ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	FindInventory

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 318. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	MonitorOption に 3 が渡される場合に使用される在庫組織コード。在庫組織はエンタープライズであることが必要です。  このコードが渡されない場合、モニターはすべての在庫組織に対して実行されます。

表 318. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
<b>MonitorOption</b>	<p>1 - アクティビティー・ベース (YFS_INVENTORY_ACTIVITY テーブルの別個の在庫アイテムをベースにモニター)。</p> <p>2 - クイック同期 (YFS_INVENTORY_ALERTS テーブルから情報を公開するためにイベントを再発生)。</p> <p>3 - 完全同期 (指定された在庫組織で管理される全在庫をベースにモニター。在庫組織コードが入力されない場合、全在庫アイテムがモニター対象。)</p> <p>指定されない場合、デフォルト値は 1 です。</p>
<b>アイテムのステータス (ItemStatuses)</b>	<p>処理されるアイテムの有効なステータスのリスト。ステータスは、で区切られる必要があります (例: 3000,2000)。これは、MonitorOption が 2 または 3 として渡される場合のみに使用されます。指定されれば、ステータスに一致するアイテムのみモニターされます。</p>
<b>警告開始タイム・スタンプ (FromAlertTimestamp)</b>	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡される場合のみ使用されます。指定される場合、エージェントは REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントを発生させ、エージェントが開始された時刻と FromAlertTimestamp の間に公開された在庫状況情報を再公開します。</p> <p>指定されない場合、全在庫状況情報が公開されてから、エージェントが開始された時刻が再公開されます。</p>
<b>条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)</b>	<p>Y が設定される場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライド値は、エージェントをトリガーする際に以下の形式でコマンド・ラインから指定できます。</p> <p>&lt;AgentCriteriaAttribute&gt; &lt;OverriddenValue&gt;</p> <p>これらの属性を渡す場合の詳細については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド」を参照してください。</p>
<b>開始経過時間 (FromLastNumberOfHours)</b>	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡されて FromAlertTimestamp パラメーターを計算する場合のみに使用されます (必要な場合)。</p> <p>FromAlertTimestamp パラメーターは、指定されない場合、現在のタイム・スタンプから FromLastNumberOfHours を減じた時刻として計算されます。</p>

表 318. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
すべての在庫変更についてイベントを発生 (RaiseEventsOnAllAvailability Changes)	「Y」が設定される場合、すべての在庫状況の変更について REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生します。発生条件については、在庫状況が、指定されるしきい値を上回ったのか下回ったのかを問いません。これは、MonitorOption が 1 として渡される場合のみに使用されます。有効値は「Y」か「N」で、デフォルト値は「N」です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

なし。

## 保留中のジョブの数

なし。

## 発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 319. リアルタイム在庫状況モニター・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE	なし	YFS_REALTIME_ATP_MONITOR、 REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

「リアルタイム」と説明されていますが、処理するメッセージのバックログがエージェントにある場合、在庫の変更が発生する際にも在庫状況の変更は即時にはトリガーされない可能性があります。さらに、このモニターは、時間トリガー・トランザクションとして存在するため、在庫アイテムの在庫状況のモニターを、構成される実行時プロパティをベースにモニターがトリガーされる場合のみ行います。

## 出荷モニター

この時間トリガー・トランザクションは、YFS\_MONITOR\_RULE テーブル内のルールに基づき、出荷の状態をレポートします。このトランザクションを使用して、以下の状態をモニターできます。

- 出荷のステータスが指定される合計時間を超えている場合。
- 出荷に関連付けられて、指定される日付が以下の場合。
  - 指定される別の日付の n 時間前
  - 指定される別の日付の n 時間後
  - 指定される別の日付の n 時間前ではない
  - 指定される別の日付の n 時間後ではない
- 出荷が、指定される時間数に対して保留タイプである場合。
- 出荷が、指定される日付の n 時間前の保留タイプである場合。

モニター・ルールは、出荷品の出荷元ポイントおよび宛先ポイントについて構成できます。

モニター・ルールは、出荷の中間ピックアップ・ポイントおよびドロップオフ・ポイントについては構成できません。出荷は、複数のピックアップ・ポイントまたはドロップオフ・ポイントがある場合のみ、中間のピックアップまたはドロップオフを設けることができます。例えば、出荷には出荷品を運ぶ複数の集合・混載があります。集合・混載の最初の荷降ろし、2 番目の荷降ろし、さらにその次の荷降ろしと、出荷ステータスをモニターすることはできません。最後の集合・混載で出荷品が宛先に荷降ろしされると、その時点で出荷ステータスにマークが付けられてモニターすることができます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

マイルストーン、日付タイプ、およびモニター・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide*」、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*」、および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide*」を参照してください。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 320. 出荷モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENT_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 320. 出荷モニターの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

## 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 321. 出荷モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 322. 出荷モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる出荷数 (NumShipmentsMonitored)	モニターされる出荷の数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT\_ALERT\_TS の値が現在日付以下 (<=) のオープン状態の出荷の数になります。

## 発生するイベント

これは、出荷ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開済みデータ - SHIPMENT\_MONITOR.xml

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、出荷の詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デフォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Shipment エlement、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT\_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Shipment-> MonitorRule Elementは無視されて、条件に渡されません。

## 作業オーダー・モニター

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダーが一定の長さの時間にわたり特定状態または保留タイプのままである場合、エンタープライズに警告します。

このモニターを使用して、作業オーダーがどれくらいの間、特定状態または保留タイプのままであるかを追跡します。

### 属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 323. 作業オーダー・モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_MONITOR
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	なし

### 条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 324. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値)に設定されます。

表 324. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

## 追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 325. 作業オーダー・モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる作業オーダー数 (NumWorkOrdersMonitored)	モニターされる作業オーダーの数。

## 保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT\_ALERT\_TS が現在の日付の値以下 ( $\leq$ ) の条件でモニターされる作業オーダーの数になります。

## 発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。アクションに対して公開されるデータは、workOrder\_dbd.txt です。

## モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/monitor/WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、作業オーダーの詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
WORK\_ORDER\_MONITOR\_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デ  
フォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->WorkOrder エlemen  
ト、<INSTALL\_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
WORK\_ORDER\_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->  
WorkOrder-> MonitorRule エレメントは無視されて、条件に渡されません。

---

## 第 20 章 条件ビルダーの属性

---

### 条件ビルダーの属性

条件ビルダーのステートメントは、Applications Manager 全体で定義されている属性を使用して構築されます。

これらの属性は、以下のようにグループ化されています。

#### 販売オーダー

- オーダー・フルフィルメント
- オーダー交渉
- 出荷
- 受入

#### 計画済みオーダー

- 計画済みオーダー実行
- 計画済みオーダー交渉

#### 返品オーダー

- 返品物流
- 返品出荷
- 返品受入

#### テンプレート・オーダー

- テンプレート・オーダー

#### 購入オーダー

- 購入オーダー実行
- 購入オーダー交渉
- 入荷
- 購入オーダー受入

#### 転送オーダー

- 転送オーダー実行
- 転送オーダー配達
- 転送オーダー受入

#### マスター・オーダー

- マスター・オーダー・フルフィルメント

#### 見積

- 見積フルフィルメント

## 集合・混載

- 集合・混載実行

## 一般

- 一般
- WMS 格納
- WMS レイアウト定義
- WMS 在庫
- トレーラー積み付け
- タスク実行
- 移動要請実行
- 積荷目録作成
- 超過梱包作成

## 棚卸

- 棚卸実行

## 容器

- パック・プロセス

## ウェーブ

- 出庫ピッキング

## 作業オーダー

- VAS プロセス

## 案件

- 案件フルフィルメント

## アイテム・ベース割り当て (IBA)

- アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

---

## 販売オーダー

### オーダー・フルフィルメント

「オーダー・フルフィルメント」、「オーダー実行」、「見積フルフィルメント」、「転送オーダー実行」、および「テンプレート・オーダー」の条件ビルダー属性は同じです。

表 326. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 326. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 326. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## オーダー交渉

「オーダー交渉」および「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は同じです。

表 327. オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	このオーダーで使用される交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	このオーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	このオーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	このオーダーの交渉のステータス。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は「販売オーダー」です。
運賃条件	このオーダーに関する運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	このオーダーに関する支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 出荷

「出荷」、「入荷」、「転送オーダー配達」、および「返品出荷」の条件ビルダー属性は同じです。

表 328. 出荷条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	出荷上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ（「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」）。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	この出荷に関する運賃条件。
運送会社タイプ	この出荷の運送会社タイプ。
危険物フラグ (Hazardous Materials Flag)	これらの材料が危険物かどうかを示すフラグ。
ESP チェックが必要	出荷集約時にエコノミック出荷パラメーター・チェックが必要かどうかを示すフラグ。
予約が必要	サービス実行で予約が必要かどうかを示すフラグ。
ルーティング・ガイド保守	この出荷でルーティング・ガイドを保守するかどうかを示すフラグ。
配送業者 (Carrier)	この出荷の運送会社。
WMS 6.2 とリアルタイムの統合	この出荷品の出荷元のノードが Sterling Warehouse Management System と統合しているかどうかを示すフラグ。このフィールドを「N」に設定すると、ユーザーが WMS 6.2、またはその他の倉庫管理システムと統合していることを意味します。
手動で入力されました	この出荷がコンソールを使用して入力されたかどうかを示すフラグ。
配送コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。
国/地域	出荷品の出荷先の国または地域。
配達方法	出荷の配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
要請されたシリアル	出荷が、特定のシリアル番号が渡された明細を保有するかどうかを示すフラグ。保有している場合、異なる出荷プロセスがバイラインで選択できます。
提供サービス	出荷が、関連付けられた提供サービス・アイテムを保有するかどうかを示すフラグ。
出荷タイプ	同じ性質の出荷のセットを示す。

表 328. 出荷条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 受入

受入条件ビルダーの属性は、返品受入の属性と同じです。

---

## 計画済みオーダー

### 計画済みオーダー実行

「計画済みオーダー実行」の条件ビルダー属性は、「オーダー・フルフィルメント」属性と同じです。

### 計画済みオーダー交渉

「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は、「オーダー交渉」属性と同じです。

---

## 返品オーダー

### 返品物流

表 329. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	返品のパッケージング方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	返品明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。

表 329. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
オーダー・タイプ	返品の種類。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	返品の出荷ステータス。
販売取り消し済み	返品が取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	返品で実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	返品の出荷先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	返品の出荷先住所のコード。
入荷ノード	返品の出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	返品の出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	返品に関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	返品の出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	返品の出荷先住所のコード。
製品属性	
製品 ID	返品明細のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	返品明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	返品の出荷先住所のタイプ。
計画的なバックオーダー	返品が、返品作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	返品の出荷先住所のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	返品の出荷先住所の分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	返品の出荷先住所のタイプ。
連鎖明細	返品明細が別の返品明細に関連付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	返品明細が別の返品明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。

表 329. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 返品出荷

返品出荷の条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

## 返品受入

受入、購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入の条件ビルダーの属性は同じです。

表 330. 返品受入の条件ビルダー属性

属性	説明
ドキュメント・タイプ	受入の伝票種別。通常値は、返品オーダーです。
エンタープライズ・コード	受入を保有するエンタープライズ・コード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	出荷品の出荷元のノード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
入荷ノード	出荷を受け取ったノード。
受入ノード・インターフェース・タイプ	オーダーに関する受入ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	受入の運賃条件。
運送会社タイプ	受入の運送会社タイプ。
危険物	このフラグは、受入に危険物があるかどうかを示します。
検査保留中	この返品に検査保留中のものがあるかどうかを示すフラグ。
受入ノードをリアルタイムに統合 (Is Receiving Node Integrated Real Time)	このフラグは、受入ノードが WMS 6.2 と統合されるか、別の WMS システムと統合されるかどうかを示します。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## テンプレート・オーダー

テンプレート・オーダーの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

## 購入オーダー

### 購入オーダー実行

表 331. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	入庫オーダー (出荷、ピックアップまたは配達) の配達方法。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	入庫オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	入庫オーダーのタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	入庫オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	入庫オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	入庫オーダーで実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	入庫オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
入荷ノード	入庫オーダーの出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	入庫オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	入庫オーダーに関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	入庫オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	入庫オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	入庫オーダー明細上のアイテムの ID。

表 331. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	入庫オーダー明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	入庫オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	入庫オーダーが、入庫オーダー作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	入庫オーダーのノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	入庫オーダーのオーダー・ソーシング分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	入庫オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細に紐付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 購入オーダー交渉

表 332. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	この入庫オーダーが通る交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	この入庫オーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	この入庫オーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	この入庫オーダーの交渉ステータス。

表 332. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	この入庫オーダーのドキュメント・タイプ。通常の値は、「購入オーダー」です。
運賃条件	この入庫オーダーの運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	この入庫オーダーの支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 入荷

「入荷」条件ビルダー属性は、「出荷」属性と同じです。

## 購入オーダー受入

購入オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

## 転送オーダー

### 転送オーダー実行

転送オーダー実行の条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

### 転送オーダー配達

転送オーダー配達条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

### 転送オーダー受入

転送オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

## マスター・オーダー・フルフィルメント

表 333. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
マスター・オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 333. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 333. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約 (reservation) が必須かどうかを示すフラグ。
関連したマスター・オーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 見積

### 見積フルフィルメント

見積フルフィルメントの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント条件ビルダー属性と同じです。

## 集合・混載実行

表 334. 集合・混載実行条件ビルダー属性

属性	説明
集合・混載タイプ	集合・混載ドキュメントのタイプ。
エンタープライズ・コード	集合・混載ドキュメント上のエンタープライズのコード。
所有者の組織コード	集合・混載ドキュメントを所有する組織のコード。
配送業者 (Carrier)	集合・混載の輸送に使用される運送会社。
運送会社サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される運送会社サービスのコード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
危険物	この集合・混載で危険物が輸送されるかどうかを示すフラグ。
出荷元ノード	集合・混載の出荷元ノード。
移動先ノード	集合・混載の出荷先のノード。
複数の集合・混載場所	追加の出荷を集合・混載または荷降ろしするために、複数の集合・混載場所を経由するかどうかを示すフラグ。

表 334. 集合・混載実行条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 一般

以下の条件ビルダーの属性は、「WMS 格納」、「WMS レイアウト定義」、「WMS 在庫」、「トレーラー積み付け」、「タスク実行」、「移動要請実行」、「積荷目録作成」、および「超過梱包作成」の属性と同一です。

表 335. 一般条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	エンタープライズのコード。
組織コード	組織のコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
供給タイプ	在庫ステータスに関連付けられた供給タイプ。代表的な値は、「手持ち在庫」、「保留」などです。
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
単位	製品の単位。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
在庫ステータス (Inventory Status)	倉庫内の在庫管理プロセスの結果に基づく、製品の在庫サブ分類。代表的な値は、「良品」(良品の在庫)、「破損品」(損傷した在庫)、「品質保留 (Qty-Hold)」(品質の保留) などです。
価格調整タイプ (Adjustment Type)	在庫調整のタイプ。代表的な値は、「循環棚卸」、「受入」、「ピッキング」、「バック」、「出荷 (Shipping)」などです。
アラート・タイプ	例外が発生したときに生成される警告のタイプです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
タスク・タイプ (Task Type)	タスクに適用可能なタスク・タイプ。代表的な値は、「受入」、「品質管理」、「棚卸 (Count)」、「補充」、「取り出し」、「格納」、「VAS」、「梱包」、「出荷」、および「ピッキング」です。
ユーザー ID に割り当て (Assigned To User ID)	タスクが割り当てられるユーザーの ID。
タスク・ステータス (Task Status)	タスクが通過するパイプライン内でのタスク・ステータス。代表的な値は、「未完了」、「提案済み」、「進行中」、「保留」、「完了」、「キャンセル」などです。

表 335. 一般条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。代表的な値は、「販売オーダー」、「購入オーダー」、「転送オーダー」、および「返品オーダー」です。
SC UI クライアントのバージョン (SC UI Client Version)	リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションのバージョン番号。
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

---

## WMS 格納

WMS 格納の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## WMS レイアウト定義

WMS レイアウト定義の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## WMS 在庫

WMS レイアウト在庫の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## トレーラー積み付け

トレーラー積み付けの条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## タスク実行

タスク実行の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

---

## 移動要請実行

「移動要請実行」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

---

## 積荷目録作成

「積荷目録作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

## 超過梱包作成

「超過梱包作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

## 棚卸実行

表 336. 棚卸実行条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	棚卸要請を作成する対象となるエンタープライズのコードです。
要請タイプ	要請される棚卸のタイプ。
棚卸プログラム名	棚卸要請を作成する対象となる棚卸プログラムの名前です。
ノード・キー	棚卸要請が処理されるノード。
ゾーン ID	棚卸を実行する必要があるゾーンです。
ロケーション・サイズ・コード	棚卸を実行する必要があるロケーションのキャパシティーです。
LPN レベル	LPN レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
ケース・レベル	ケース・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
パレット・レベル	パレット・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
アイテム・レベル	アイテム・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
解決可能	この棚卸結果の差異が解決可能かどうかを示すフラグです。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
単位	棚卸を行ったアイテムの計測単位です。
アイテム分類 1	棚卸方法を決定するための 1 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 2	棚卸方法を決定するための 2 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 3	棚卸方法を決定するための 3 番目のアイテム分類属性です。
差異あり	棚卸要請に差異があるかどうかを示すフラグです。
絶対差異あり	棚卸要請に絶対差異があるかどうかを示すフラグです。
差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の数量の差 (+/-) です。
絶対差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の絶対差です。
差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の差 (+/-) です。
絶対差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の絶対差です。
前の棚卸との差異あり	このフラグは、現在の棚卸結果と以前の棚卸結果との間の差異を表示するかどうかを示します。

表 336. 棚卸実行条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## バック・プロセス

表 337. バック・プロセス条件ビルダー属性

属性	説明
<b>ノード属性</b>	
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷元の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷元の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷元サプライヤー・コード	出荷品を出荷するサプライヤーのコード。
出荷元 DCM リアルタイム統合	出荷元のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷元の国/地域	出荷元の国または地域のコード。
出荷先の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷先の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷先サプライヤー・コード	出荷先のサプライヤーのコード。
出荷先 DCM リアルタイム統合 (Ship to DCM Integration Real Time)	出荷先のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷先の国/地域	出荷先の国または地域のコード。
<b>組織属性</b>	
エンタープライズ・コード	出荷を所有するエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
<b>出荷属性</b>	
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
運賃条件	出荷の運賃条件。
配送コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。

表 337. バック・プロセス条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
梱包して保管 (Pack And Hold)	出荷を梱包して、後日取り出せるように格納する必要があるかどうかを示すフラグ。
出荷容器棚卸	出荷での容器の数。
容器詰めされた出荷フラグ (Shipment Containerized Flag)	出荷の容器詰めの状態を示すフラグ。値「01」は容器詰めされていないこと、値「02」は容器詰め途中であること、値「03」は容器詰めが完了したことを示します。
容器属性	
出荷容器	容器が出荷に属するかどうかを示すフラグ。
集合・混載容器	容器が集合・混載の一部かどうかを示すフラグ。
在庫パレット	容器が在庫パレットかどうかを示すフラグ。
LPN から変換される	在庫容器が出荷容器に変換済みかどうかを示すフラグ。
シリアル・キャプチャー保留中	容器についてシリアル・キャプチャーが保留中かどうかを示すフラグ。
梱包プロセスが完了している	容器について保留中の梱包アクティビティがないかどうかを示すフラグ。
製品配置が完了している	システムの推奨に従った製品の容器への配置が完了したかどうかを示すフラグ。
VAS が必要	容器に付加価値サービスが必要かどうかを示すフラグ。
子容器あり	容器が、他の容器を持つ親容器かどうかを示すフラグ。
アイテム数	容器に含まれているアイテムの数。
容器タイプ	出荷容器がケースまたはパレットのいずれかを指定する属性。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 出庫ピッキング

表 338. 出庫ピッキング条件ビルダー属性

属性	説明
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
出荷グループ ID	出荷グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## VAS プロセス

表 339. VAS プロセスの条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	アイテムまたはライセンス・プレートを所有するエンタープライズのコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
ノード・キー	作業オーダーが実行されるノード。
目的 (Purpose)	作業オーダー (オーダー (ORDER) / 在庫 (STOCK) / 出荷 (SHIP)) の目的。
サービス・アイテム・グループ・コード	サービス・アイテム・グループのコード (KIT/DKIT/COMPL/INVC/PS)。
サービス製品 ID (Service Item ID)	サービス・アイテムの ID。
セグメント・タイプ	セグメントのタイプ。これは MTO (オーダー用) または MTC (顧客用) にできます。
セグメント	作業オーダー内で起動される在庫が属する先のセグメント。
コンポーネントあり	作業オーダーにコンポーネント・アイテムがあるかどうかを示すフラグ。
ステータス	作業オーダーのステータス。
事前電話ステータス	事前電話プロセスのステータスを示すフラグ。
予定ステータス	予定のステータス。これは、サービス・オーダー明細と同期しています。予定ステータスは、提供サービス作業オーダーの場合に使用されます。
試行回数	作業オーダーの実行試行回数。
予定までの時間数	サービス・アイテムの予定までに残された時間数。
予定後の時間数	サービス・アイテムの最後の予定からの時間数。
最後に実行してからの時間数	サービス実行を最後に試行してからの時間数。
前回の実行は成功しました	このフラグは、サービス実行の最後の試行が成功したかどうかを示します。
未完了作業オーダー・フラグ	作業オーダーの実行が終了したかどうかを示すフラグ。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

## 案件

### 案件フルフィルメント

表 340. 案件フルフィルメント条件ビルダー属性

属性	説明
案件属性	
案件 ID	案件の ID。
案件名 (Opportunity Name)	案件の名前。
ステータス	案件のステータス。
通貨値	案件の通貨値。
成功の確率	オーダーが案件から作成される可能性。
参加者属性	
「請求先 ID」	案件の請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する可能性のある組織のコード。
エンタープライズ・コード	案件のエンタープライズのコード。
所有者ユーザー ID	案件の所有者のユーザー ID。
共同所有者ユーザー ID	案件の共同所有者のユーザー ID。
顧客連絡先 ID	案件の顧客連絡先の ID。
チーム・コード	案件を管理するチームのコード。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

### アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

表 341. IBA 属性

属性	説明
オーダー属性	
交換タイプ	オーダーの交換タイプ。
優先コード	オーダーのカスタマイズ可能優先コード。
優先番号	オーダーの数字の優先コード。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は 0001 (販売オーダー) です。
オーダー・タイプ	オーダー分類属性。このフィールドは、レポート作成目的、またはビジネス・プロセスのモデル化のための条件作成に使用できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、このフィールドに基づくデフォルト・ロジックはありません。
入力タイプ	このオーダーの作成で使用したチャンネル。
部門コード	オーダーが発行された宛先の部門コード。

表 341. IBA 属性 (続き)

属性	説明
検索条件 1	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。
検索条件 2	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。
オーダー明細	
明細タイプ	この明細タイプは、パイプラインの決定または条件付き処理のプロセス・モデリングで使用できます。
条件変数 1	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
条件変数 2	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
出荷属性	
サービス・レベル	オーダーまたは明細のサービスのレベル。
「出荷先 ID」	出荷先の ID。バイヤー組織を表す顧客定義が、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内にある場合、出荷先 ID は顧客 ID を表すことができます。そうでない場合、出荷先 ID は、出荷先の住所の担当者 ID またはオーダーの受入ノードを表すことができます。
運送会社サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される運送会社サービスのコード。
参加者属性	
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
「請求先 ID」	オーダーの請求先となる顧客の ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Corporation*

*J46A/G4*

*555 Bailey Avenue*

*San Jose, CA 95141-1003*

*U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

**IBM** 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

**IBM** の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2012. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は、英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、米国およびその他の国における HP、IBM Corp. および Quantum の商標です。

Connect Control Center<sup>®</sup>、Connect:Direct<sup>®</sup>、Connect:Enterprise<sup>™</sup>、Gentran<sup>®</sup>、Gentran<sup>®</sup>:Basic<sup>®</sup>、Gentran:Control<sup>®</sup>、Gentran:Director<sup>®</sup>、Gentran:Plus<sup>®</sup>、Gentran:Realtime<sup>®</sup>、Gentran:Server<sup>®</sup>、Gentran:Viewpoint<sup>®</sup>、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Sterling Information Broker<sup>®</sup>、および Sterling Integrator<sup>®</sup> は、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Inc.、IBM Company の商標です。

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アクション 53, 61  
作成 62  
アクティビティ・コード  
輸送  
削除 41  
作成 39  
変更 40  
宛先 3  
「宛先 (To)」フィールド 100, 101  
アプリケーション・ルールのサイド・パネル 9  
イベント 61  
インデックス  
カタログ検索 133  
「運送会社サービスの説明」フィールド 28  
運送会社サービス・コード  
削除 29  
作成 27  
変更 29  
「運送会社サービス・コード」フィールド 28, 101  
「運送会社の付加サービスの説明 (Carrier Special Services Description)」フィールド 34  
運送会社の付加サービス・コード  
削除 35  
作成 33  
定義 33  
変更 34  
「運送会社の付加サービス・コード」フィールド 34  
運賃条件  
削除 93  
作成 91  
定義 91  
変更 92  
「運賃条件のオーバーライド」フィールド 101  
エコノミック出荷パラメーター 93  
「エコノミック出荷パラメーターを維持」フィールド 95  
エンタープライズ 2

「オーダー番号」フィールド 94

## [カ行]

「外部で管理」フィールド 96  
価格設定組織 10, 12  
「下限 (From)」フィールド 100, 101  
カタログ  
インデックス作成 133  
基本リポジトリ 54  
共通コード 63  
「国/地域」フィールド 100  
継承  
決定 10  
交渉 53  
構成画面  
アクセス 10  
「顧客 PO 番号」フィールド 94

## [サ行]

サード・パーティー物流管理モデル 2  
サービス 54  
作成  
カタログ・インデックス 133  
指示タイプ 64  
削除 64  
作成 63  
変更 64  
「システム上で有効でない出荷の集合・混載への追加を許可」フィールド 37  
集合・混載 3  
集合・混載タイプ  
削除 72  
作成 71  
変更 72  
「集約者」フィールド 100, 101  
「重量しきい値の集約上限」フィールド 95  
出荷 3, 53  
出荷計画 94  
「出荷先のオーバーライド」フィールド 101  
「出荷遅延時間の上限」フィールド 95  
出荷元 3  
条件 53, 60  
作成 60  
条件ビルダー 331  
ステータス 53, 58  
作成 59  
「ストア」フィールド 100, 101

「説明」フィールド 70  
セラー 2  
組織のルール 12  
オーバーライド 13  
別の組織のルールをロード 15  
組織レベル 10  
ルール 12

## [タ行]

停止タイプ  
変更 79  
停止場所 3  
「都道府県」フィールド 100  
トランザクション 53, 56  
作成 57  
ドロップ・ステータス 58

## [ナ行]

入荷 53  
「ノード」フィールド 101

## [ハ行]

ページ 69  
「ページ・コード」フィールド 70  
ページ・ルール 69  
変更 69  
「配送業者/サービス」フィールド 101  
配送計画 3  
パイプライン 53  
購入オーダー受入  
アクションの詳細の表示 61  
条件の詳細の表示 60  
詳細情報の表示 55  
ステータスの詳細の表示 58  
トランザクションの詳細の表示 56  
作成 56  
プロセス・タイプ 53  
パイプラインの決定 54  
バイヤー 2  
「バイヤーのルーティング・ガイドを考慮」フィールド 92  
ハブ 54  
「バルク仕分けノード」フィールド 101  
ビジネス・モデル 1  
ピックアップ・ステータス 58  
複数事業部制コーポレーション 2  
部門コード・フィールド 94

フルフィルメント 53  
プロセス・タイプ 53  
プロセス・タイプの詳細  
出荷

購入オーダー 90  
転送オーダー 90  
販売オーダー 90  
返品オーダー 90

配送

定義 90

プロセス・モデル

出荷

購入オーダー 90  
転送オーダー 90  
販売オーダー 90  
返品オーダー 90

配送

定義 90

変更コンポーネント 86

タイプ 84, 86

変更理由 44

削除 44

作成 43

変更 44

変更ルール

配送

購入オーダー 89

転送オーダー 89

販売オーダー 89

返品オーダー 89

変更 83

保持しないフィールド 95

「保持日数」フィールド 70

保留タイプ

出荷

購入オーダー 89

定義 89

転送オーダー 89

販売オーダー 89

返品オーダー 89

## [マ行]

「マーク対象 (Mark For)」フィールド  
94

マーケットプレイス 2

## [ヤ行]

「優先順位」フィールド 101

「郵便番号」フィールド 100

輸送

アクティビティ・コード 39, 40, 41

定義 39

「容積しきい値の集約上限」フィールド  
95

## [ラ行]

リポジトリ 53

料金カテゴリー

削除 68

作成 65

追加、料金名 66

変更 67

料金名の削除 67

料金名の変更 67

料金の定義 65

「ルーティングの地域スキーマ」フィールド  
ド 95

ルーティング・ガイド

削除 104

作成 96

フィールド 95

ルーティング・ガイド明細

削除 104

作成 98

定義 98

変更 98, 104

「ロールバック・セグメント」フィールド  
70

「ログ・ファイルに書き込む」フィールド  
70

「ログ・ファイル名」フィールド 70

## [数字]

「1日あたりの距離」フィールド 28

## A

Applications Manager

アクション 20

コンテキスト・ヘルプ 25

伝票種別 21

特殊文字 25

トラブルシューティング 25

日時の入力 24

ユーザー 23

リスト 23

ルックアップ 機能 21

開始 7

作業領域 16

レイアウト 7

## D

DELIVERYPLANPRG パージ・ルール

69

## L

LOADPRG パージ・ルール 69





Printed in Japan